

平成20年度文部科学省委託調査  
総合的な放課後対策推進のための調査研究

放課後子ども教室における  
学習支援の取組に関する実態調査  
報告書

平成21年3月

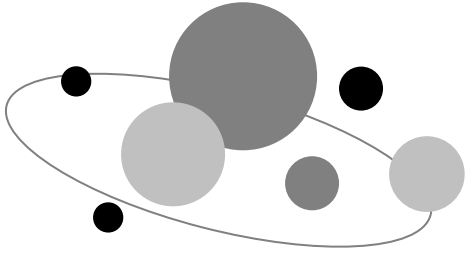
財団法人 日本システム開発研究所

# 目 次

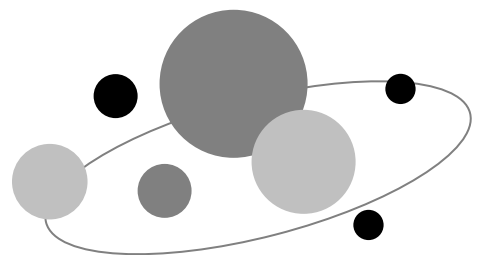
放課後子ども教室における学習支援の取組に関する実態調査	概要	.....
-----------------------------	----	-------

## 本編

第1章	本調査の概要	.....	1
1-1	本調査の趣旨及び目的	.....	1
1-2	本調査の流れ	.....	2
第2章	放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査	.....	3
2-1	アンケート調査の概要	.....	3
2-2	アンケート調査結果の概要(ポイント)	.....	4
2-3	アンケート調査の結果	.....	7
	(1)市区町村における学習アドバイザーの配置	.....	7
	(2)「放課後子ども教室」の学習支援活動と関係団体との連携状況	.....	23
	(3)放課後子ども教室における学習支援活動	.....	36
	(4)学習支援活動におけると学校との連携	.....	53
	(5)市区町村において取り組んだ学習支援活動の成果	.....	58
	(6)市区町村における学習支援活動に係る課題と今後の方向性	.....	72
第3章	放課後子ども教室における特徴的な学習支援活動の取組事例	.....	99
3-1	事例調査の概要	.....	99
3-2	〔事例1〕北海道北見市『まなびたいむ』	.....	100
3-3	〔事例2〕栃木県栃木市『どんぐり教室』	.....	108
3-4	〔事例3〕富山県立山町『北部っ子がやき広場』	.....	114
3-5	〔事例4〕鳥取県岩美町『さくらんぼキッズ』	.....	122
3-6	その他の事例	.....	126
	〔北海道函館市〕あさひ小学校放課後子ども教室「夕焼け広場」	.....	126
	〔岩手県田野畑村〕田野畑村放課後子ども教室	.....	128
	〔富山県魚津市〕子ども待機スペース交流活動推進事業	.....	130
	〔愛知県一宮市〕放課後子ども教室 キッズi未広	.....	132
	〔高知県日高村〕能津放課後子ども教室	.....	134
第4章	放課後子ども教室における今後の学習支援活動の推進に向けた課題	.....	137
	(1)放課後子ども教室における「学習活動」の捉え方	.....	137
	(2)幅広い「学習活動」を支える学習アドバイザーの確保策	.....	137
	(3)様々な学年の子どもに的確に対応する上で必要とされる資質・能力の向上	.....	138
	(4)子どもの自発的な学習活動への適切な見守りによる効果	.....	138
	(5)様々な子どもが楽しみながら取り組める学習プログラムの提供	.....	139
	(6)学校や退職教員等との連携による異学年の子どもの自学自習への的確な対応	.....	139
参考資料	.....		141



# 概 要





## 1. 本調査の趣旨

### (1) 調査の背景及び趣旨

文部科学省では、平成16年度から18年度にかけて、地域住民が主体となった子どもの居場所づくりに関する取組を推進するため「地域子ども教室推進事業」を実施してきた。「地域子ども教室推進事業実施状況調査」(平成18年3月)によると、事業に参加した子どもには社会性や積極性が増し、また学校と地域、保護者の連携も進むなど、子どもや子どもを取り巻く環境に様々な効果や変化がみられたことが明らかとなった。

こうした成果をもふまえ、文部科学省では、平成19年度からは厚生労働省と連携の下で総合的な放課後対策を推進していくため、「放課後子どもプラン」として新たに事業を開始した。同プランにおける「放課後子ども教室推進事業」では、教職を目指す大学生や退職教員等を「学習アドバイザー」として配置することが位置づけられており、放課後における子どもの居場所として学習支援を含めた多様な活動ニーズに応える取組・体制の充実が図られているところである。

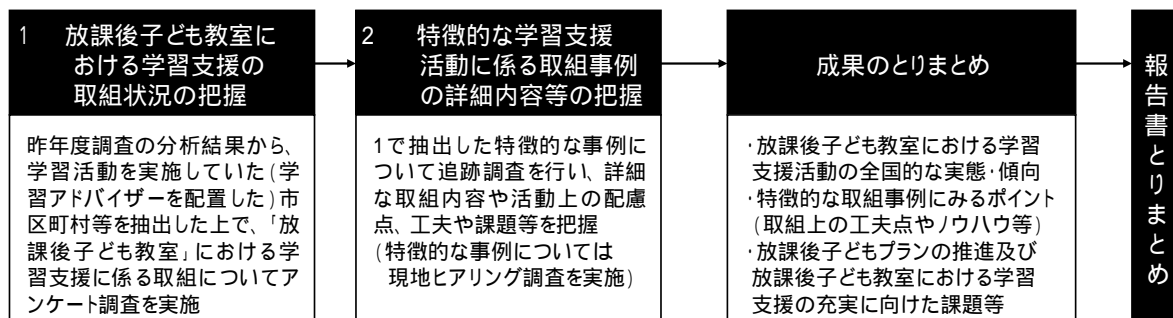
「放課後子ども教室」における学習支援は、家庭の経済力等にかかわらず、学ぶ意欲がある子どもに対して学習機会を提供することを目的としており、学校を活用した放課後の居場所づくりの中で、教職経験者などの地域の人材を活用して補習等の学習活動を取り入れることによって、子どもの学習意欲や学力の向上など様々な効果が期待される。

実際に平成19年度に実施した「放課後子どもプラン実施状況調査」(以下、「昨年度調査」という。)によれば、学習支援プログラムに参加した子どもの6割以上が、学習アドバイザーの指導は「分かりやすい」としており、また保護者からも「宿題や勉強を積極的にやるようになった」、「興味があることは自分で積極的に調べるようになった」など、子どもの学習意欲の向上をうかがわせる変化が比較的多く聞かれている。

しかし一方で、昨年度調査における行政アンケート等からは、「放課後子ども教室」を実施していた市区町村の中で学習アドバイザーを配置していない市区町村も約35%みられ、学習アドバイザー自体の確保が困難であることに加え、取組を行っていた市区町村からも、学習アドバイザーの指導分野や活動できる曜日に制限・偏りがあることなど、安定的・継続的な学習支援の取組の充実にに向けた課題が少なくないことが明らかとなった。

こうした諸点をふまえ、本調査では、昨年度調査の結果を活かし、平成19年度に学習支援の取組を実施した地域に対してアンケート調査を実施し、平成20年度における放課後子ども教室の活動実態を把握するとともに、特徴的な取組事例に対するヒアリング調査を通じて具体的な学習支援活動の方法や支援内容・体制の充実にに向けた関係主体との連携上の工夫、あるいは実際の問題点・課題等について整理し、多様な学習ニーズに応えるための取組上のポイントを把握することを目的として実施した。

### (2) 本調査の流れ



## 2. 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

### (1) 調査の対象と調査方法

各地で取り組まれている放課後子ども教室における学習支援活動に関し、具体的な学習アドバイザーの確保・配置状況や活動の内容等を把握するため、昨年度調査で放課後子ども教室において学習アドバイザーを配置していた市区町村(292団体)のうち、平成20年度においても放課後子ども教室が実施されている(実施予定を含む)276団体を調査対象として、アンケート調査を実施した。

アンケート票はエクセルファイル形式で作成し、メールにて回収した。

### (2) 調査結果のポイント

#### 学習支援活動の実施状況

・平成20年度の放課後子どもプランにおいて学習アドバイザーを配置している(予定も含む)市区町村では、1団体あたり平均8.5ヶ所の教室が開設されており、このうち学習支援活動を行っている教室は4.6ヶ所と、開設している放課後子ども教室の約半数で学習支援活動が展開されている

#### 学習アドバイザーの体制及び活動への支援

- ・学習支援活動の実施にあたり確保されている学習アドバイザーは1団体あたり平均28.2人であり、1回あたりでの人数は2.6人/回と、平均値で見れば複数体制が敷かれている
- ・学習アドバイザーには地域の高齢者と退職教職員、その他の地域住民が多く、5割近くの市区町村ではコーディネーターや安全管理員などから推薦・紹介を受けて確保している
- ・教職経験や教員免許等を必須条件としているケースはほとんどなく、活動可能な日・地域に応じて確保・配置されている
- ・学習アドバイザーの活動に対し市区町村が行っている支援としては、保険の充実や謝金の充実が多くみられるほか、活動に係る教材・資機材等の提供やスケジュールに合わせた活動日の調整、あるいは学習アドバイザー同士の情報交換や交流機会の確保などについても比較的多くの市区町村で取り組まれている
- ・こうした支援により、学習アドバイザーの指導力や活動への意欲が向上したり、活動内容に充実が図られるなどの具体的な効果がみられている事例も多い

#### 学習支援活動に係る各種団体との連携

- ・学習支援活動の実施に関して、ボランティア団体やスポーツ団体、町会といった地域の関係団体との連携を図っている市区町村は6割以上であり、具体的にはボランティアや指導補助などの人的協力のほか、学習アドバイザーとしての人材の派遣、活動フィールドの提供などにおいて連携が図られている
- ・こうした関係団体との連携のうち、特に学習アドバイザーや専門的な分野の講師の派遣等の人的支援に関する連携の体制をみると、「コーディネーターが連絡・調整の上、連携を図る」としている市区町村が約6割と最も多い
- ・また、関係団体からの人的支援の頻度については、「特定のテーマなど学習支援活動の内容に応じて派遣・支援を受けている」ケースが大部分であり、実際に派遣されている人材としては、退職教員やスポーツ団体等の指導者、そろばん塾や学習塾など子どもの指導に携わっている人などが中心となっている
- ・関係団体との連携のうち、特に学習プログラムの提供を受けているケースについて、プログラムの内容を詳しくみると、「当該団体が活動に際し作成している学習プログラム」の提供を受けている例の方が「各教室ごとの独自の学習プログラム」を作成してもらっている例よりもやや多い

#### 具体的な学習支援活動の内容

- ・各市区町村の放課後子ども教室のうち、任意の特徴的な学習支援活動について詳しく活動内容を調査した
- ・放課後子ども教室自体は小学生を中心に実施されており、対象学年についてはほぼ全ての教室で学習支援活動の対象ともなっているが、中学生対象に行われている教室は5%程度である
- ・小学生対象の学習支援活動は9割前後が学年別ではなく合同で実施されている

- ・学習支援活動の実施場所としては、学校の特別教室や余裕教室、体育館が中心となっており、放課後子ども教室の開催日には毎回学習支援活動も実施するケースが半数以上である
- ・学習支援の内容をみると、「学習支援を行う教科は決めていない」という市区町村が半数以上と最も多く、教科を決めていたり、あるいは学習アドバイザーの能力等に応じて指導教科を設定したりする市区町村は25%程度である
- ・学習支援の形態をみると、「自学自習の支援」が7割近くにのぼり、具体的には「学校の宿題の支援」が9割以上、「自主的な予習・復習の支援」が約6割となっている
- ・一方、「講義・授業」を実施している市区町村は約2割みられ、その大部分は、学習アドバイザーが各自の専門分野について独自に作成したプリントや教材を使って指導するという形式である

#### 学習支援活動における学校との連携

- ・放課後子ども教室における学習支援活動に対し学校から得ている支援・連携としては、「学習用の教室やフィールドの提供」が4割以上と最も多くみられるほか、「学習支援活動への子どもたちの参加を促進するための広報活動」や「学習支援活動を行う際の安全対策における連携」などについても比較的連携が図られている
- ・一方、学習アドバイザーと教職員との連携については、「特に連携・協力は図っていない」とする市区町村が4割以上と多いものの、子どもの様子や学習支援の状況、あるいは出欠状況等について情報共有を図ったり、子どもへの対応・指導方法を相談したりしている市区町村も2割程度みられる
- ・学習支援活動における学校との連携に関して問題となっていることや課題を聞いたところ、5割以上の市区町村が「特に問題・課題はない」としている

#### 学習支援活動の実施によりみられた効果・成果

- ・学習支援活動の実施により参加している子どもたちにみられた変化として、約3割の市区町村が「子どもの学習意欲が向上した」としているほか、「宿題の提出状況が改善した」という効果も2割近くでみられている
- ・一方、学習支援活動の実施が地域に何か効果をもたらしたかという点に関しては、「特に目立った変化や効果・成果はみられない」とする市区町村が4割以上と最も多くなっているが、「学習支援活動に関わる地域の人材・団体間の連携や活動が活発化した」とする市区町村も約2割みられる
- ・地域にみられた具体的な変化や効果として、地域でのボランティアの発掘につながったり、様々な団体の参画・協力が得られるようになったことで地域活動や学校行事が活発化したことなどが挙げられている
- ・学習アドバイザーにみられた変化としては、「教室の外でも色々な子どもに声をかけたり交流を持つなど、地域の子どもに対する意識が変わった」とする市区町村が4割近くと最も多く、次いで「本事業に対する理解が深まり、学習支援以外の活動にも協力が得やすくなった」ことや「保護者や地域の人と挨拶を交わしたり、よく話したりするようになった」ことなども比較的多くから挙げられている

#### 学習支援活動に係る課題と今後の方向性

- ・学習アドバイザーの確保に関しては、学習支援を行える資質・能力を持った人材の確保や年間を通じた安定的な人材の確保が困難という点や、学習アドバイザーが他の役割も兼任しているため忙しいという点などが課題として挙げられている
- ・学習アドバイザーに求める知識や資質・能力として、8割以上の市区町村が「子どもとの適切なコミュニケーションを図る能力」を挙げているほか、「子どもの状況変化への対応能力」についても約6割の市区町村が必要としている
- ・一方で、「学校の学習カリキュラムに関する知識」や「教科ごとの専門知識・指導技術」、「学習プリントなどの教材の作成能力」については、学習アドバイザーにはあまり求められていない
- ・学習アドバイザーの資質向上を図る上での課題としては、発達段階に応じた指導や特別な配慮を必要とする子どもへの対応など、多様な子どもが集まる中で適切かつ臨機応変に子どもと接することができるノウハウの習得が必要であり、研修の実施や交流・情報交換の場づくりを通じてこうした面での資質を高めることが必要という指摘が多くから得られた
- ・また、今後放課後子ども教室において学習支援活動を実施していく上での課題としては、学習アドバイザーをはじめとするスタッフの確保を挙げた市区町村が多く、地域や保護者、退職教員や大学生等への呼びかけを通じて人材の確保を図る必要があるとの指摘が多くから得られた
- ・放課後子ども教室で学習支援活動の今後の計画については、多くの市区町村が現在の取組を継続すると回

答したほか、現在実施している活動について、学習アドバイザーを増やし指導体制を充実させたり、指導教科・実施回数等を充実させていくことを計画している市区町村や、市区町村全域に学習支援活動を拡充・展開していくことを計画している市区町村も比較的多くみられた

・なお、今後活動を拡充していくとする中にも、市区町村の放課後子どもプラン全体の方針として全小学校区に展開していくとしている市区町村と、地域ごとのニーズをふまえ、あくまでも保護者や地域から要望が聞かれた場合に取り組んでいくとする市区町村に分かれ、学習支援活動の内容についても、いわゆる教科の指導としての学習支援活動よりも幅広く様々な体験ができるようプログラム全体を見直していくとする市区町村も一定程度みられた

### 3. 放課後子ども教室における特徴的な学習支援活動の取組事例

#### (1) 調査の対象と調査方法

各地の取組事例の中から、特徴的な学習支援活動を展開している事例について詳細内容を把握するための追跡調査を実施し、活動現場での各関係主体の活動の実態を把握するとともに、多くの地域が抱えている問題・課題に対する具体的な解決方策や取組上のヒントを整理した。

#### (2) ヒアリング調査事例の概要

##### 北海道北見市 「まなびたいむ」

- ・毎週土曜日に児童館で、元教員等の指導員が来館児童を対象にした学習支援を実施
- ・学習アドバイザーは退職教員等に呼びかけ確保しており、各児童館に1人ずつ専属で配置され、それぞれの持つスキルを活かし自由に学習プログラムを組み立てて実施
- ・プリントが終わるごとにシールを与え、数を競わせたり一定数たまったら景品と交換するなど、子どもに達成感を与え、自発的な学習活動を促す様々な工夫
- ・個別に活動を展開している学習アドバイザー同士の連携や情報共有を図るため、教育委員会が定期的に情報誌を編集・配布するとともに、学習アドバイザーが一堂に会して意見交換する場を設置

##### 栃木県栃木市 「どんぐり教室」

- ・地域住民や市民講師、市職員による様々な体験活動のほか、民間学習塾の講師の参画による学習支援活動を実施
- ・民間学習塾の講師による学習支援活動には、当該学習塾で開発された教材を使用
- ・当該学習塾は、社会貢献の一環として当事業に参画、よって学習アドバイザーとしての報酬も他の地域住民等と変わらず(540円/時間)、教室で用いる独自教材のテキスト代も特別には徴収せず、保護者から徴収する材料費(1,500円/月)の中から充当

##### 富山県立山町 「北部っ子ががやき広場」

- ・高学年と低学年とで授業終了時刻に差が生じる火・水・木曜日に、集団下校までの空き時間を活用して、低学年に対する学習支援活動を実施
- ・小学校の特別教室を活用し、高学年の授業終了までの間、地域住民が指導員として低学年の子どもの学習活動を支援
- ・基礎学力の定着を目指したプログラムとして、漢字・計算の復習を中心としたプリントを学年ごとに用意
- ・小学校の教員が活動に参加し指導員をサポートするとともに、指導員が一堂に会するスタッフ会議に小学校の教頭も参画し、指導面での意思疎通を強化

##### 鳥取県岩美町 「さくらんぼキッズ」

- ・木・金曜日に小学校の図書館司書教員が国語や算数などのプリント学習を実施
- ・教員は正規の勤務時間外に学習アドバイザーとして活動、これに加えて、他の教職員がサポートを行う場合も
- ・使用するプリントは、各学年の単元ごとの基礎的な補充プリントとして学校側が用意
- ・毎月の月末テストや県が実施している国語、算数診断テストの結果などからも、確実に学力は向上



## 4. 調査の総括

のアンケート調査及び の事例調査の結果から、今後各地域において放課後子どもプランの一環として学習支援活動に取り組む上で参考となるポイントとして、以下の諸点が把握された。

### (1) 放課後子ども教室における「学習活動」の捉え方

・放課後子ども教室において学習支援活動に取り組んでいる市区町村の多くは、放課後子ども教室における「学習活動」を、授業や学習塾のように机に向かって国語・算数等の教科を勉強することに限定せず、様々な体験活動やスポーツ活動なども広い意味で「学習」と捉えていることが把握された。

### (2) 幅広い「学習活動」を支える学習アドバイザーの確保策

・多彩な活動プログラムの実施においては、人材バンク等の活用や地域の団体や大学・高校等への呼びかけなどにより様々な特技・知識を持った地域の人材を確保・活用することが有効である。

・ただし、実際の活動にあたっては、異学年の子どもを対象としているため、子どもとのコミュニケーション能力や子どもの状況変化への的確な対応能力などが求められることから、必要な研修の受講を支援したり、悩みやその解決策について意見交換できる場を設けたりすることにより、学習アドバイザーとしての資質向上を図っていくことが重要である。

### (3) 子どもの自発的な学習活動への適切な見守りによる効果

・一方、机に向かう「学習」活動としても、学習アドバイザーが講師として授業形式で行う例はあまり多くなく、子どもの自発性に任せた予習・復習や宿題などの自学自習を指導員等が見守るというケースが一般的であった。

・このような自学自習の見守りを中心とした学習支援活動では、学習する内容自体は子どもや保護者の判断に任せているケースが多いため、特定の教科の学力向上に繋がるような直結的な成果は得にくい。

・しかし、実際に学習支援活動に取り組んでいる市区町村の約3割で、子どもの学習意欲の向上が実感されていることから、指導員等が見守りながら子どもの自発的な学習活動を促すことにより、『学びの姿勢』を身につけさせることができるという点において、学習支援活動の有効性が示されたといえる。

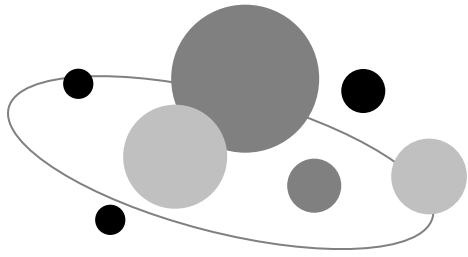
### (4) 学校や退職教員等との連携による異学年の子どもの自学自習への的確な対応

・学習支援活動は、全国的には小学生の各学年を対象に幅広く実施されており、学習アドバイザーには、見守りとはいえ各学年ごとの習熟度等に応じた的確な指導ができる能力が求められることから、こうした活動にあたる学習アドバイザーとしては主に退職教員を中心に確保が図られている実態も明らかとなった。

・退職教員以外にも地域住民等が学習アドバイザーとして活動している例はあるが、その際には、教職員が活動に参加して学習アドバイザーをサポートしたり、学校側が各学年ごとの補助プリントを作成したりといった連携が図られていた。

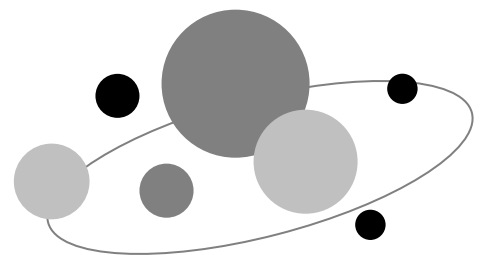
・このため、地域住民や保護者等が中心となって学習支援活動を展開する際には、必要な情報や協力が得られるよう日頃から学校との連携を密にすることが重要である。





# 第1章

## 本調査の概要





## 1 - 1 . 本調査の趣旨及び目的

文部科学省では、平成16年度から18年度にかけて、地域住民が主体となった子どもの居場所づくりに関する取組を推進するため「地域子ども教室推進事業」を実施してきた。「地域子ども教室推進事業実施状況調査」(平成18年3月)によると、事業に参加した子どもには社会性や積極性が増し、また学校と地域、保護者の連携も進むなど、子どもや子どもを取り巻く環境に様々な効果や変化がみられたことが明らかとなった。

こうした成果をもふまえ、文部科学省では、平成19年度からは厚生労働省と連携の下で総合的な放課後対策を推進していくため、「放課後子どもプラン」として新たに事業を開始した。同プランにおける「放課後子ども教室推進事業」では、教職を目指す大学生や退職教員等を「学習アドバイザー」として配置することが位置づけられており、放課後における子どもの居場所として学習支援を含めた多様な活動ニーズに応える取組・体制の充実が図られているところである。

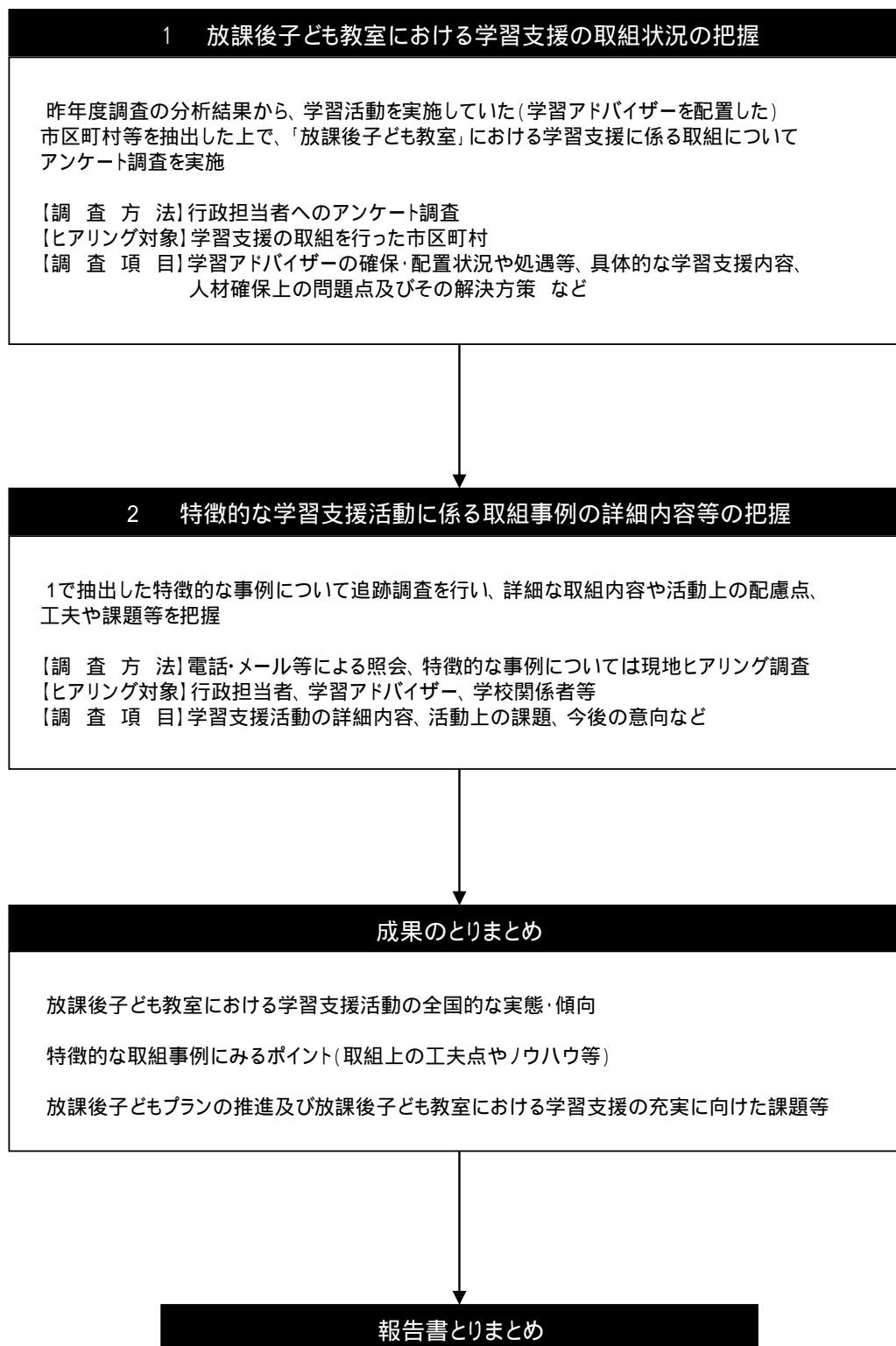
「放課後子ども教室」における学習支援は、家庭の経済力等にかかわらず、学ぶ意欲がある子どもに対して学習機会を提供することを目的としており、学校を活用した放課後の居場所づくりの中で、教職経験者などの地域の人材を活用して補習等の学習活動を取り入れることによって、子どもの学習意欲や学力の向上など様々な効果が期待される。

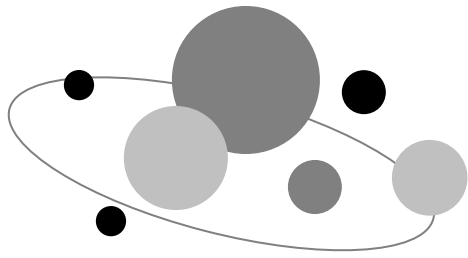
実際に平成19年度に実施した「放課後子どもプラン実施状況調査」(以下、「昨年度調査」という。)によれば、学習支援プログラムに参加した子どもの6割以上が、学習アドバイザーの指導は「分かりやすい」としており、また保護者からも「宿題や勉強を積極的にやるようになった」、「興味があることは自分で積極的に調べるようになった」など、子どもの学習意欲の向上をうかがわせる変化が比較的多く聞かれている。

しかし一方で、昨年度調査における行政アンケート等からは、「放課後子ども教室」を実施していた市区町村の中で学習アドバイザーを配置していない市区町村も約35%みられ、学習アドバイザー自体の確保が困難であることに加え、取組を行っていた市区町村からも、学習アドバイザーの指導分野や活動できる曜日に制限・偏りがあることなど、安定的・継続的な学習支援の取組の充実に向けた課題が少なくないことが明らかとなった。

こうした諸点をふまえ、本調査では、昨年度調査の結果を活かし、平成19年度に学習支援の取組を実施した地域に対してアンケート調査を実施し、平成20年度における放課後子ども教室の活動実態を把握するとともに、特徴的な取組事例に対するヒアリング調査を通じて具体的な学習支援活動の方法や支援内容・体制の充実に向けた関係主体との連携上の工夫、あるいは実際の問題点・課題等について整理し、多様な学習ニーズに応えるための取組上のポイントを把握することを目的として実施した。

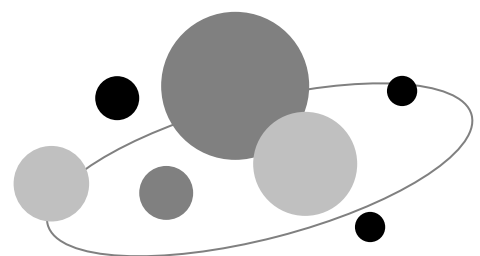
1 - 2 . 本調査の流れ





## 第2章

# 放課後子ども教室における 学習支援の取組状況に関する 実態調査







## 2 - 1 . アンケート調査の概要

### (1) 調査の趣旨及び目的

平成19年度から新たに開始された「放課後子どもプラン」における「放課後子ども教室推進事業」では、教職を目指す大学生や退職教員等を「学習アドバイザー」として配置することが位置づけられており、実際に放課後子どもプランとして放課後子ども教室を実施している市区町村のうち約7割で学習アドバイザーが配置されていることが昨年度調査から明らかとなった。

本調査では、各地で取り組まれている放課後子ども教室における学習支援活動に関し、具体的な学習アドバイザーの確保・配置状況や活動の内容等を把握するため、学習アドバイザーを配置している市区町村に対してアンケート調査を実施した。

### (2) 調査の対象

昨年度調査の回答団体のうち、放課後子ども教室において学習アドバイザーを配置していた市区町村は292団体であった。これらの団体について平成20年度の放課後子どもプランの実施状況と照合の上、平成20年度においても放課後子ども教室が実施されている(実施予定を含む)276団体を調査対象とした。

### (3) 調査の方法・時期

#### 調査方法

アンケート票はエクセルファイル形式で作成した。

調査対象団体の放課後子ども教室担当部課に対し、HPからダウンロードする形式でアンケート票を配布し、回答はエクセルファイルに直接入力してもらい、メールにてファイル添付により回収した。

#### 調査時期

平成20年11月～平成21年1月

### (4) 調査項目

市区町村における学習アドバイザーの配置

「放課後子ども教室」の学習支援活動と関係団体との連携状況

放課後子ども教室における学習支援活動

放課後子ども教室における学習支援活動と学校との連携

市区町村において取り組んだ学習支援活動の成果

市区町村における学習支援活動に係る課題と今後の方向性

### (5) 回収状況

アンケートの回収状況は以下のとおりである。

配布数； 276件

回収数； 183件

回収率； 66.3%

### 2 - 2 . アンケート調査結果の概要 (ポイント)

アンケート調査の主な結果を以下に示す。

#### 学習支援活動の実施状況

- ・平成20年度の放課後子どもプランにおいて学習アドバイザーを配置している(予定も含む)市区町村では、1団体あたり平均8.5ヶ所の教室が開設されており、このうち学習支援活動を行っている教室は4.6ヶ所と、開設している放課後子ども教室の約半数で学習支援活動が展開されている

#### 学習アドバイザーの体制及び活動への支援

- ・学習支援活動の実施にあたり確保されている学習アドバイザーは1団体あたり平均 28.2 人であり、1回あたりでの人数は2.6人/回と、平均値で見れば複数体制が敷かれている
- ・学習アドバイザーには地域の高齢者と退職教職員、その他の地域住民が多く、5割近くの市区町村ではコーディネーターや安全管理員などから推薦・紹介を受けて確保している
- ・教職経験や教員免許等を必須条件としているケースはほとんどなく、活動可能な日・地域に応じて確保・配置されている
- ・学習アドバイザーの活動に対し市区町村が行っている支援としては、保険の充実や謝金の充実が多くみられるほか、活動に係る教材・資機材等の提供やスケジュールに合わせた活動日の調整、あるいは学習アドバイザー同士の情報交換や交流機会の確保などについても比較的多くの市区町村で取り組まれている
- ・こうした支援により、学習アドバイザーの指導力や活動への意欲が向上したり、活動内容に充実が図られるなどの具体的な効果がみられている事例も多い

#### 学習支援活動に係る各種団体との連携

- ・学習支援活動の実施に関して、ボランティア団体やスポーツ団体、町会といった地域の関係団体との連携を図っている市区町村は6割以上であり、具体的にはボランティアや指導補助などの人的協力のほか、学習アドバイザーとしての人材の派遣、活動フィールドの提供などにおいて連携が図られている
- ・こうした関係団体との連携のうち、特に学習アドバイザーや専門的な分野の講師の派遣等の人的支援に関する連携の体制をみると、「コーディネーターが連絡・調整の上、連携を図る」としている市区町村が約6割と最も多い
- ・また、関係団体からの人的支援の頻度については、「特定のテーマなど学習支援活動の内容に応じて派遣・支援を受けている」ケースが大部分であり、実際に派遣されている人材としては、退職教員やスポーツ団体等の指導者、そろばん塾や学習塾など子どもの指導に携わっている人などが中心となっている
- ・関係団体との連携のうち、特に学習プログラムの提供を受けているケースについて、プログラムの内容を詳しくみると、「当該団体が活動に際し作成している学習プログラム」の提供を受けている例の方が「各教室ごとの独自の学習プログラム」を作成してもらっている例よりもやや多い

#### 具体的な学習支援活動の内容

- ・各市区町村の放課後子ども教室のうち、任意の特徴的な学習支援活動について詳しく活動内容を調査した
- ・放課後子ども教室自体は小学生を中心に実施されており、対象学年についてはほぼ全ての教室で学習支援活動の対象ともなっているが、中学生対象に行われている教室は5%程度である

- ・小学生対象の学習支援活動は9割前後が学年別ではなく合同で実施されている
- ・学習支援活動の実施場所としては、学校の特別教室や余裕教室、体育館が中心となっており、放課後子ども教室の開催日には毎回学習支援活動も実施するケースが半数以上である
- ・学習支援の内容をみると、「学習支援を行う教科は決めていない」という市区町村が半数以上と最も多く、教科を決めていたり、あるいは学習アドバイザーの能力等に応じて指導教科を設定したりする市区町村は25%程度である
- ・学習支援の形態をみると、「自学自習の支援」が7割近くにのぼり、具体的には「学校の宿題の支援」が9割以上、「自主的な予習・復習の支援」が約6割となっている
- ・一方、「講義・授業」を実施している市区町村は約2割みられ、その大部分は、学習アドバイザーが各自の専門分野について独自に作成したプリントや教材を使って指導するという形式である

### 学習支援活動における学校との連携

- ・放課後子ども教室における学習支援活動に対し学校から得ている支援・連携としては、「学習用の教室やフィールドの提供」が4割以上と最も多くみられるほか、「学習支援活動への子どもたちの参加を促進するための広報活動」や「学習支援活動を行う際の安全対策における連携」などについても比較的連携が図られている
- ・一方、学習アドバイザーと教職員との連携については、「特に連携・協力は図っていない」とする市区町村が4割以上と多いものの、子どもの様子や学習支援の状況、あるいは出欠状況等について情報共有を図ったり、子どもへの対応・指導方法を相談したりしている市区町村も2割程度みられる
- ・学習支援活動における学校との連携に関して問題となっていることや課題を聞いたところ、5割以上の市区町村が「特に問題・課題はない」としている

### 学習支援活動の実施によりみられた効果・成果

- ・学習支援活動の実施により参加している子どもたちにみられた変化として、約3割の市区町村が「子どもの学習意欲が向上した」としているほか、「宿題の提出状況が改善した」という効果も2割近くでみられている
- ・一方、学習支援活動の実施が地域に何か効果をもたらしたかという点に関しては、「特に目立った変化や効果・成果はみられない」とする市区町村が4割以上と最も多くなっているが、「学習支援活動に関わる地域の人材・団体間の連携や活動が活発化した」とする市区町村も約2割みられる
- ・地域にみられた具体的な変化や効果として、地域でのボランティアの発掘につながったり、様々な団体の参画・協力が得られるようになったことで地域活動や学校行事が活発化したことなどが挙げられている
- ・学習アドバイザーにみられた変化としては、「教室の外でも色々な子どもに声をかけたり交流を持つなど、地域の子どもの意識が変わった」とする市区町村が4割近くと最も多く、次いで「本事業に対する理解が深まり、学習支援以外の活動にも協力が得やすくなった」ことや「保護者や地域の人と挨拶を交わしたり、よく話したりするようになった」ことなども比較的多くから挙げられている

### 学習支援活動に係る課題と今後の方向性

- ・学習アドバイザーの確保に関しては、学習支援を行える資質・能力を持った人材の確保や年間を通じた安定的な人材の確保が困難という点や、学習アドバイザーが他の役割も兼任しているため忙しいという点などが課題として挙げられている
- ・学習アドバイザーに求める知識や資質・能力として、8割以上の市区町村が「子どもとの適切なコミュニケーションを図る能力」を挙げているほか、「子どもの状況変化への対応能力」についても約6割の市区町村が必要としている
- ・一方で、「学校の学習カリキュラムに関する知識」や「教科ごとの専門知識・指導技術」、「学習プリントなどの教材の作成能力」については、学習アドバイザーにはあまり求められていない
- ・学習アドバイザーの資質向上を図る上での課題としては、発達段階に応じた指導や特別な配慮を必要とする子どもへの対応など、多様な子どもが集まる中で適切かつ臨機応変に子どもと接することができるノウハウの習得が必要であり、研修の実施や交流・情報交換の場づくりを通じてこうした面での資質を高めることが必要という指摘が多くから得られた
- ・また、今後放課後子ども教室において学習支援活動を実施していく上での課題としては、学習アドバイザーをはじめとするスタッフの確保を挙げた市区町村が多く、地域や保護者、退職教員や大学生等への呼びかけを通じて人材の確保を図る必要があるとの指摘が多くから得られた
- ・放課後子ども教室で学習支援活動の今後の計画については、多くの市区町村が現在の取組を継続すると回答したほか、現在実施している活動について、学習アドバイザーを増やし指導体制を充実させたり、指導教科・実施回数等を充実させていくことを計画している市区町村や、市区町村全域に学習支援活動を拡充・展開していくことを計画している市区町村も比較的多くみられた
- ・なお、今後活動を拡充していくとする中にも、市区町村の放課後子どもプラン全体の方針として全小学校区に展開していくとしている市区町村と、地域ごとのニーズをふまえ、あくまでも保護者や地域から要望が聞かれた場合に取り組んでいくとする市区町村に分かれており、学習支援活動の内容についても、いわゆる教科の指導としての学習支援活動よりも幅広く様々な体験ができるようプログラム全体を見直していくとする市区町村も一定程度みられた

2 - 3 . アンケート調査の結果

(1) 市区町村における学習アドバイザーの配置

平成20年度における「放課後子ども教室」の開設ヶ所数と1回あたりの参加者数

平成20年度(平成20年9月実績)において、各市区町村で開設されている「放課後子ども教室」の開設ヶ所数をみると、平均8.5ヶ所となっている。また、平成20年度に開催された「放課後子ども教室」の1回あたりの子どもの参加者数については平均29.6人であり、最大83.9人、最小12.1人となっている。

また、開設されている「放課後子ども教室」のうち、学習支援活動を実施している教室について、教室数をみると、平均4.6ヶ所となっている。また、1回あたりの学習支援活動への子どもの参加者数については平均17.9人であり、最大38.9人、最小8.3人となっている。

		放課後子ども教室	うち学習支援活動実施教室
開設ヶ所数		8.5ヶ所	4.6ヶ所
1回あたりの子どもの参加者数	最大	83.9人/回	38.9人/回
	最小	12.1人/回	8.3人/回
	平均	29.6人/回	17.9人/回

学習アドバイザーの登録数と1回あたりの参加人数

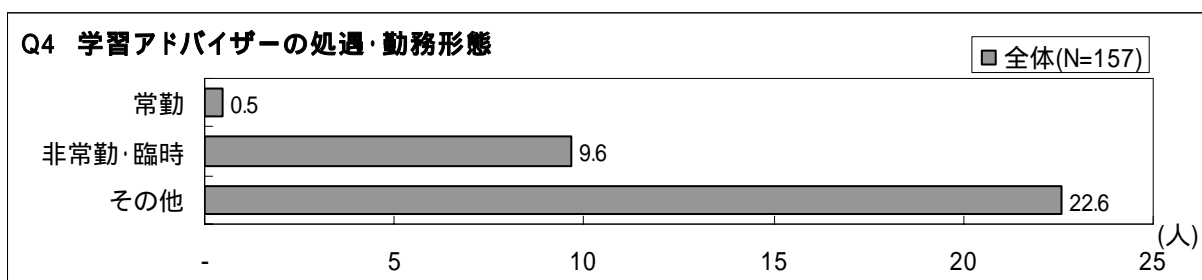
各市区町村において「放課後子ども教室」を開催するにあたり、登録されている学習アドバイザーについて、その平均人数をみると、1団体あたり平均28.2人となっている。

また、1回あたりの学習支援活動に関わる学習アドバイザーの人数については1団体平均2.6人であり、最大で4.1人、最小で1.8人となっている。

	登録者数	1回あたりの配置人数		
		最大	最小	平均
1団体平均	28.2人	4.1人/回	1.8人/回	2.6人/回

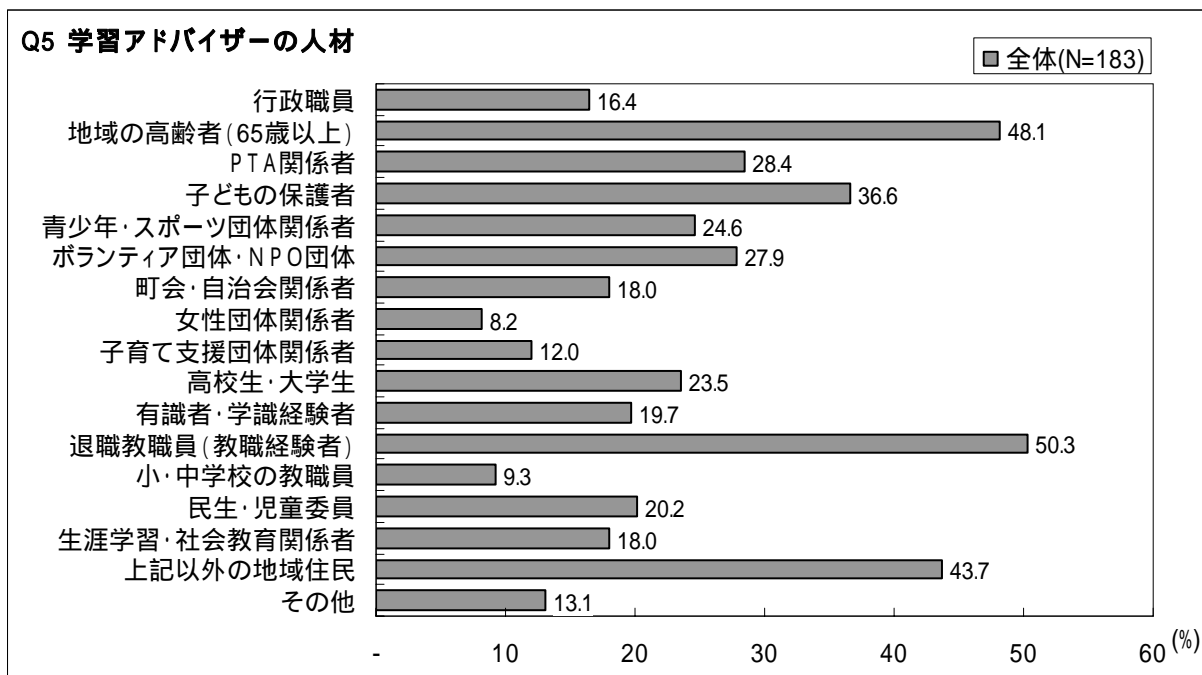
採用・配置している学習アドバイザーの処遇・勤務形態

採用・配置している学習アドバイザーについて、処遇・勤務形態別に人数をみると、「常勤」は平均0.5人と少なく、「非常勤・臨時」は平均9.6人、「その他」が平均22.6人となっている。



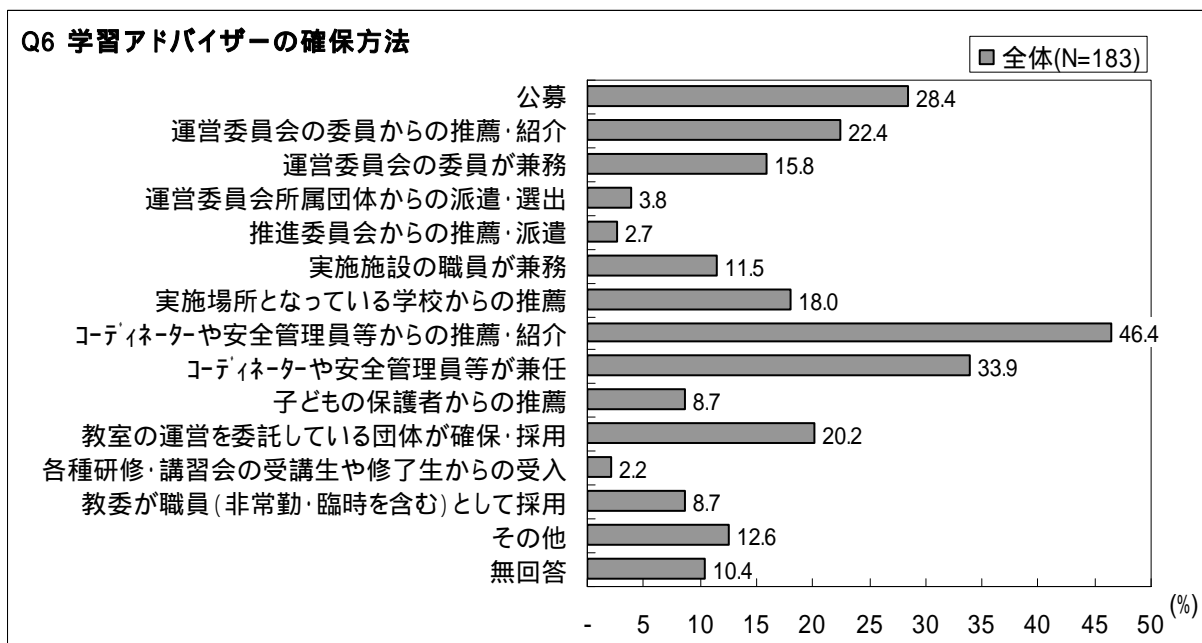
参加している学修アドバイザーの人材

どのような人材が学習アドバイザーとして参加しているかをみると、「退職教職員(教職経験者)」が最も多く、50.3%にのぼっている。次いで、「地域の高齢者(65歳以上)」が48.1%、「上記以外の地域住民」が43.7%と4割を超えているほか、「子どもの保護者」が学習アドバイザーとして参加しているケースも36.6%と比較的高い割合となっている。



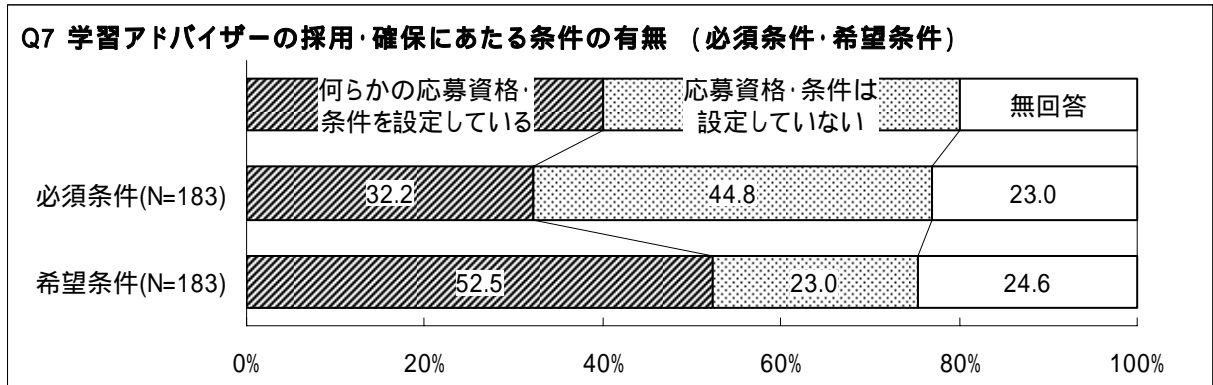
学習アドバイザーを確保する方法

学習アドバイザーをどのように確保しているかをみると、「コーディネーターや安全管理員等からの推薦・紹介」が最も多く、46.4%となっている。次いで、「コーディネーターや安全管理員等が兼務」が33.9%、「公募」が28.4%と3割近くにのぼっている。



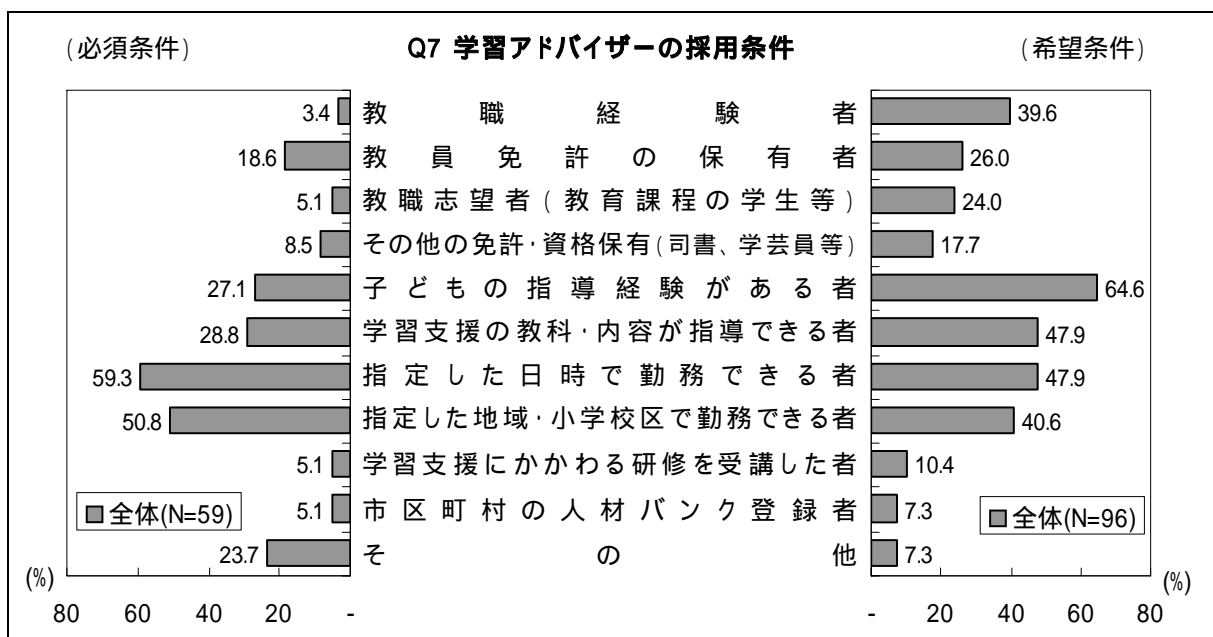
学習アドバイザーの採用に関する応募資格・条件の設定状況

学習アドバイザーを確保・採用するにあつての条件設定について、必ず満たす必要がある条件(必須条件)、及び有していることが望ましいとされている条件(希望条件)それぞれをみると、必須条件については何らかの応募資格・条件を設定している市区町村は32.2%であり、5割近くは必須の応募条件は設定していないとしている。一方、希望条件についてみると、何らかの応募資格・条件を設定している市区町村は52.5%と半数を超えている。



応募にあたり何らかの条件を設定している市区町村について、設定している必須・希望条件の具体的な内容をみると、必須条件については「指定した日時で勤務できる者」が59.3%と最も多く、次いで「指定された地域・小学校区で勤務できる者」が50.8%と半数を超え、この2条件が突出している。一方、希望条件については「子どもの指導経験がある者」が64.6%と最も高く、次いで「学習支援の教科・内容が指導できる者」及び「指定した日時で勤務できる者」がそれぞれ47.9%となっているほか、「指定された地域・小学校区で勤務できる者」(40.6%)や「教職経験者」(39.6%)も4割前後と比較的高い割合となっている。

必須条件と希望条件とで上位項目を比較すると、「指定した日時で勤務できる者」及び「指定された地域・小学校区で勤務できる者」はいずれも比較的多くの市区町村で設定されているが、学習アドバイザーの指導経験や資質に関する内容(「子どもの指導経験がある者」、「学習支援の教科・内容が指導できる者」及び「教職経験者」)については、希望条件としては高いが必須条件としてはあまり設定されていない。



学習アドバイザー募集の際の工夫や配慮等

学習アドバイザーを確保するために行われている募集の際の工夫や配慮等について、具体的な取組内容やその成果等を照会したところ、125団体から170件の回答が得られた。

記述内容から分類すると、様々な地域団体や運営委員会等との連携により学習アドバイザーを確保している例が最も多く、これに次いで退職教員など教職経験者に依頼しているケースや、広報などによる公募を行い確保しているケース、あるいはコーディネーターや学習アドバイザー経験者からの紹介により確保しているケースなどが多くなっている。

主な回答は以下の表のとおりである。

Q8 学習アドバイザー募集の際の工夫や配慮	回答事例数	回答事例に対する割合	回答団体(N=125)に対する割合
全体(N)	170	100.0%	-
各種地域団体・運営委員会等との連携	38	22.4%	30.4%
教職経験者に依頼	35	20.6%	28.0%
広報などによる公募	26	15.3%	20.8%
コーディネーターや学習アドバイザー経験者による紹介	23	13.5%	18.4%
ボランティア経験者による口コミ・紹介	22	12.9%	17.6%
説明会・講座の実施	10	11.2%	15.2%
大学に依頼	10	5.9%	8.0%
公民館より依頼	5	5.9%	8.0%
その他	19	2.9%	4.0%
特になし	12	7.1%	9.6%

学習アドバイザーを確保するために行われている募集の際の工夫や配慮（自由記述回答より）

都道府県	市区町村	学習アドバイザー募集の際の工夫や配慮
北海道	砂川市	社会教育事業が把握している適任者に依頼している。
北海道	寿都町	町広報誌や子ども教室事業周知案内に募集の記載。 地域の情報を得て、一本釣り及び社会教育委員等からの声かけなど。
北海道	東川町	退職された先生や、体育指導されている方を通して指導員を紹介してもらった。
北海道	豊富町	小中学校教諭を退職された方で、地元に住居(持ち家)している方をお願いする。また、積極的に地域活動に参加されている方。
北海道	大空町	広報やチラシで全町民に放課後子ども教室のスタッフの募集をし、応募してくれた方で教職経験者の方に学習アドバイザーをお願いした。
北海道	釧路町	近隣大学のボランティア部に出向き、趣旨を理解のうえ連携協力を行っている。
青森県	五戸町	町広報紙や子ども教室情報紙により募集。 子ども教室に登録している学習アドバイザーや安全管理員からの推薦により任用。
岩手県	花巻市	小学校PTA総会に出向き、保護者に事業の内容を説明するとともに、アドバイザー等の募集の声かけを実施。 従来から協力いただいている学習アドバイザーや安全管理員、コーディネーターの方から、知り合いの方に声かけをしていただいている。
岩手県	一関市	開催する施設で、利用者や関係者にチラシを配る。
岩手県	釜石市	安全管理員と兼務にすることで子ども達を見守りながら勉強も教えられる体制とした。



## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	学習アドバイザー募集の際の工夫や配慮
岩手県	奥州市	地域住民で組織されている団体へ教室運営を委託しているため、地域の退職教職員等の学習アドバイザーの適任者へ地域の中で声かけし、参加してもらっている。
岩手県	平泉町	これまでに協力いただいたアドバイザーに声をかけていただき、新しく協力いただけるような人材を捜している。
宮城県	白石市	地域の皆さんにまかせた結果、活動スタッフが増えてきた。その中に特技をお持ちの方がいることがわかった。
宮城県	岩沼市	市広報紙で募集した。
秋田県	由利本荘市	退職校長会の会議の際に事業の趣旨を説明し、協力いただける方を募集。
山形県	酒田市	公民館長を通して募った。
山形県	白鷹町	教員免許を保有している方を、地域及び放課後子ども教室開催校から紹介をしていただき委嘱している。
福島県	相馬市	現在活動中の安全管理員などに、地域の中から適任の方に声をかけていただき、協力を呼びかけている。
福島県	相馬市	コーディネーターや当市のボランティアコーディネーターへ人材集めを依頼し、積極的に退職教職員等に声をかけてもらっている。
福島県	本宮市	「英語で遊ぼう」という活動プログラムでは、地域で個人の英語塾を開設されている方に、また「おはなし会」という活動プログラムでは、地域で活動している図書ボランティア3団体をお願いした。
茨城県	結城市	公募や口コミにより勧誘を行い、興味のある方には事前に活動日時を案内し、見学を行なったうえで、スタッフとして採用している。また、見学の際、活動の得意分野を聞き、可能な限りプログラムに取り入れている。
栃木県	栃木市	市民講師として市に登録されている方の中で、子ども向けの講座を行える方をお願いした。また教育研究所の所員になっている、臨床心理士の資格をもつ地元短大の先生をお願いするとともに、短大の初等教育科の学生にも、先生を通じてお願いした。
栃木県	さくら市	子どもの保護者で指導経験のある方に呼びかけし、協力をお願いした。 家庭教育活動をしている方に協力をお願いした。
埼玉県	所沢市	学校や運営委員会の推薦を重視し、地域の状況にも明るい方をお願いするようにしている。
埼玉県	越谷市	広報等での公募や大学へ訪問し依頼、コーディネーターの方からの声かけ等。 各種団体の総会や役員会へ出席し依頼。生涯学習関係講座へ募集チラシ配布等。
埼玉県	蕨市	市の広報や各小学校実行委員会において募集した。
埼玉県	新座市	事業立ち上げの際に、青少年育成団体、体育指導員、教職員、人材バンク登録者等をお願いし、以降は御協力いただけた方に引き続きお願いしている。
千葉県	木更津市	実施地域の実情に合わせて各教室に任せている。
千葉県	東金市	既に活動されている学習アドバイザーの方をお願いし、知り合いの退職教職員に声をかけてもらった。
千葉県	柏市	市広報で募集、応募者対象に面接し採用した。 実施校から地域住民(保護者、P A役員、学校支援人材バンク等)に声をかけてもらい確保した。
千葉県	鴨川市	地域の退職された方などに運営委員をお願いしている。
千葉県	富里市	登録アドバイザー(外国人)に、事業説明した際に、知り合いの外国人にも事業の紹介を依頼した。
東京都	中央区	区広報紙やホームページで周知し、非常勤職員として公募、採用している。
東京都	文京区	事業受託団体(NPO 法人)職員のクチコミ等
東京都	世田谷区	行政での公募が原則だが、コーディネーター等の方からの紹介で声がかかることもある。
東京都	豊島区	区内の大学に募集のチラシの配布を依頼し、声をかけてもらった。
東京都	八王子市	各小学校地区放課後子ども教室推進委員会ごとに各地区の実情に応じて確保している。
東京都	日野市	子どもたちに、昔遊び・物づくりや学び等・文化・芸術・スポーツの分野で指導できる方を、公募若しくは推薦により募集。

## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	学習アドバイザー募集の際の工夫や配慮
東京都	東大和市	学習アドバイザーの簡単な役割を説明して、市報や説明会で募集。
東京都	清瀬市	コーディネーターが退職教員のため、その口コミでお願いするケースが多い。応募者に対しては、面談を行い、意思確認等を必ず行っている。
東京都	あきる野市	学習アドバイザーを体験アドバイザーとして活用しており、実行委員会、コーディネーター等関係者からの希望や推薦で決定し、事務局が交渉を行い、事業を実施している。
神奈川県	藤沢市	実施小学校の校長経験者で、すでに退職した方にお話し、知り合いの中で、採用条件を満たす方を紹介してもらった。
新潟県	長岡市	各子ども教室の関係者が地域住民に声掛けをしたり、コミュニティセンター利用団体に子どもの受け入れや指導を依頼している。
新潟県	柏崎市	実施を委託している地域自治会に依頼し、地域住民の中から確保している。
新潟県	上越市	社会教育指導員として市の社会教育現場を経験し、子ども教室設置の経緯等にも詳しい方に声を掛け、学習アドバイザー兼放課後子ども教室全体のコーディネーターに就任してもらった。 地域への周知拡大も兼ねて、子どもの送り迎えに来た保護者へアドバイザー募集のチラシを配布している。
富山県	射水市	小学校やコーディネーター、またはこれまで携わってきた指導員を通じ、地域の子どものためにボランティアとして進んで関わってくれそうな方に声をかけてきた。
富山県	上市町	地区公民館に募集要項の掲示を行った。
富山県	立山町	現在参加いただいている学習アドバイザーから推薦をもらい、コーディネーターが参加を依頼した。 学校からのたよりで、アドバイザーを募集した。また、PTA の会合の場で事業の主旨を説明し、参加やアドバイザーの紹介を依頼した。
富山県	朝日町	小中学校教員を退職された方で、地域で生涯学習活動に取り組んでおられる方で直接教育委員会より依頼した。 地域で各種活動しておられる個人、団体へメニューごとの講師を教育委員会から直接依頼した。
福井県	池田町	退職教員の会 / 女性団体 / 民生委員 / 老人クラブ / GB協会 / 文化協議会 / 絵画・造形家多くの団体より声かけいただいでできることをできるときに参加協力いただいている。様々な体験活動が展開されている。 地元のイベントに参加作品の協力。文化財の学習。お茶教室。絵画教室。かるた、碁。専門的知識の体験をしたり、地域にある素材を(人も物も)活かした教室の企画をしている。
長野県	駒ヶ根市	地域からの情報で指導できるかたを、口コミあるいは募集している。 以前・または現在、スポーツ少年団の指導者として登録されている方に直接依頼してお願いしている。
岐阜県	羽島市	当該学校のラーニングサポーターの方に学習アドバイザーになってもらうことで、学校の行事や子どもの生活・健康に関する情報をタイムリーに、また正確に収集することができた。
岐阜県	坂祝町	学習指導力以前に、子どもの取り組みを共感的に理解して、明るく指導できる人間性を重視している。よって、公募せず、コーディネーターや指導員から推薦された地域のよい人材を教育委員会から声をかけて登録して頂いている。
静岡県	磐田市	小学校・中学校教諭を退職された方で、地域で学校教育に協力してくださっている団体をお願いしている。
愛知県	一宮市	教育委員会と連携を図ったほか、退職教員間の口コミの情報の収集にあたった。
愛知県	春日井市	広報での募集や小中学校の保護者に対して募集の案内を行った。
愛知県	西尾市	教諭退職者には、直接電話を入れて協力の意向を聞く。
愛知県	知多市	市民大学や公民館講座で講師を務めている方に声をかけた。 安全管理員や、その知り合いに推薦してもらった。
愛知県	小坂井町	一定の知識と技術を持つ方を、町の先生として募集・登録し、その中から希望者を募る。
三重県	木曽岬町	公民館で開催されている各種サークルの代表者に対して、放課後子ども教室の趣旨を説明し、参加者を募った。

## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	学習アドバイザー募集の際の工夫や配慮
京都府	城陽市	市町村を管轄している教育局に学生ボランティアの近隣配属校について問い合わせた。直接、中学校に事業説明をし、アドバイザーとして登録してもらった。大学にもボランティアの学生について問い合わせたが、確保することはできなかった。
京都府	城陽市	実施している小学校長から、地域で活躍されている民生委員やPTA関係者に声をかけてもらって、確保することができた。
京都府	長岡京市	市の広報紙で広く事業の趣旨等を周知し、協力者についても募集した。 学校長に紹介を依頼したり、図書館主催の朗読ボランティア養成講座等において協力を呼び掛けたりした。
京都府	南丹市	実施地区の小学校や地域振興会と連携し、子どもの指導の経験のある方の人材発掘を行っている。
京都府	木津川市	実施校の「学校だより」に募集記事を掲載いただき、保護者・地域へ啓発した。「学校だより」は、自治会を通じて校区地域へ回覧されるため、保護者以外の家庭にも周知が図れる利点がある。 また、実施校で年度当初に行われる「学校説明会」において「事業説明会」の時間を設けていただき、事業のプレゼンテーションを行った。事業への入会案内にあわせて、スタッフの募集の呼びかけもでき、興味を持った保護者の方から応募があった。
京都府	笠置町	町内全世帯に設備されている無線を活用して募集広報を行った。 小学校の保護者総会に出向き、説明及び募集を行った。
大阪府	八尾市	近隣の大学に学生ボランティアの募集依頼をし、要請に応じて各小学校区運営委員会へ紹介している。 学習の補助等で学生が手伝っている子ども教室がある。
大阪府	寝屋川市	小・中学校を退職された方で、校長・教頭等よりの紹介。 教員希望者(大学卒業後)で、現職教員よりの紹介。
大阪府	大東市	中学校区の地域教育協議会のコーディネーターをされている方の知り合いの退職教員に声をかけてもらった。
大阪府	田尻町	運営委員会所属団体の体育指導員会から、子どもの指導が上手な体育指導員を推薦いただき、派遣してもらっている。
大阪府	岬町	近隣の大学への依頼や各小学校の教育実習生への依頼。
大阪府	河南町	小学校教諭を退職された方や現職の方で、以前から子ども対象の事業に協力していただいていた方に協力を依頼。 子ども対象の事業に保護者として児童といっしょに参加し、協力的な側面が見受けられた方に協力依頼。
兵庫県	尼崎市	有資格(教員免許又は保育士免許)者として、臨時的任用職員として、市報に募集記事を掲載。ハローワーク、大学、専門学校に求人情報を提供。
兵庫県	西宮市	運営委員会の委員やコーディネーターの人脈を通じて募集している。
兵庫県	伊丹市	地区運営委員会の委員から地域の方をお願いすることにより、運営委員会の意見が反映でき、スムーズな運営につながっている。
兵庫県	加東市	今現在、学習アドバイザーをされている方に、知り合いを紹介してもらったり、子ども教室に参加されている方に声をかけたりしている。
兵庫県	新温泉町	町内で公民館活動を行っている人をお願いし、知り合いや退職教員等に声をかけてもらった。
奈良県	葛城市	19年度は確保に苦労したが、本年度は19年度のスタッフ(特に大学生)に後輩や知人に声をかけていただいたので、確保は容易であった。
和歌山県	橋本市	該当小学校の非常勤講師に依頼する。 近隣の大学にボランティアの募集を依頼する。
和歌山県	御坊市	児童館の児童厚生員を募集の際の条件に、学習アドバイザーの業務を追加。 地域で行った放課後子ども教室の説明会の中で、公民館主事及び分館長からの紹介で確保。
和歌山県	紀の川市	子どもの指導経験がある専門の講師に依頼している。 協力団体に加入している方で、子どもに指導ができる方に来てもらっている。

## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

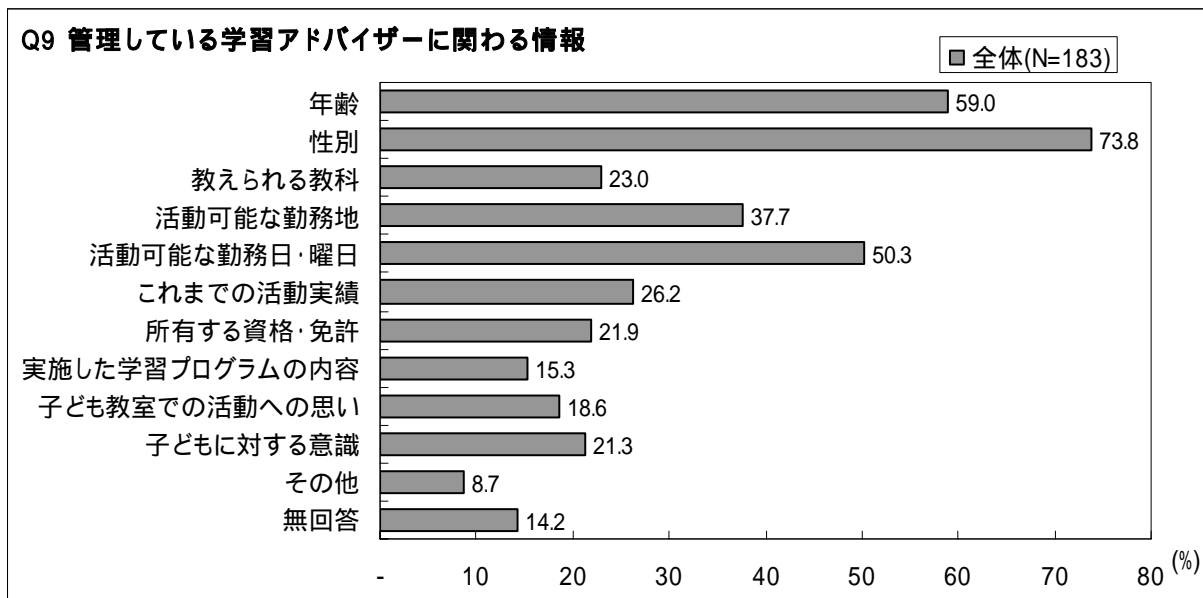
都道府県	市区町村	学習アドバイザー募集の際の工夫や配慮
和歌山県	有田川町	担当者が元小学校教諭で、退職された方や、講師経験があり現在勤務していない方々を把握できている。 コーディネーター、安全管理員、学習アドバイザーが全員教職経験者なので、指導に適した知り合いの方に声をかけていただける。
和歌山県	串本町	小、中学校を退職された地域の方にお話し、さらに知り合いの退職教員等にも声をかけてもらった。 日頃公民館を利用している方々に事業の説明をし、参加要請をした。
鳥取県	岩美町	小学校の図書館職員(勤務時間外)で、毎日図書館教育活動を通して児童と関わっている。 学校長(子ども教室の実行委員)の推薦による。 学習の合間には、折り紙や物作り、絵本の読み聞かせなどの専門的な技術を生活かしながら児童の学習支援に関わっている。児童も和やかな雰囲気の中で放課後の補充学習に取り組んでいる。
鳥取県	三朝町	各事業に年間を通じて参加指導していただける方をお願いしている。また、活動内容により個人又は団体に声をかけて依頼している。 事業の目的に沿った指導を行っていただける団体、個人と協議し年間事業計画を策定し実施している。
鳥根県	美郷町	小学校に出向き事業説明会を行っているが、そのときに募集をつのる。(紹介もかねて)
岡山県	玉野市	元小学校教員で、コーディネーターもされた方が、自主的に学習アドバイザーを引き受けてくれた。 子ども教室育成会の委員の推薦。
岡山県	笠岡市	募集する際、地域の子どもと顔見知りになるため、地域住民を優先している。 公民館役員・各種団体(栄養委員・愛育委員など)にお話し、日程の調整を行っている。
岡山県	真庭市	地域の子ども達と関わろうという意識を尊重し、地域住民の中での募集という方法とした。職種や経歴などの条件は設定しないで、意欲を重視とした。 工作教室や料理教室については専門的な知識や技術のある人で指導してもらった。
広島県	三原市	学校や地域からの推薦、町内会回覧により募集した。
広島県	尾道市	地区の町内会長や民生委員、学校関係者等から、地域内の退職教員やスポーツ・文化活動等、体験活動の指導に適した方を推薦していただいた。
広島県	東広島市	公民館等の社会教育施設において、自主サークル活動を行っている人に対して協力をお願いする。 東広島市内の大学生(広島大学、広島国際大学、近畿大学工学部)や青少年ボランティア組織(東広島市ゆーすふるチャレンジャー会議)等に対して協力をお願いする。
山口県	宇部市	平成17年、18年に、大学が行っていた「協働型教職研修計画」のチューター事業を引き続きお願いし、大学生にチューターとして来てもらっている。
山口県	萩市	公民館で活動されている団体への声かけや、コーディネーターや安全管理員、学習アドバイザー等のスタッフそれぞれの地域の繋がりを活用して呼びかけを行っている。
山口県	萩市	市報、子ども情報誌、ケーブルテレビを通じて、積極的に放課後子ども教室について地域住民にPRすることと併せて、広く一般市民からスタッフを募集している。
徳島県	鳴門市	市内の大学に学習アドバイザーとして学生の派遣依頼をした。また、教育実習に来た大学生に個人的に依頼した。 運営委員会でリーフレットを作成、放課後子ども教室の活動状況や開設のためのQ & A、指導員の登録案内を載せて、市内小学校の全児童に配布。
徳島県	美馬市	学校教諭を退職された方に声をかけている。 教員免許を所有し、かつ、熱意を持って子どもたちに接することができるであろう人物を選任している。
香川県	さぬき市	地域の公民館長に紹介してもらった。
香川県	琴平町	婦人会や老人会、公民館団体などを回って説明会をひらいた。広報などで募集したより効果があった。 実際に指導していただいている講師の方から紹介してもらう。

## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	学習アドバイザー募集の際の工夫や配慮
高知県	日高村	NPO法人に委託して、人材を確保している。
福岡県	小郡市	これまでの地域活動へボランティアで、自分の意志で参加している事を第一の基準として考えた。その方々からの推薦などで広げていった。退職教職員や教職免許を持っている人などの情報を集め、声をかけていった。 ボランティア講座を年間3回(1回5口座ずつ)行い、修了者に修了証を発行するなどして、ボランティアへの地域の関心を高めている。PTA関係の会合や地域の会合での説明を行い、参加を呼び掛けていった。
佐賀県	神崎市	公民館などで開催される各種講座の指導者に声をかける。指導者の方は、教えることになれておられるため、参加をしていただきやすい。また、参加の場合、弟子の方を連れてきていただけるなど多くの参加が見込める。 活動自体を知ってもらうために、活動内容を市報や新聞に載せる。市報や新聞に載っている活動ということで、活動自体に抵抗がうすくなり、参加もしていただきやすくなる。
佐賀県	吉野ヶ里町	隣市にある大学を訪問し、多くの学生に参加していただけるよう、募集ポスターの貼付、呼びかけをお願いした。
長崎県	対馬市	各種団体とつながりがある社会福祉協議会の協力を得て、連絡、調整をお願いしている。
長崎県	雲仙市	地域で学習アドバイザーとして適任者がいないかどうかコーディネーターと相談しながら確保をしている状況である。
長崎県	新上五島町	地域の実情にあわせて、各教室の安全管理員の推薦のもと教室への参加をお願いしている。また、担当課においても、退職教職員が出た場合には積極的に声をかけるなどし、事業への参加周知を行っている。
大分県	豊後高田市	小学校・中学校・高等学校の教諭または教頭・校長を退職された方で、地域に在住の方をお願いし、不足の場合は、知り合いの退職教職員や現役の教職員に声をかけてもらっている。更に、人材バンクを利用したり、臨時で教職を経験したことのある方に依頼している。 4月当初の校長会・公民館長会議で事業説明をし、公民館で講座を利用している方をお願いしたり、婦人会や老人クラブなど各種団体の方達に声かけをお願いしている。
宮崎県	五ヶ瀬町	子ども教室の指導員、学校の保護者、地域の人たちに情報を提供してもらった。
鹿児島県	曽於市	開催校区内で、協力していただいている団体・施設の方へ教育委員会からお願いしている。
鹿児島県	南九州市	各小学校校長に依頼し、校区内で、教職経験者や、子どもの指導等に関心の深い方、時間的に、子どもたちを指導できる方等を推薦していただく。 学校だより等での啓発。
鹿児島県	加治木町	退職教員の会で声をかけた。 ボランティア人材バンク登録者に声をかけた。
鹿児島県	喜界町	小規模校区に1教室のみ開設しているため、もともと伝統芸能の伝承活動を行っている方に依頼。
沖縄県	浦添市	学校内で開催する子ども教室をPTAに協力依頼をし、教室運営に協力できる方を確保した。 自治会会員のネットワークを通して人材の確保をした。
沖縄県	うるま市	小学校教諭を退職された方で、地域の公民館でも長期休み(夏休み・冬休み)等に宿題などのサポートをしている方をお願いした。教員をめざしている方で午前中は学習サポーターとして学校で活動している方に呼びかけた。

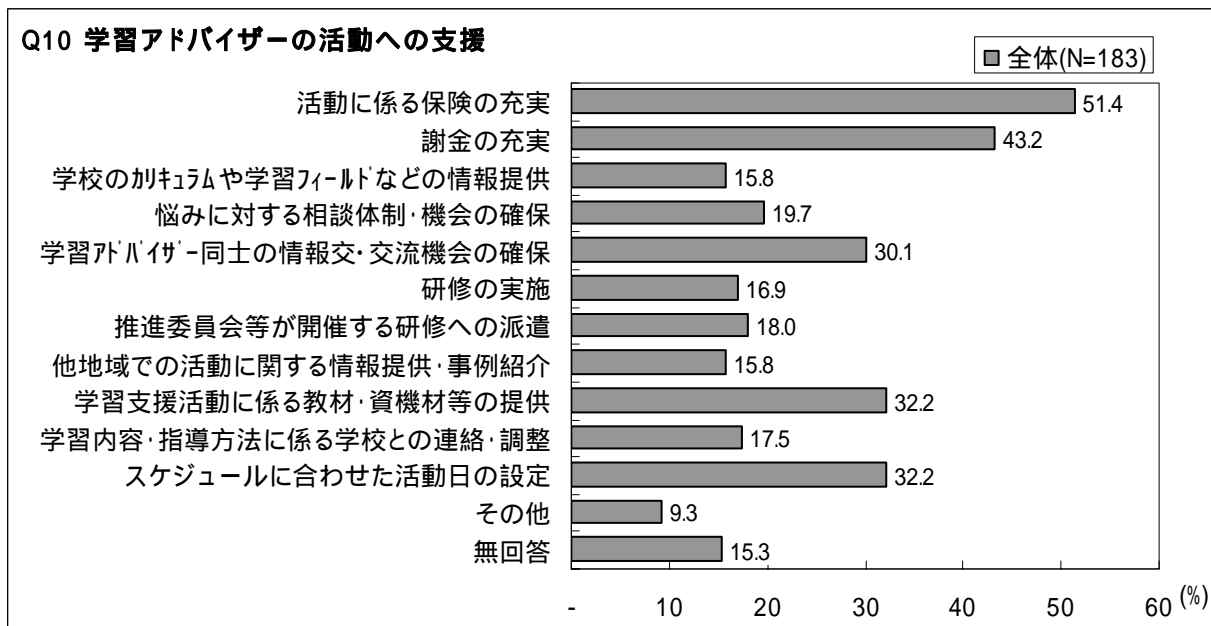
市区町村で管理している学習アドバイザーに関わる情報

学習アドバイザーに関わる情報の管理に関する実態をみると、学習アドバイザーの「性別」(73.8%)や「年齢」(59.0%)については多くの市区町村で情報収集・管理されているほか、「活動可能な勤務日・曜日」についても半数以上(50.3%)の市区町村で管理されている。



学習アドバイザーの活動に対する支援

学習アドバイザーの活動に対して行っている支援についてみると、「学習アドバイザーの活動に係る保険の充実」が51.4%と半数以上の市区町村で見られるほか、「学習アドバイザーの謝金の充実」についても43.2%と高い割合となっている。また、「学習支援活動に係る教材・資機材等の提供」及び「学習アドバイザーのスケジュールに合わせた活動日の設定」がそれぞれ32.2%、「学習アドバイザー同士の情報交換・交流機会の確保」が30.1%と3割を超え、比較的高い割合となっている。



学習アドバイザーに対する具体的な支援内容とその効果

学習アドバイザーに対する具体的な支援内容とそれによる効果について記述にて回答を求めたところ、74団体から96件の回答が寄せられた。

このうち、支援の内容としては、情報交換会や交流会など、学習アドバイザー同士の交流と情報共有を促す場や機会を創出している例が最も多いほか、研修会を実施したり、学習支援活動に必要な資料・教材等を提供するなどの支援が見られる。

こうした支援によって、学習アドバイザーの指導力や意欲が向上したほか、学習支援活動の内容の充実が図られるなどの効果もみられている。

Q11 学習アドバイザーに対する支援の内容と 学習アドバイザーの活動にみられた効果		回答事例数	回答事例に 対する割合	回答団体 (N=74)に 対する割合
全体(N)		96	100.0%	-
学習アドバイザーに 対する支援	情報交換・交流会の実施	36	37.5%	48.6%
	研修会の実施	18	18.8%	24.3%
	資料・教材の提供	14	14.6%	18.9%
	謝金・補助金の充実	5	5.2%	6.8%
	その他	14	14.6%	18.9%
	特になし	15	15.6%	20.3%
学習アドバイザーの 活動にみられた効果	指導力・意欲の向上	31	32.3%	41.9%
	活動内容の充実	23	24.0%	31.1%
	情報の共有	17	17.7%	23.0%
	その他	21	21.9%	28.4%
	特になし	16	16.7%	21.6%

学習アドバイザーに対する支援とその効果（自由記述回答より）

都道府県	市区町村	学習アドバイザーへの支援内容	支援によりみられた効果
北海道	寿都町	アドバイザーとの協議により活動実施日を決定(回数・曜日)	学習内容の充実とアドバイザー自身のゆとりある学習が進められている。
		参加者の習熟度により、できるだけ協力スタッフを配置。	参加者に対し平均的な指導ができるようになった。
青森県	外ヶ浜町	県主催のコーディネーター研修や指導員研修会へ派遣しスキルアップや情報交換などさせている。	他地域での活動状況など様々な情報を得ることができ、自分の地域の活動に活かすことができているようだ。
青森県	五戸町	学習アドバイザー、安全管理員の情報交流会を定期的開催	お互いの活動内容を把握することにより、学習アドバイザーは円滑な指導ができるようになり、安全管理員は注意が必要なところを事前に確認できるようになった。また、活動内容について関連させたり、継続的な活動ができるようになった。
岩手県	盛岡市	コーディネーターが、学習アドバイザーとの情報提供や交流の機会を増やした。	コーディネーターが子ども教室の詳細な運営状況について把握することができ、以前より学習アドバイザーに適切なアドバイスすることが可能になった。また、学習アドバイザーの事情を把握し活動日の調整などを行うことが可能になったので、意欲の向上につながった。

## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	学習アドバイザーへの支援内容	支援によりみられた効果
岩手県	盛岡市	県が主催する研修への参加を通じて、学習指導について基礎知識習得の機会を提供した。	学習アドバイザーの意欲が向上し、的確な指導ができるようになった。
		子ども教室修了後に、反省会を行い、子どもの様子についての情報を共有した。	子ども一人一人の様子を客観的・多角的に把握し、適切な指導ができるようになった。
岩手県	一関市	県の推進委員会主催の研修会・情報交換会への派遣	指導力の資質向上、意欲の上昇。他の市町村との交流による状況把握。
		市主催の研修会・情報交換会の開催	指導力の資質向上、意欲の上昇。市内の他の学習アドバイザーとの情報交換、交流。
宮城県	岩沼市	学習支援活動に係る教材等の提供	「科学遊び」などに使用する教材等を提供し、学校では教わらない実験などをすることにより、子どもたちが興味を持つとともに、学習アドバイザーの充実感がみられた。
福島県	相馬市	教材等の提供を迅速に対応。	学習アドバイザーの活動がスムーズになり、事務局側との信頼関係も向上したように思われる。
福島県	本宮市	学習アドバイザーが塾経営の方であったため、知識重視の学習活動が中心であった。他地域での実施状況等の情報提供や事例を紹介したところ、遊びやゲームなどを取り入れた学習活動を展開している。	遊びやゲーム等を中心とした学習活動が展開されることにより、これまで以上に子どもたちが生き生きと楽しく活動する姿が見られる。
		おはなし会において、3つの図書ボランティア団体が活動を進めてくれているが、学習アドバイザー同士の交流機会を設けたことで、それぞれの団体の取り組みを自分たちの活動に取り入れたり、参考にするなど、活動内容の幅が広がった。	これまで以上におはなし会を楽しみにする子どもが増えている。
栃木県	鹿沼市	各教室の学習アドバイザーの情報交換会	それぞれが個々の活動を行っていたが、情報を共有することで、お互いの教室を参考にしあう連帯感がうまれた。
埼玉県	所沢市	学習アドバイザー同士の情報交換・交流の機会の確保	子どもの状況把握について、参考となる事例が報告されていた。また、配慮を要する子どもへの接し方などについて、認識が深まったようだ。
埼玉県	蕨市	放課後子ども教室に、毎回のように参加してくれるようになった。	教室開設時に、子どもたちに積極的に接するようになった。
埼玉県	新座市	学習アドバイザーが作成した漢字・算数プリント教材を、学習支援活動を行っている他教室に配布。	学習支援活動の効率化、教室同士の内容の統一化がみられた。
千葉県	柏市	実施校の学習アドバイザーを一同に会し、「放課後子ども教室」の事業趣旨、柏市における今後の方向性、学習アドバイザーの役割等に説明し、そして、学習支援活動の状況について情報交換・事例紹介等を実施した。	学習支援活動の目的達成のため、良い点の指導方法等の手段を、互いに積極的に導入している。
千葉県	大網白里町	学習アドバイザーを含む指導員を対象とした研修会の開催	工作や避難訓練などについて、実施前に研修会を開催し、作り方や訓練の流れを学ぶことで、実施日当日に子どもたちに的確に指導することができた。
東京都	豊島区	学習アドバイザーを対象とした研修の実施	年に1度、研修会を開催しているが、その中で情報交換や意見交換の時間を設けている。そこで、他地域指導員の指導内容を参考にすることができる。
東京都	日野市	有償で派遣している。	無償ボランティアではないため、活動において充実したものが提供されている。
東京都	清瀬市	学習アドバイザーと安全管理員合同のスタッフ研修会	安全管理について、意思統一ができた。他教室との交流が図られ、他の教室のよい活動を吸収でき、幅広い教室運営ができるようになった。



## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	学習アドバイザーへの支援内容	支援によりみられた効果
新潟県	長岡市	学校の施設や備品の借用依頼	理科室やパソコン室等の特別教室、及び備品を借用することができ、解剖顕微鏡による観察やパソコンによるカレンダー作り等、活動内容の多様化を図ることができた。
新潟県	柏崎市	学習アドバイザー同士の情報交換・交流機会の確保。	担当外の活動においてもアドバイザー同士が協力しあうようになった。また、他の活動場所のアドバイザーとの協力関係が生まれ、交流活動が行われるようになった。
新潟県	上越市	学習アドバイザーの相談の機会としては、コーディネーターが窓口になり、市職員へ意向を伝える。また、学習の計画や内容についてアドバイザーが打合せをする会議に、市職員も同席し、直接相談できる体制にしている。	アドバイザーが学習計画を立てる際に、問題が速やかに解決するので、話し合いがスムーズになった。直接悩みを相談することで、問題等の実態把握が容易になった。
		県などが主催する研修会の案内をしている。	研修会に参加する事で、他地域の子ども教室の現状を知る機会や、学習が出来、子ども教室アドバイザーとしての自覚や積極性が増した。
富山県	高岡市	県の実施要綱における謝金限度額を超えない範囲で、安全管理員よりも謝金を高く設定している。	特になし
富山県	立山町	県主催の研修会への参加を照会した。	「他地区のアドバイザーと交流できたことが嬉しかった」「自分たちの活動方針に自信が得られた」等の声が聞かれた。
福井県	池田町	材料支援・準備や子どもたちへの連絡事務や保護者との連携を十分に取ること。	こんなことあんなことができる、やりたい。…提案がある。
長野県	駒ヶ根市	アドバイザーのスケジュール調整	アドバイザーのスケジュール調整により、定期的な教室開催ができ、子どもの日程にも組み入れられている。
		情報交換・交流機会の確保	市内全体のスポーツ少年団の参加者数増加につながっている。
		教材・資機材の提供	子どもたちの負担・保護者の負担が軽減されている。
岐阜県	羽島市	すべての教室の学習アドバイザーや安全管理員の方が集まり、連絡会(情報交流会)を実施。	それぞれの教室での活動状況や問題点を出し合い共有し、解決に向けて話し合うことで、アドバイザーの心理的負担を軽減することができた。
岐阜県	坂祝町	毎月第1木曜日に子ども教室職員全員による職員会議を行い、学習指導等についての在り方について交流や確認をしている。また、特別に支援が必要な児童に対して具体的にどのような指導を行うか確認している。	今まで「素直に学習しない子どもにどのように指導して良いかわからない。」「学習指導員が変わると指導方法やアドバイスが変わり、子どもたちから不満の声があがる」等の悩みが解消された。
静岡県	磐田市	学校で児童が使用している教科書を購入し、指導者がいつでも内容を確認できるようにした。	各学年の学習内容が明確になり、指導者の指導内容の参考となっている。
愛知県	一宮市	毎月1回開催する学習アドバイザー同士の情報交換	児童への指導や教室運営などについての取組状況や課題点を報告することにより、アドバイザー間で有意義な情報交換ができた。
愛知県	西尾市	子どもたちの健康管理、安全確保に関する研修	非常時での対応の必要性について関心が深まった。
愛知県	知多市	特別教室や体育館等の利用及び備品の借用を学校側をお願いした。	多種多様なメニューを実施することができた。
三重県	木曽岬町	原則、ボランティアとして依頼しているため、学習支援活動に係る教材・資機材・材料代等の提供のみを行っている。	公民館サークルの活動内容に興味を持ち、サークルそのものに参加する児童ができた。

## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	学習アドバイザーへの支援内容	支援によりみられた効果
京都府	城陽市	活動年間計画について各学習アドバイザーの意見を集約し、協議後に決定する。毎回の活動日に支援活動のリーダーを輪番制にし、児童に指示を出すようにしてもらった。平日の活動では、3分野(書道、絵画、スポーツ)に分かれ、自分の持ち味が出せるように活動内容は一任している。	活動内容に係る活動方法や教具などのプログラムの原案を作成してもらった。活動日には、全体の活動支援を行う。他の学習アドバイザーはサポーターとして協力して活動してもらっている。時間外でも積極的に準備に係ってもらっている。
京都府	長岡京市	子どもたちとの接し方に関する研修(12月に予定)	学習アドバイザーが、話の傾聴方法や、注意の与え方にとまどう現状が報告されていたので、このような研修を企画した。指導力の向上につながるものと考えている。
京都府	木津川市	毎回の事業実施後に、活動をふり返る時間を設ける中で、参加者が少ない等の悩みが、学習アドバイザー側から出され、その悩みに寄り添い、学習支援活動の在り方を実行委員会にかけ、再度見直した。	宿題等の学習に限らず、脳トレに効果があるカードゲームや書道等を取り入れ、子どもたちが意欲的に活動できるような選択肢を増やすことで、活気ある学習室の新たな一面が見出せた。
		特別支援が必要な児童が参加し、学習アドバイザーがどう指導すればよいかに迷い、困ってしまう事態が発生。その際、学校からその児童の指導に関するアドバイスをもらい、学習アドバイザーへ伝えた。	その児童へのよりよい指導の在り方を学習アドバイザーが共通理解でき、同様の事態が起こらなくなった。
京都府	笠置町	児童への関わり方の疑問や不安を互いに交流し合い、話し合いの中で今後の自身の在り方を確認してもらう場を繰り返し設定している。	スタッフ同士の共通確認のもとに、それぞれが自信を持って児童に向き合えるように変化している。
大阪府	河南町	情報交換・交流の機会の提供や他個所への学習アドバイザーの参加協力	学習アドバイザー個々の得意とする指導内容や方法を多くの個所で活用することができた。
		土曜日実施の子ども教室に現職小学校教諭に協力を依頼。	指導内容の精選・体系化を図ることができた。
兵庫県	尼崎市	宿題をするのに必要な程度の学用品の提供	学習の場の提供ができるようになった。
兵庫県	淡路市	研修の実施	多様な体験事業が実施できるようになった。
兵庫県	淡路市	多彩な活動内容の指導者研修を実施	各教室の指導内容が豊富になる。
兵庫県	加東市	運営委員会で情報交換をしたり、教材の提供	新しいプログラムの取り入れなどが多く、子どもたちがいきいきと活動をしている。
奈良県	葛城市	各小学校単位でのスタッフの話し合いの時間をできるだけ多く持つこと。	特に教職志向をもった大学生にとっては「教室」が貴重な体験の場になるようで、経験を積むにつれ自信を持って児童の指導にあたっている姿が多く見られる。
和歌山県	橋本市	コーディネーターが教材などを紹介する。	子どもたちが、教材に興味を示しやすくなった。
和歌山県	紀の川市	助成金で補えない材料費などは、利用者に月額を決めて負担してもらう	学習の内容が充実した。
鳥取県	岩美町	実行委員会職員やコーディネーターが定期的に子ども教室を巡回し、学習アドバイザーや安全管理員と日ごろの活動状況について話し合いをしている。(活動状況の報告、悩み、改善点、要望等)	定期的に話し合いをもつことにより、教室の活動状況や、児童の様子、学校との連携、実施上、課題となっていることなどを把握することができた。また、必要な物品等を購入したり、プログラムを工夫(PCの活用等)したことにより、参加児童の学習意欲が高まった。また、学習コーディネーターと学校教職員との連携もスムーズで協力体制もできている。
鳥取県	三朝町	学習アドバイザーとは、活動においての問題点や希望をきくなど連絡を取るようになっている。	活動が出来やすいような体制づくりができた。
鳥根県	美郷町	学習アドバイザー同士の情報交換・交流機会の確保	お互いの情報交換により、新たな教室の開催が取り入れられ、子どもたちも新鮮な気持ちで取り組むことができる。

第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	学習アドバイザーへの支援内容	支援によりみられた効果
島根県	美郷町	学習支援活動に係る教材・資機材等の提供	教材の提供により多様な教室の開催ができる。
		学習内容・指導方法にかかわる学校との連絡・調整	学校との連絡、情報の共有化により、参加児童に対する対応など充実し、子どもも安心して参加できている。
岡山県	笠岡市	活動内容の情報交換を密にし、活動が活発に行われるように連絡会議等を行っている。	・参加した子ども達の様子がより把握できるようになった。
		学習アドバイザーに対して、謝金を支払う。	・学習アドバイザーの意欲の向上及び指導力の向上。
岡山県	真庭市	コーディネーターが学習アドバイザーと連絡を取り、全体的な調整を行う。相談などはその中で、事務局は他地域での情報提供などを行う。また、推進委員会などが主催する研修会に派遣する。	コーディネーターが調整することにより広範囲な調整が可能となる。また他地域での情報や研修会により、活動の工夫などができるようになった。
広島県	東広島市	社会教育指導員(活動アドバイザー)を派遣し、学習アドバイザーの悩み等の課題を聞き、運営の問題点について指摘する。また、教育委員会(青少年育成課)と連携調整を行う。	教室の運営について、各教室ごとで課題が整理することができ、情報交換や事例交流の場の必要性が高まった。*年度内の実施に向けて取り組んでいる。
		学習支援活動に係る教材・資機材等を学習アドバイザーの要請を受けて提供していく。	学習に必要な消耗品や教材を提供することによって、系統的かつ計画的な学習プログラムを組み立てることができ、参加児童のスキルアップに結びついている。
		教室に特別講師を派遣する。	教室の要請を受け、特別講師を派遣することによって、児童の学ぶ意欲を一層喚起することができた。今年度は、地元テレビ局のアナウンサーによる「読み聞かせ」を実施し、表現力豊かに話す技法について学ぶ。
山口県	宇部市	小学校教諭に相談しやすいような環境を整えている。	子どもを誉める、子どもにお礼を言う、子どもの間違いを指摘する、当たり前のことではあるが、そのことが自然に、丁寧にできるようになった。また、こういった子どもとの関わりを報告や相談することにより、学習アドバイザー自身が誉められたり、指摘されたりして、子ども達と一緒に成長している。
		公民館の職員やコーディネーターが相談を受けたり、指示をしている。	子ども達の意見や感じたことを尊重することで、子ども達の視線に立ち、教材や遊びの内容等に気を遣うようになった。
山口県	萩市	県主催の研修会以外にも、市主催で「放課後子どもプランの合同研修会」や各校区へ専門講師を派遣して行う「出前研修会」の開催。	各放課後子ども教室のスタッフが一同に集う研修会の場を設けることにより、情報交換や交流が活発になった。また、それぞれの教室がお互いの教室運営の良いノウハウを共有することにより、市内全体の放課後子ども教室のレベルの底上げが図られつつある。先進地から講師を迎えての研修では、最新事例やすぐ実践できるプログラムを吸収する場となり、教室運営のマナー化を防ぎ、子どもを飽きさせない教室運営に対するスタッフの意識が高まっている。
徳島県	鳴門市	他の地域での学習支援活動の実施状況等の情報提供や事例紹介。	学習支援の幅が広がり、外部の指導者を呼んでの体験学習などができている。また、学習アドバイザーの時間の都合がつかないときに他の教室の学習アドバイザーが手伝いに行く等の交流もできている。
		学習支援活動に係る教材・資機材等の提供	運営委員会で保管している大型絵本を各教室に貸し出すことで、読み聞かせに役立っている。

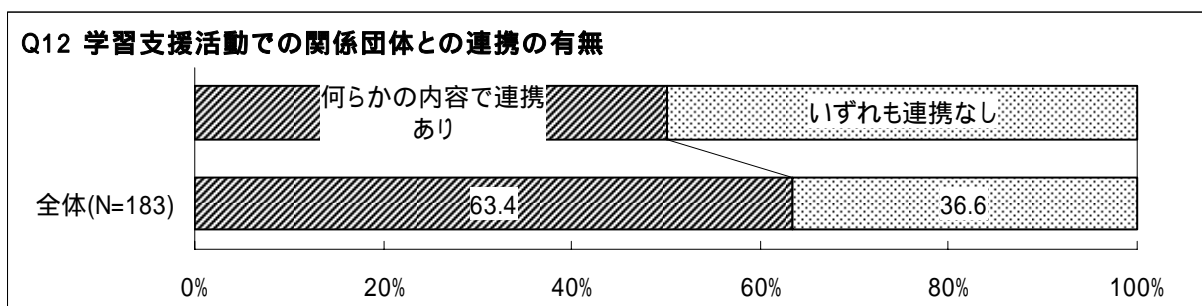
## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	学習アドバイザーへの支援内容	支援によりみられた効果
香川県	琴平町	学習アドバイザー同士の情報交換・交流会	お互いが抱えている悩みや問題点を話し合うことにより、指導者同士の横のつながりができ、協力体制もできた。
福岡県	小都市	活動が進むにつれて、アドバイザーの中に迷いや悩みが生じてくる。それは、子どもたちに関することで、学校とつないで相談の場を設けた。	アドバイザーとしての悩みは、大変貴重なものである場合が多く、学校の中での課題と共通する場合もある。その場合放課後の様子を情報交換することで、子どもたちの状況を好転させる可能性を含んでいる。このことが理解できると、その場その場での困った問題と考えていたことも、問題提起につながることでプラスに受け止めてもらえた。
		子どもたちへ接する上での基本知識として、子どもたちの抱える状況についてや子どもたちの人権に関すること、具体的な接し方などについて、講座を開き、受講してもらっている。	ボランティア講座として開講している。この講座を受講されると、この取組の意義などを深く理解してもらうことにつながり、自信を持って活動に向かってもらえるし、活動に対する意欲の向上につながっている。
		学習アドバイザーが必要とされる資料や教材をできる限り用意している。	資料や教材は、子どもたちに合ったものという考えのもとに、学校や担任との連携を目指している。子どもたちの役に立ちたいという願いを持たれているアドバイザーにとっては、これでいいのかという疑問が起きてくる状態があるので力になっている。
佐賀県	神崎市	初めて行うものに関しては、事前にどのようなことを学習アドバイザーがしようとしているのか打合せを行う。	子どもたちがどの程度できるのかを学習アドバイザーに知ってもらうのはもちろん、このようにすれば、もっと良いものができるといった提案などが打合せから生まれ、子どもたちに合わせた良い活動が行える。
大分県	豊後高田市	毎年、最終講座日に講師と事務局との情報交換・交流会を開催している。	講師の本音を聞くことができる。また、講師間の交流で、情報の交換ができ、次年度のカリキュラム構成に役立っている。
鹿児島県	南九州市	保険や謝金の充実	アドバイザーの方々が、意欲を持って指導されている。
		学校(担任)との連携を図れるよう各学校に依頼	子どもたちの実態を知るとともに、子どもの能力に応じた指導ができています。
鹿児島県	加治木町	消耗品等の提供	活動内容が充実し活発になってきた。
		他地域の情報提供	本地域での活動の見直しと指導法の改善
沖縄県	浦添市	講話「子どもの関わり方について」	子ども教室開催前に、気持ちの落ち着かない子ども達をプログラムに集中させる方法を学ぶことにより、実践後はスムーズに教室開催に誘導することができた。
沖縄県	うるま市	コーディネーターが日頃から教室の連絡係を通して学習アドバイザーとのつながりを持ち、こまめにアドバイスしている。他校の活動の様子や情報を提供して一緒に解決に向けて話合っている。	学校間でも情報交換したり、活動内容に工夫がみられ、これまで以上に充実した活動になった。 学習アドバイザーが安心して活動する姿がみられた。

(2) 「放課後子ども教室」の学習支援活動と関係団体との連携状況

学習支援活動における関係団体との連携状況

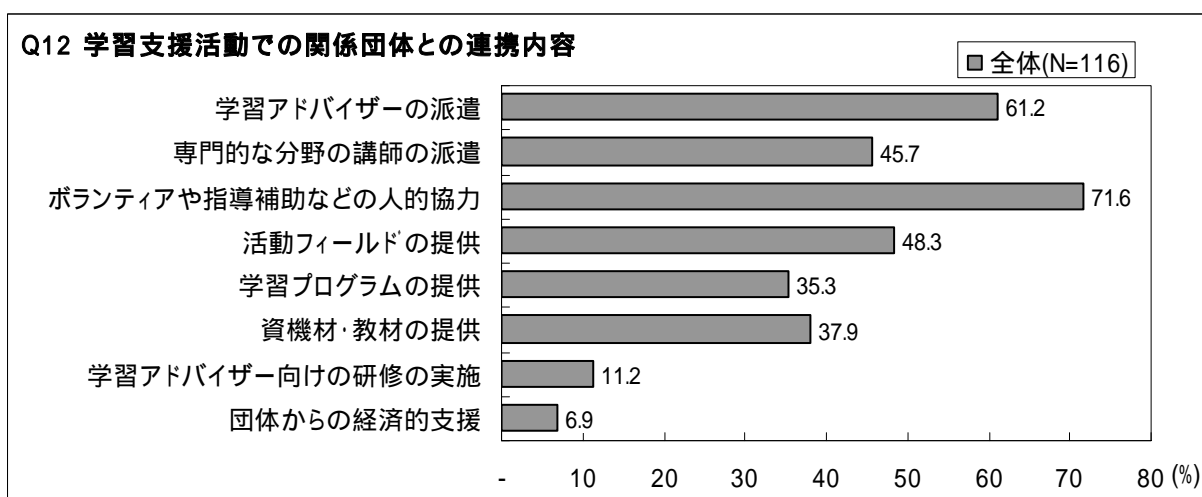
放課後子ども教室における学習支援活動の実施に際して、地域の関係団体との連携状況を見ると、いずれかの団体と何らかの内容で連携を図っている市区町村は63.4%と6割を超えており、いずれの団体とも連携を図っていないという市区町村(36.6%)よりも多くなっている。



何らかの内容で地域の関係団体と連携しているという市区町村について、どのような内容で各種の団体と連携を図っているかをみると、全体としては「ボランティアや指導補助などの人的協力」が71.6%と最も多く、次いで、「学習アドバイザーの派遣」が61.2%と、この2つの連携内容が突出している。

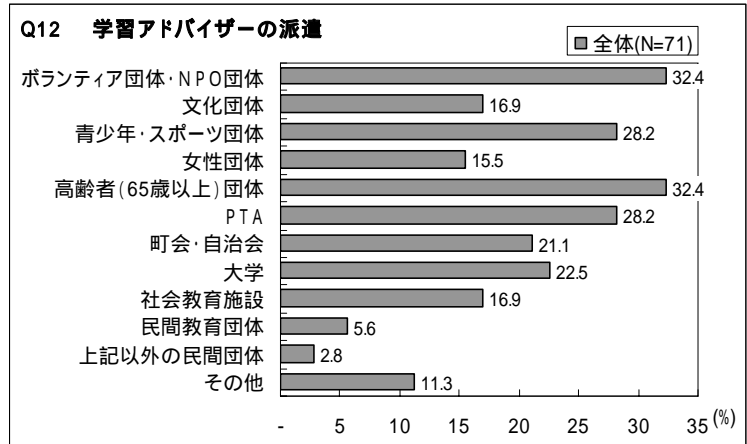
また、このほかをみると、「活動フィールドの提供」が48.3%、「専門的な分野の講師の派遣」が45.7%と半数近い市区町村で地域の関係団体との連携がみられるほか、「学習プログラムの提供」や「資機材・教材の提供」についても、4割弱の市区町村で関係団体との連携が図られている。

各連携内容ごとにどのような団体との連携が図られているかをみると、次頁以降のとおりである。



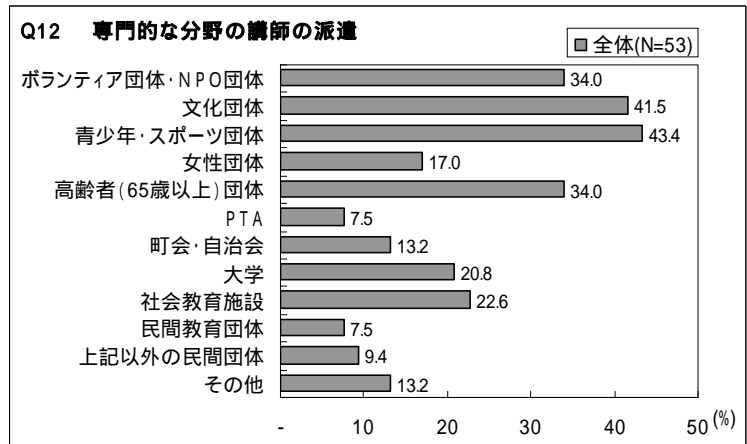
学習アドバイザーの派遣

各種団体から学習アドバイザーの派遣を受けている市区町村は71団体であり、具体的な連携先としては「ボランティア団体・NPO 団体」と「高齢者(65歳以上)団体」がそれぞれ32.4%と最も多いほか、「青少年・スポーツ団体」や「PTA」についても3割近くとなっている。



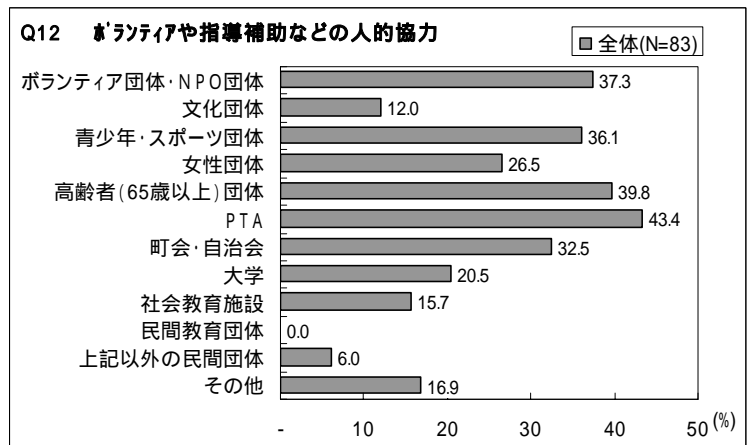
専門的な分野の講師の派遣

各種団体から専門的な分野の講師の派遣を受けている53団体についてみると、「青少年・スポーツ団体」からの派遣が43.4%と最も多いほか、「文化団体」も41.5%と4割を超えている。このほか、「ボランティア団体・NPO 団体」及び「高齢者団体」も3割を超えている。



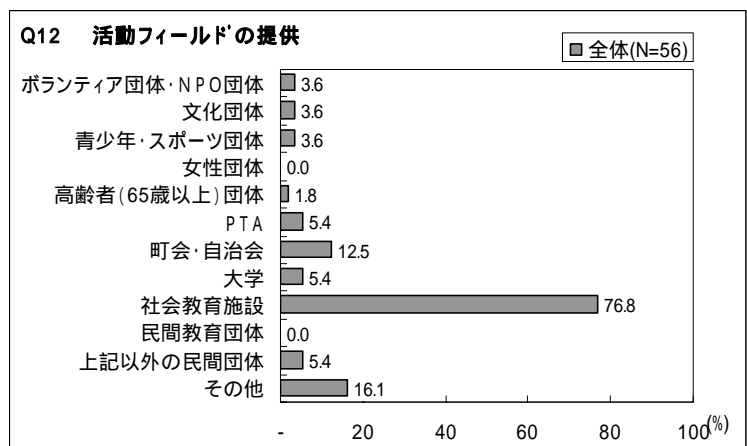
ボランティアや指導補助等の人的協力

各種団体からボランティア等の派遣を受けている83団体についてみると、「PTA」からの人的協力が43.4%と最も多いほか、「高齢者団体」、「ボランティア団体・NPO 団体」及び「青少年・スポーツ団体」が約4割近くと比較的高い割合となっている。



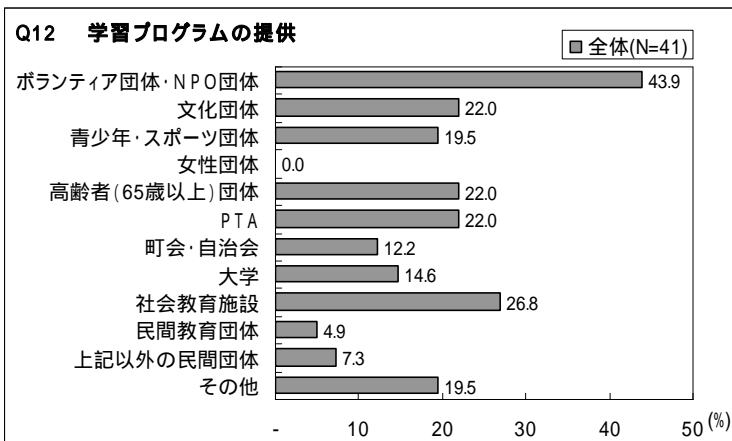
活動フィールドの提供

活動フィールドの提供に関して、地域団体と連携している市区町村は56団体であり、具体的な連携先をみると、「社会教育施設(公民館、博物館・図書館等)」が76.8%と突出している。



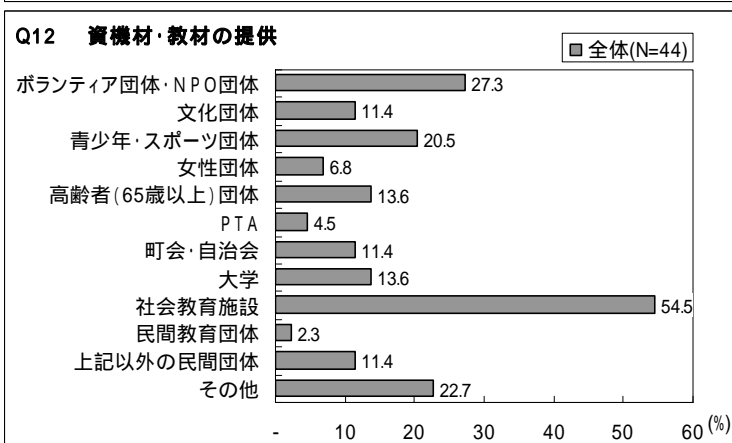
学習プログラムの提供

地域団体から学習プログラムの提供を受けている市区町村は41団体であり、具体的には「ボランティア団体・NPO 団体」から提供を受けているケースが43.9%と突出している。このほかでは、「社会教育施設」が26.8%と比較的多い。



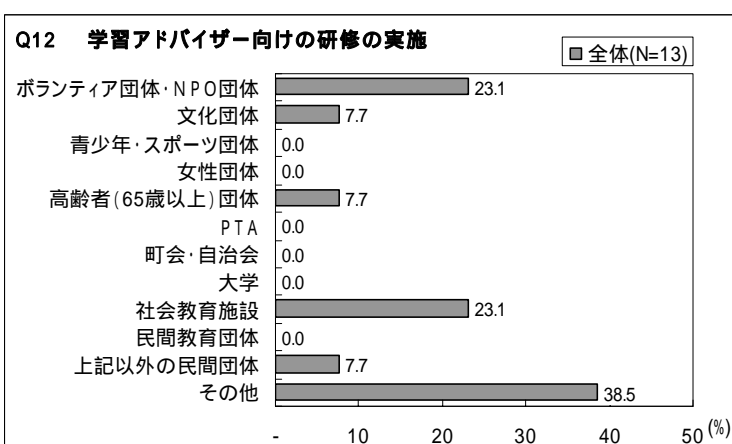
資機材・教材の提供

地域団体から資機材・教材の提供を受けている市区町村は44団体であり、具体的には「社会教育施設」からの提供が54.5%と突出している。このほかでは「ボランティア団体・NPO 団体」のほか、「その他」として小学校等からの提供が挙げられている。



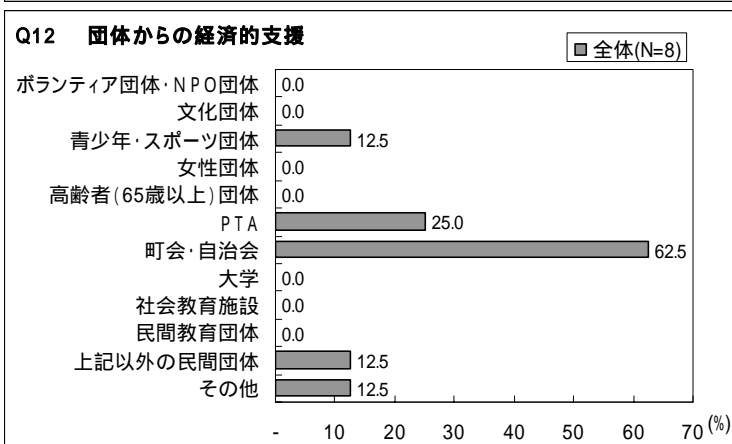
学習アドバイザー向けの研修の実施

学習アドバイザー向けの研修の実施に関しては13市区町村で地域団体との連携がみられ、具体的には、「ボランティア団体・NPO 団体」や「社会教育施設」のほか、「その他」として都道府県教育委員会や小学校との連携が図られている。



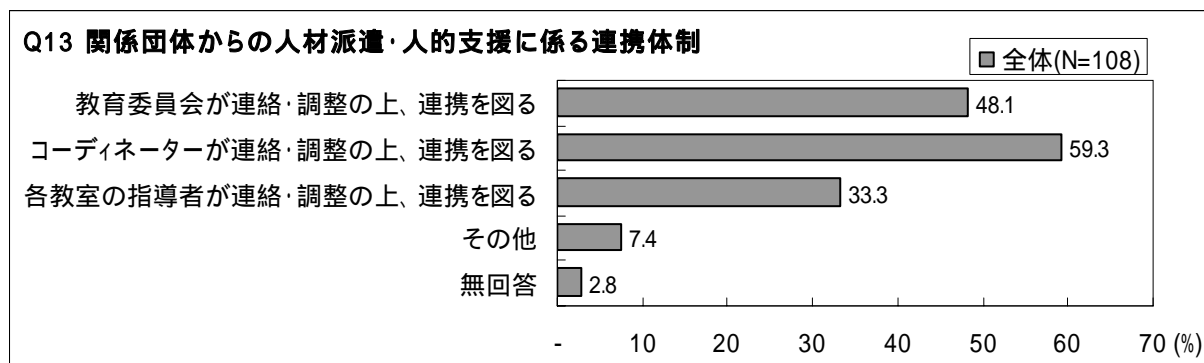
団体からの経済的支援

地域団体から経済的支援を受けている市区町村は8団体と少なく、具体的には「町会・自治会」から支援を受けている例が62.5%と突出している。



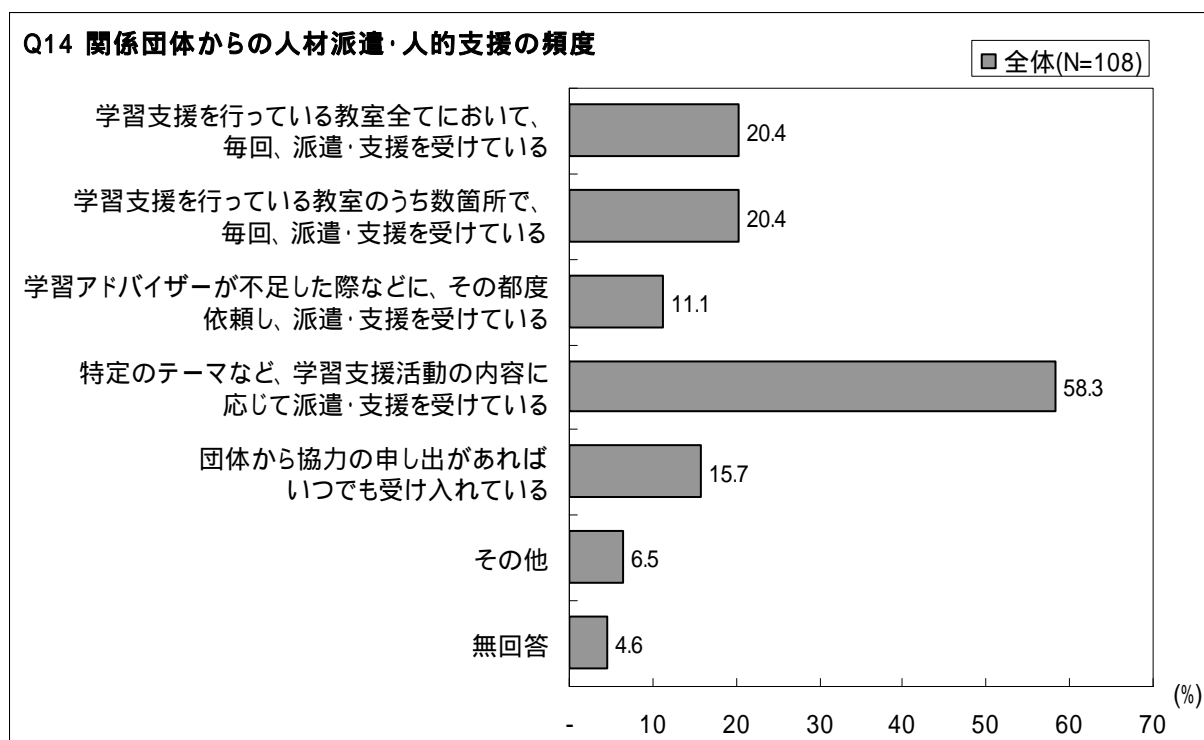
関係団体からの人材の派遣・人的支援に係る連携体制

前述の ~ の各種連携内容のうち、「学習アドバイザーの派遣」、「専門的な分野の講師の派遣」、及び「ボランティアや指導補助などの人的協力」といった人材派遣・人的支援について地域の関係団体との連携がみられる市区町村において、どのような体制で関係団体から人的派遣・人的支援を受けているかをみると、「コーディネーターが連絡・調整の上、連携を図る」という市区町村が59.3%と最も多いほか、「教育委員会が連絡・調整の上、連携を図る」という市区町村も48.1%と約半数近くにのぼっている。一方、「各教室の指導者が連絡・調整の上、連携を図る」ケースは33.3%となっている。



関係団体からの人材派遣・人的支援の頻度

関係団体から「学習アドバイザーの派遣」、「専門的な分野の講師の派遣」、「ボランティアや指導補助などの人的協力」等の人的支援を受けている市区町村において、その頻度をみると、「特定のテーマなど、学習支援活動の内容に応じて派遣・支援を受けている」ケースが58.3%と突出しており、学習支援を行っている教室(全て又は一部)において毎回の活動に人的支援を得ているケースは約2割である。





関係団体から派遣される人材

学習アドバイザーや専門的な分野の講師、あるいはボランティアや指導補助などの人材派遣・人的支援を受けている市区町村において、実際にどのような人材が各団体から派遣されているか記述にて回答を求めたところ、56団体から具体的な例が寄せられた。

その内容を見ると、活動を実施している学校の教員や退職教員、大学教授などの教職経験者が最も多いほか、青少年スポーツ団体で長年子どもの指導に携わってきた人、あるいは学習塾やそろばん塾などで子どもの指導に携わってきた人などが多くみられる。

Q15 関係団体から派遣される人材	回答団体数	回答団体数に対する割合
全体(N)	56	100.0%
教職経験者(現役教員・退職教員・大学教授等)	16	28.6%
青少年スポーツ団体の指導者やスポーツ経験者	13	23.2%
教員以外の子どもの指導の経験者	11	19.6%
大学生	9	16.1%
昔遊びや伝統文化活動関係者	7	12.5%
その他の団体	7	12.5%
高齢者・老人クラブ	5	8.9%
図書ボランティア	5	8.9%
民生委員・少年健全育成推進員など	4	7.1%
婦人会	3	5.4%
その他	13	23.2%

学習アドバイザーや講師・ボランティアとして関係団体から派遣されている人材(自由記述回答より)

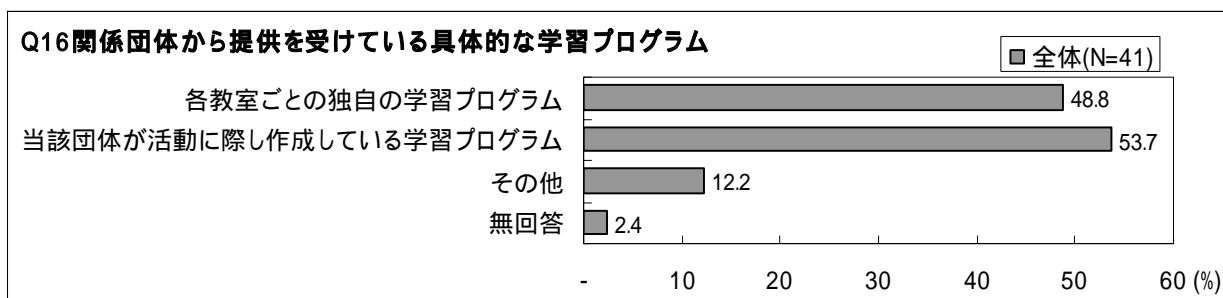
都道府県	市区町村	関係団体から派遣・支援を受けている具体的な人材
北海道	東川町	元小学校教師、体育指導委員
青森県	外ヶ浜町	スポーツ競技経験者
岩手県	盛岡市	少年指導員など長年にわたり子どもたちの学習指導を実践してきた地域住民
岩手県	一関市	学習内容に応じて、そのテーマに精通している方。子どもの指導に意欲的な方。
岩手県	平泉町	地域の婦人や高齢者
宮城県	岩沼市	大学のボランティアサークルや社会福祉団体の講師
福島県	相馬市	レクレーション関係の指導員、退職教員など
福島県	本宮市	学習塾経営者、図書ボランティアとして、学校や児童クラブ等で子どもたちにおはなし会を提供している方等
茨城県	結城市	子どもの指導に伴う資格や経験は問わず、とにかく子どもの面倒を見ていただける地域の大人
栃木県	鹿沼市	大学生、読み聞かせボランティア
埼玉県	所沢市	市内大学の大学生(ボランティア活動の単位取得になる場合及び教育学部生)高齢者サークル(将棋・折り紙)
埼玉県	蕨市	文化協会・PTA・婦人会関係者などで、子どもの指導をされている方 など
埼玉県	新座市	青少年・スポーツ団体で子どもの指導に永年関わってきた方
千葉県	柏市	地域の高齢者団体(囲碁・将棋クラブ)で、会員がローテーションで、学習支援に携わっている
東京都	豊島区	大学生、元大学教授や塾の講師
神奈川県	平塚市	教員のOBなど
新潟県	長岡市	・大学の教官及び学生 ・指導内容にかかわる知識、技能をもっている方

## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	関係団体から派遣・支援を受けている具体的な人材
新潟県	柏崎市	放課後子ども教室推進事業に理解があり、子どもとの活動に意欲のある方。
新潟県	上越市	実施小学校の教職員
富山県	高岡市	スポーツ団体で子どもの指導に永年関わってきた方、活動に関係のある技能をお持ちの方
富山県	立山町	青少年スポーツ団体で子どもの指導に当たってこられた方、PTA・校区の有志
福井県	池田町	退職教員 / 元保育士 / スポーツ団体で活動している方 / 栄養士 /
長野県	駒ヶ根市	市スポーツ少年団の指導者、指導にかかわってきた方
岐阜県	羽島市	地域の教育大学の学生(インターンシップ)
岐阜県	坂祝町	地域で「おどり保存会」や「読書サークル」等の活動を行っている方
静岡県	磐田市	教職員のOB
三重県	木曽岬町	公民館にて開催されている各種サークルの代表者
京都府	城陽市	学校の学級指導補助及び教科指導員として勤務されている方、教科補助ボランティアとして活躍している大学生、民生児童委員として地域のことをご存知の方。
京都府	長岡京市	環境保護活動、科学遊び、図書の読み聞かせなどの活動に携わってきた方など。
京都府	木津川市	財団法人 千里文化財団(風呂敷の歴史・包み方に関する学習) 京都大学大学院生(爬虫類の生態・骨格標本・化石に関する学習)
京都府	笠置町	児童館の先生、大学の教授など(京都府教育委員会を通して)
兵庫県	尼崎市	青少年に関わる事業に永年関わってきた方を中心に地域の子どもの健全育成に関心を持っている方
兵庫県	西宮市	地域で青少年活動に関わってきた方と元教職経験者
兵庫県	淡路市	青少年スポーツ団体で子どもの指導に永年関わってきた方
奈良県	葛城市	市職員(郷土学習)、市文化サークル(童謡指導、手話指導)
和歌山県	橋本市	近隣の大学生、NPO
和歌山県	紀の川市	青少年健全育成推進員。英語の仕事をされていた方。硬筆や毛筆を地域の子どものために教えていた方。絵本の読み語りの勉強をされている方。学校教師を退職された方。
鳥取県	岩美町	学校内で放課後子ども教室を実施しているの、放課後の時間帯に教職員も一緒に取り組んでいる。
鳥取県	三朝町	過去から事業により支援していただいている団体
島根県	美郷町	地域で教室を開催されている方や、趣味の会の方
岡山県	笠岡市	地域でボランティアとして自主的に関わってくださる方、栄養委員さんで食育に関して知識・経験のある方、地域で活躍されているマンガ家
岡山県	真庭市	文化協会の会員、老人大学の受講生など
広島県	東広島市	そろばん、書道、茶道等の文化体験指導講師。スナッグゴルフ、バスケット、ヒップホップダンス等のスポーツ体験活動講師、その他、読み聞かせ等の図書ボランティアなど。
山口県	宇部市	地元のスポーツ推進員、市・県の人材派遣のボランティア、老人クラブ・環境衛生連合会など地域の各種団体、地域ボランティア。
山口県	萩市	子ども会指導者で昔遊びやものづくり等の指導に永年関わってきた方、青年の家指導員でレクリエーション指導の資格を有する方。
徳島県	鳴門市	NPO団体、地域の婦人会、地域の老人会
徳島県	石井町	子育て支援活動・伝統文化活動に関わってきた人、珠算教室指導者
香川県	琴平町	学習塾の講師、スポーツ少年団指導者など
福岡県	小郡市	各校区での学習支援ボランティアや地域事業への協力者、地元出身の大学生など
佐賀県	神埼市	学習塾の講師、教職員退職者、大学生、ユニセフ、茶道師範、華道師範、民謡師範、サークル講師、実業団選手・コーチ、現役教職員、剣道師範など。
佐賀県	吉野ヶ里町	教職課程を学んでいる学生、教職経験者
長崎県	諫早市	社会教育指導員、地域住民で昔遊びやものづくりの指導に長けた方
大分県	豊後高田市	食生活改善推進協議会会員、地域の青少年健全育成会議会員、大分県青少年育成アドバイザー協会会員、地区老人クラブ会員
鹿児島県	南九州市	退職教員等、伝統行事等の指導者、スポーツに関心の深い方等
鹿児島県	加治木町	退職教職員
沖縄県	浦添市	文化芸能の保存・継承のため地域活動している方、スポーツ指導者として地域で活動している方。

関係団体から提供されている学習プログラム

地域の関係団体から「学習プログラムの提供」を受けている市区町村において、具体的にどのような学習プログラムが提供されているかをみると、「当該団体が活動に際し作成している学習プログラム」が53.7%と最も多いが、「各教室ごとの独自の学習プログラム」も48.8%と高く、放課後子ども教室における学習支援活動の実施にあたり、関係団体から独自に学習プログラムを作成・提供してもらっているケースも半数近くの市区町村で見られている。



学習内容の充実が図られている関係団体との連携事例

地域の関係団体と何らかの内容で連携を図っている市区町村に対し、関係団体との連携により、学習内容の充実が図られている具体例について記述にて回答を求めたところ、68団体から92件の回答が得られた。

記述内容を見ると、社会教育施設やボランティア団体・NPO 団体、町会・自治会等と連携し、体験活動の指導等を行ってもらっている例が多くなっている。また、教員を目指す大学生が教科の指導を行ったり、スポーツ団体の指導者にスポーツ指導を受けている例もみられる。こうした各種団体との連携により、子どもたちの興味・関心の広がりや活動の多様化・活発化といった具体的な効果も報告されている。

Q17 学習内容の充実が図られている関係団体と連携内容		回答事例数	回答事例に対する割合	回答団体 (N=68) に対する割合
全体(N)		92	100.0%	-
連携している関係団体	ボランティア団体・NPO 団体	10	10.9%	14.7%
	文化団体	7	7.6%	10.3%
	青少年・スポーツ団体	4	4.3%	5.9%
	女性団体	3	3.3%	4.4%
	高齢者(65歳以上)団体	2	2.2%	2.9%
	PTA	3	3.3%	4.4%
	町会・自治会	9	9.8%	13.2%
	大学	8	8.7%	11.8%
	社会教育施設(公民館、博物館、図書館等)	12	13.0%	17.6%
	民間教育団体(学習塾など)	1	1.1%	1.5%
	小学校	5	5.4%	7.4%
その他	28	30.4%	41.2%	
連携内容	体験活動の指導	53	57.6%	77.9%
	教科学習	14	15.2%	20.6%
	スポーツ活動の指導	13	14.1%	19.1%
	その他	14	15.2%	20.6%

連携している関係団体と連携内容及び連携により充実が図られた活動等（自由記述回答より）

都道府県	市区町村	連携団体	連携内容・連携により充実が図られた活動
北海道	砂川市	NPO 団体、文化団体、スポーツ団体等	各団体の得意分野で子ども達と交流を図ることにより、地域で子育てを進める環境整備が整う。
北海道	寿都町	社会教育施設(町総合文化センター)	学習内容によって使用部屋を調整でき、内容により適した環境で学習が進められること。
北海道	東川町	ふれあいサポートクラブ	ホールが使える日には、毎回初めに「なわとび」をしている。回数やとび方に目標を設け、意欲的に取り組んでいる。
北海道	豊富町	稚内地区消防事務組合豊富支署	火災体験の「煙体験」を実施。教室内に無害の煙を充満させ、一人ずつ教室内に入り煙による火災の恐ろしさを体験させた。参加者の関心と火災の恐ろしさを再認識していた。
北海道	豊富町	ヤマト運輸(株)	交通安全指導の一環として、運送トラックを使いトラック周りの死角や、トラック下周りなどの危険な場所へのもぐりこみ注意喚起を具体的に指導体験した。実際にトラックがあることにより、具体的な説明ができていた。
青森県	五戸町	上大町婦人会	お手玉やおはじきなどの昔遊びや、よもぎ団子などの郷土料理を指導していただいている。また、地元の方なので、子ども達も安心して活動できている。
岩手県	一関市	NPO 法人北上川流域連携交流会	普段の教室とは離れ、河川学習についてフィールドワークを交えて学んだ。体験学習を通じて、河川の恐ろしさや安全管理、河川との共生、自然環境の素晴らしさを学んだ。
岩手県	平泉町	平泉町地域婦人団体協議会	地域の婦人が児童とふれあうことにより、地域の子どもという認識がもてるようになった。
宮城県	岩沼市	読み聞かせあじさいグループ	グループから2名程度派遣いただき、子どもたちに絵本等の読み聞かせを行っている。
宮城県	岩沼市	市老人クラブ連合会	年1回、市内で実施している放課後子ども教室合同の“親子しめなわづくり”において、しめなわづくりの指導者を数名派遣いただいている。
山形県	酒田市	百人一首かるた会	クラブ活動と連携が図られる。
福島県	相馬市	相馬海浜自然の家	机での学習のみならず、自然の中でさまざまな体験活動を行うことが可能になった。
福島県	本宮市	3B体操	専門的な指導者に、道具を使った体操や動きを通じた交流活動を指導していただくことによって、楽しく体力づくりをすすめたり、リズム感を養ったりすることができるとともに、子どもたち同士の交流関係の向上につながっている。
茨城県	河内町	民生委員・児童委員更生保護女性会	「あやとり」や「なわとび」などの昔遊びなどを指導していただいた。
栃木県	鹿沼市	KLV協会、まざあくうす	小学生に対しての読み聞かせ。また中学生に対し、読み聞かせの指導。
栃木県	鹿沼市	作新学院ボランティア支援センター	小学生への学習指導、ものづくり指導
埼玉県	所沢市	所沢市老人簡易集会所「わかば」の利用者サークル	将棋、折り紙
埼玉県	越谷市	越谷ITネット・KITNET NPO	PC講習等IT関係の指導充実が図られた。
埼玉県	越谷市	郷土芸能保存協会	お雛子等の郷土芸能関係指導の充実が図られた。
埼玉県	蕨市	文化協会	永い歴史の中で培われてきた伝統文化を次世代の子どもたちに継承する活動ができた。
埼玉県	蕨市	高齢者クラブ	昔の遊びなどの継承活動ができた。

## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	連携団体	連携内容・連携により充実が図られた活動
千葉県	富里市	富里国際交流協会	登録アドバイザーの都合がつかないときや色々な国について学ぶときに、英語が話せる外国人の派遣していただいている。参加している子どもたちに、色々な国の文化・習慣を学ぶよい機会となっている。
東京都	豊島区	大学	学校で夏休みに学年ごとに行っていた「学習教室」が、学生スタッフを派遣してもらうことにより、全学年で行えるようになった。
東京都	豊島区	町会・自治会	専門的な知識を有する方から、学ぶ機会を設けることができた。
東京都	清瀬市	市立図書館	廃棄本の提供を受けることにより、参加者が本に親しむようになった。
東京都	あきる野市	アジレントテクノロジー	「子ども科学実験教室」を定期的実施。子どもたちが次は何をするのか、何時あるのかを楽しみにしている。
新潟県	長岡市	手芸サークル	・エコバックや雑巾作り等を通して運針やミシンの使い方が上手になってきた。 ・工作教室の実施により、ものづくりへの関心を深めることができた。
新潟県	上越市	婦人会	子どもたちに対する人権教育などを実施。紙芝居等でわかりやすく教えていただいた。
福井県	池田町	文化協議会・GB協会・女性団体・農家	造形・絵画・手芸・お茶・GB・軽スポーツ・子どもにできる料理教室
山梨県	甲斐市	ゲートボール協会	屋内での活動に偏ってしまう放課後子ども教室について、外でのびのび体を動かす機会を確保するために、ゲートボール協会と連携を図った。この連携には、子どもたちに異年齢の方との交流する機会を設けたいという狙いもある。
山梨県	甲斐市	インディアカ愛好団体	屋内での活動に偏ってしまう放課後子ども教室について、天候に左右されず、かつ、のびのび体を動かせる機会を確保するために、インディアカ愛好団体と連携を図った。インディアカは団体スポーツなので、「協調性」の大切さを学んでもらう狙いがある。
長野県	駒ヶ根市	市スポーツ少年団	放課後子ども教室の中で、全市的なスポーツ少年団にも登録し、スポーツ少年団事体の活動も活発化している。
静岡県	磐田市	竜洋教育振興協会	コーディネーター及び学習アドバイザーを派遣していただいている。教職員OBであるため、個々の児童の能力に応じたきめこまやかな指導が実現されている。
三重県	木曽岬町	三重県環境学習センター	エコについての学習、特にゴミの減量化についての学習をしながら調理実習を行った。
京都府	城陽市	民生児童委員協議会	地域で活躍されているサークル活動や自治会の代表の方に依頼し、指導していただける分野(書道、絵画)を児童に提供していただいている。
京都府	城陽市	自治会	ボランティアの回覧をしてもらった結果、体験談、楽器演奏などの体験を児童に提供していただいた。
京都府	長岡京市	長岡京市環境の都づくり会議	環境、理科等の学習範囲の充実
京都府	長岡京市	長岡京市女性の会	家庭科、伝統文化、工作等の学習範囲の充実
京都府	木津川市	京都大学総合博物館	特別企画として、京都大学大学院生による現物のヘビ・トカゲ・カメ・骨格標本・化石に触れながらの生物の生態に関する講座を実施してもらい大好評を得た。(京都府の特別講師派遣事業の一環)

## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	連携団体	連携内容・連携により充実が図られた活動
京都府	木津川市	財団法人 千里文化財団	地域の大人向けに、風呂敷の歴史や包み方に関する講座を実施し、そこで学んだ大人の方が、放課後子ども教室の場で子どもたちに風呂敷の様々な包み方を伝えている。(京都府の特別講師派遣事業の一環)
京都府	笠置町	京都大学附属花山天文台	天文に関する専門的学習により、理科離れが課題となっている状況において、有益な学習機会となった。
大阪府	八尾市	大学	放課後子ども教室の英会話の活動で指導に入ってもらっている
大阪府	八尾市	青少年健全育成連絡協議会	地域で休日に取り組んでいるスポーツ活動の指導者として支援していただいている。
大阪府	田尻町	ボランティア連絡会、公民館利用者連絡協議会	小物作り、料理教室、押し花教室、手品教室などの実施
兵庫県	尼崎市	尼崎地域組織活動(母親クラブ)	学校や通常のこどもクラブでは体験できない芋ほり等の農業体験ができた。
兵庫県	尼崎市	尼崎市保健所	食育に関する事業を実施した。
兵庫県	淡路市	市内各スポーツ団体	-
兵庫県	加東市	すこやか	ある子ども教室で、ゲートボールの指導をしていただいた。
奈良県	大和郡山市	体育指導委員、自治会会員など	グランドゴルフ・カローリングなど、専門性の必要なスポーツを体育指導委員に指導してもらい、小学生にとっては難しそうなおもちゃもできるようになった。最近経験することが少なくなった、餅つき・お手玉などを周辺自治会会員に指導してもらうことなどにより、地域の人とふれあい・交流の機会が増えた。
和歌山県	橋本市	大学	将来、教職を目指す大学生が放課後子ども教室の学習支援を行っている。
和歌山県	紀の川市	社会福祉協議会	地域の方にも子ども達の余暇や放課後支援について興味を持っていただけたこと。この地域で子育てをする為に高齢者のボランティアさんがお手伝いいただけるようになったこと。
鳥取県	三朝町	三朝町食生活改善推進協議会	おやつづくりの指導(昔なつかしいおやつ)
鳥取県	三朝町	書道サークル	今年度から、サークル団体と連携し体験コースを設定。
島根県	美郷町	公民館	行政との連携共催事業により、周知まで幅広くできる。施設の使用料などがかからない。
島根県	美郷町	隣保館	人権学習の開催に関する立案、内容を計画など専門的にしてもらうことができた。
岡山県	津山市	津山高等専門学校	低学年を対象とした算数教室
岡山県	笠岡市	東笠岡スポーツ少年団	ソフトボール・卓球の指導とともに、田植え・稲刈り等の行事を計画し、日頃体験できない事を実施している。
岡山県	笠岡市	栄養委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが食に関して理解をもつ。</li> <li>・子どもが食材を大切にする。</li> <li>・食するときのマナーを身につける。</li> </ul>
広島県	尾道市	尾道市体育指導委員協議会	団体事務局と連携してプログラム・日程調整をし、ペタンク、カーリング等ニュースポーツを指導する体育指導員を派遣していただいた。教室活動の一環としてスポーツ体験活動を取り入れたことで、活動内容を充実することができ、異学年との交流が深まった。
広島県	東広島市	東広島地区算盤振興会	「そろばん教室」を連続講座として設定する。児童に対して、算盤に親しむ機会を設けたことで、学校で行う「和算」の教育活動が円滑に行えらるとともに、児童の計算力と集中力を高めることにつながった。
山口県	萩市	NPO萩まちじゅう博物館	博物館の専門員の指導による天文学習では、放課後の昼間に天体観測施設を利用して、学校では体験できない、本格的な太陽の観察などを行っている。

## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	連携団体	連携内容・連携により充実が図られた活動
徳島県	鳴門市	NPO法人「コスモスはうす」	NPO法人「コスモスはうす」は地域の宅老所であるが、その一部屋でパソコン教室を行われている。また、お餅つき等の年中行事は宅老所のお年寄りと一緒にいり交流を深めている。
徳島県	美馬市	地域ボランティア団体	年に数回でも催しをすることで、地域の人々と交流が図られている。手話や紙芝居を通じて、大人も子どもも学習が行われている。
徳島県	石井町	こどもプロジェクト1・2・3	子育て支援活動に関わってきた経験をいかし、ものづくり活動等で子どもの発達に応じた指導ができる。
徳島県	石井町	名月座	徳島の伝統文化「人形浄瑠璃」を体験することで、郷土への親しみをもち伝統文化への興味を持つことができた。
香川県	さぬき市	体育指導委員	あまりなじみのないニュースポーツなどを、専門的に楽しく教えてもらえるので、スポーツの幅が広がるとともに、幅広い年齢層で取り組むことができた。
福岡県	小郡市	開設している学校との連携	子どもたちの学力実態に即したプリント類の提供の必要性があるのではないかという意見から学校や担任の協力が、部分的だができつつある。
佐賀県	神崎市	華道教室	茶道の世界でも、有名な先生に指導をしていただくことにより、本物に子どもたちは触れることができる。
佐賀県	神崎市	ユニセフ	今年度は、「水から世界を考えよう」というテーマで活動をしていただいている。子どもたちに世界では泥水を飲まなければならない子どもがいることを知ってもらい、実際子どもたちが水汲みに使っている水甕を使って、小学校の隣の川まで水を汲みに行ってもらった。ただ話を聞いたり、映像を見るだけではわからないことを、実際重い甕を持って汲みにいくことで、水の大切さなどをより理解してもらえた。
佐賀県	吉野ヶ里町	西九州大学	児童に対し学習指導をしてもらっているが、児童からはお兄さん、お姉さんのような役割であり、質問しやすい雰囲気を作り出している。
大分県	豊後高田市	大分大学・別府大学	夏冬の長期休暇中の講座や宿泊体験スクール(セカンドスクール)では、大学生をサブの講師として派遣してもらっているが、年齢が近いこともあって、子ども達が気軽に相談等をしている。また、長期宿泊体験活動において、大分大学や別府大学の教授の出前講座(天体の勉強・チーズ作り)を行った。日頃体験できないことを学習できるので、子ども達は、興味津々である。
鹿児島県	曾於市	子ども会	ニュースポーツ等を取り入れた新しい体験活動を通じた支援。
鹿児島県	曾於市	図書館ボランティア	読み聞かせを通しての、読書(音読等)の指導。
鹿児島県	南九州市	各小学校	子ども1人1人の学習状況を教えてもらうことにより、子どものつまづきをじっくり指導できた。
鹿児島県	加治木町	退職教員	・パソコン指導 ・書道指導
鹿児島県	喜界町	町文化財保護審議会	地域の遺跡・史跡について、学習が深められた。
沖縄県	浦添市	小学校PTA	漢字検定試験に向けての学習支援。主に漢字の書き取りやプリント学習を行っている。
沖縄県	うるま市	沖縄ハンズオン	ITデザイナークラブ教室でパソコンの指導をもらう。基礎のタイピングから始め、敬老の日のお手紙や夏休みの思い出の作文をタイピングしたり、名刺づくりをしたりと工夫されたカリキュラムで楽しく学習することができた。
沖縄県	南風原町	南部広域行政組合教育委員会	・左記団体の視聴覚ライブラリーの機材・教材を無料で利用できる。子どもの情操教育に役立っている。

民間教育団体との連携

放課後子ども教室での学習支援活動に際し、民間教育団体と連携している市区町村から、具体的な連携事例として8件の記述回答が得られた。

具体的な連携先としては、そろばん塾や民間の学習塾との連携が中心となっており、こうした民間教育団体との連携により専門的な指導が受けられる点や学校とは異なる学習ができる点などでメリットがある一方、様々な学年の子どもと一緒に活動する放課後子ども教室では一人ひとりの子どもの習熟度や学習レベルに合った学習内容を提供したり、全学年が興味を持てる内容を提供したりすることが難しいといった指摘も聞かれている。

市区町村名	栃木県栃木市
連携団体名	開倫塾
連携に至った経緯	開倫塾が推進しているユネスコ活動を通し、栃木ユネスコ協会の事務局が生涯学習課に置かれている関係もあり、連携が始まった。
具体的な連携内容	毎週木曜日に開倫塾の栃木市在住の講師2名を、放課後子ども教室に派遣してもらっている。
連携のメリット・成果	私塾独自の指導方法で、子どもたちに学校と違った感覚で学習させており、いい刺激となっている。
連携上の課題・改善	独自にカリキュラムを組んでもらっているが、学年がバラバラであり、また、子どもたちの能力にも差があり、私塾の計画どおりには進んでいない。

市区町村名	埼玉県越谷市
連携団体名	DO ナツ
連携に至った経緯	コーディネーターからの紹介
具体的な連携内容	団体(個人)にコーディネーター及び指導員を依頼すると共に、活動(学習)プログラムについても作成していただいている。
連携のメリット・成果	新しい発想により、今までにない想像と創造をテーマとしたワークショップが展開されている。
連携上の課題・改善	団体と学校、地域、行政等が更に連携し、より地域に根付いた取組にしていきたい。

市区町村名	和歌山県橋本市
連携団体名	NPO紀見サポートクラブ
連携に至った経緯	紀見サポートクラブの方々が、最近子どもたちが漢字をあまり知らないことをどうにかしなくてはと思い、始めた。
具体的な連携内容	漢字学習のプリントを使用し、低学年を中心に取り組んでいる。
連携のメリット・成果	最初は、子どもたちの実態がわからずプリントの内容が子どもたちに適してなかった。そのため、該当学年の先生と話し合いを持ち、子どもたちの学習レベルに適した学習内容にするため工夫している。
連携上の課題・改善	-

市区町村名	広島県東広島市
連携団体名	東広島地区算盤振興会
連携に至った経緯	公民館活動の一環として実施していた講座を活用する。
具体的な連携内容	年間計画の中で教室指導者(学習アドバイザー)として協力を得る。
連携のメリット・成果	専門的な知識と技能の修得が得られ、学校の教育活動との連携も円滑に行える。
連携上の課題・改善	民間教育団体は、ある意味営利団体であるため、ボランティアとして協力を得るのは、初級程度までに限定される。それ以上の技能取得は、学習者の主体性により、そろばん塾等に通うなどの線引きを明確に行う。



## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

市区町村名	徳島県石井町
連携団体名	稲井珠算教室
連携に至った経緯	計算力のアップを目的にそろばんを取り入れるプログラムを立案。保護者の中に珠算塾講師がいたため依頼した。
具体的な連携内容	毎月1回 学年別指導
連携のメリット・成果	専門的な指導が受けられるため、子どもの理解力が高まる。
連携上の課題・改善	特になし

市区町村名	香川県琴平町
連携団体名	そろばん塾・英語塾
連携に至った経緯	本人から申し出があった。(広報募集をみて)
具体的な連携内容	そろばんの指導、英語の指導
連携のメリット・成果	専門的な学習ができる。
連携上の課題・改善	1年から6年生までいるので、習熟度別にできない。

市区町村名	佐賀県神埼市
連携団体名	学習塾
連携に至った経緯	前任者の知り合いで、夏休みのプログラムとして、夏休みの宿題を手伝ってもらえる人ということで、参加していただいた。
具体的な連携内容	算数についてのプログラムの講師
連携のメリット・成果	算数という難しく敬遠しがちに思えるものを、子どもたちが興味をもつような内容で教えていただける点。素人では、おもしろく伝えることができない。算数を勉強し、日ごろ子どもたちに教えている方でなければ、なかなか難しい。
連携上の課題・改善	全学年を対象としているため、低学年には難しかったようだ。全学年が興味をもつような内容にすることが課題。

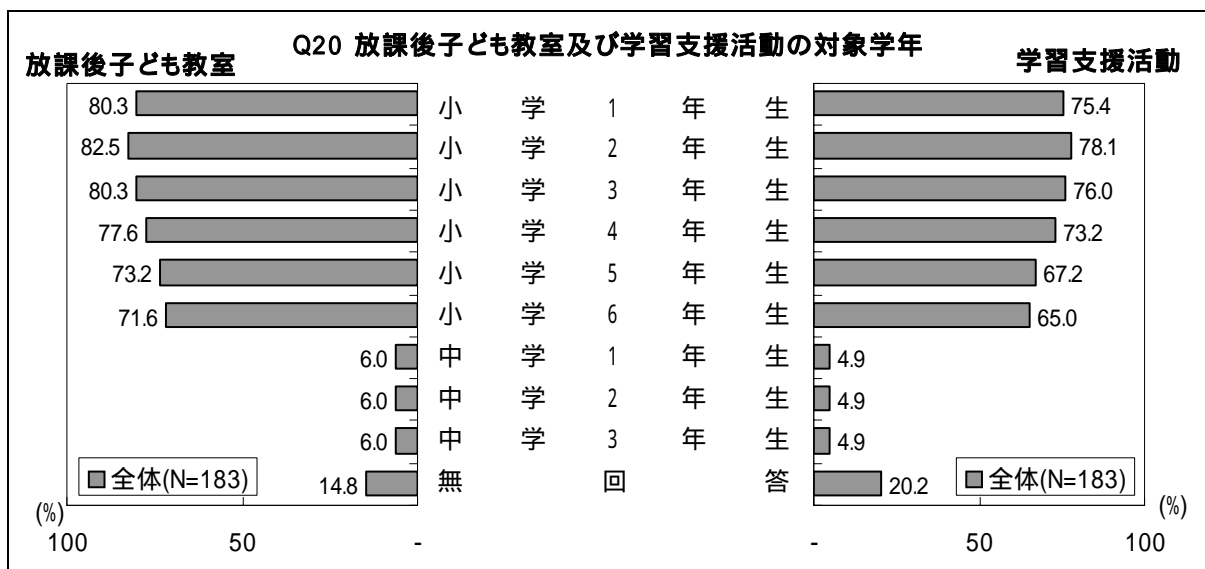
市区町村名	大分県豊後高田市
連携団体名	そろばん塾
連携に至った経緯	そろばんという特殊技能が要する講座では、プロの講師でなくては指導できない。
具体的な連携内容	塾の講師が、直接、子ども教室の講座日に指導してくれている。
連携のメリット・成果	子ども達が、塾でやっていることと、ほぼ同じ様式の学習を行っており、もっと上位の級に挑戦する場合、塾の方へ行くので、塾としても受講生の確保につながっている。
連携上の課題・改善	-

(3) 放課後子ども教室における学習支援活動

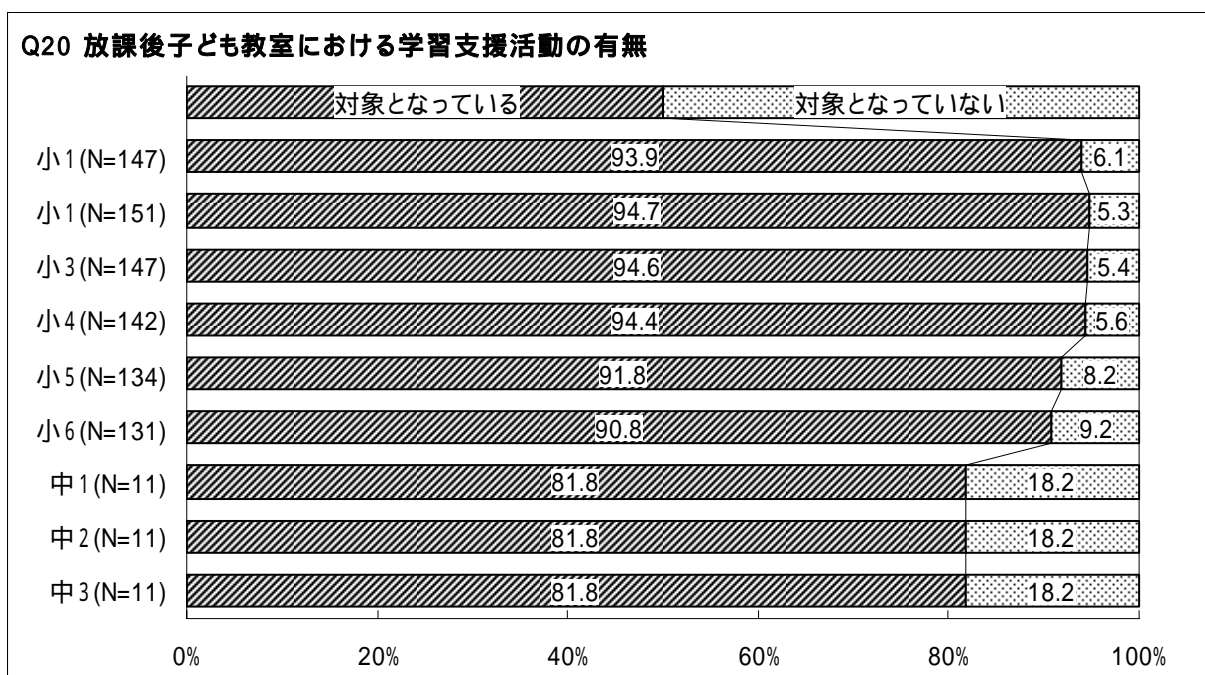
以降は、各市区町村において最も活発な学習支援活動を実施している放課後子ども教室を1教室選定してもらった上で、当該教室における活動内容について詳細を調査した。

放課後子ども教室及び学習支援活動の対象学年

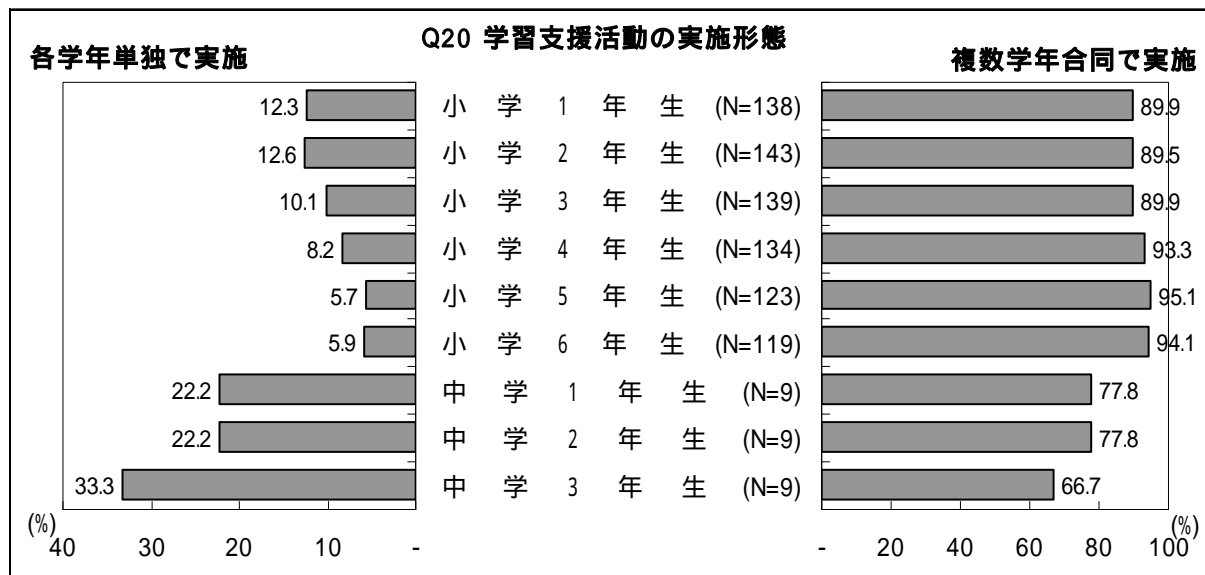
放課後子ども教室の対象学年をみると、小学生はいずれの学年も7割以上の教室が対象としており、特に小学校低学年については8割以上で対象となっている。これに対して、中学生が放課後子ども教室の対象となっている例はほとんどみられない。学習支援活動の対象学年についても同様の傾向がみられる。



なお、小学生については、放課後子ども教室で対象となっている場合は9割以上が学習支援においても対象となっており、中学生でも教室の対象となっている場合は8割以上で学習支援の対象となっている。



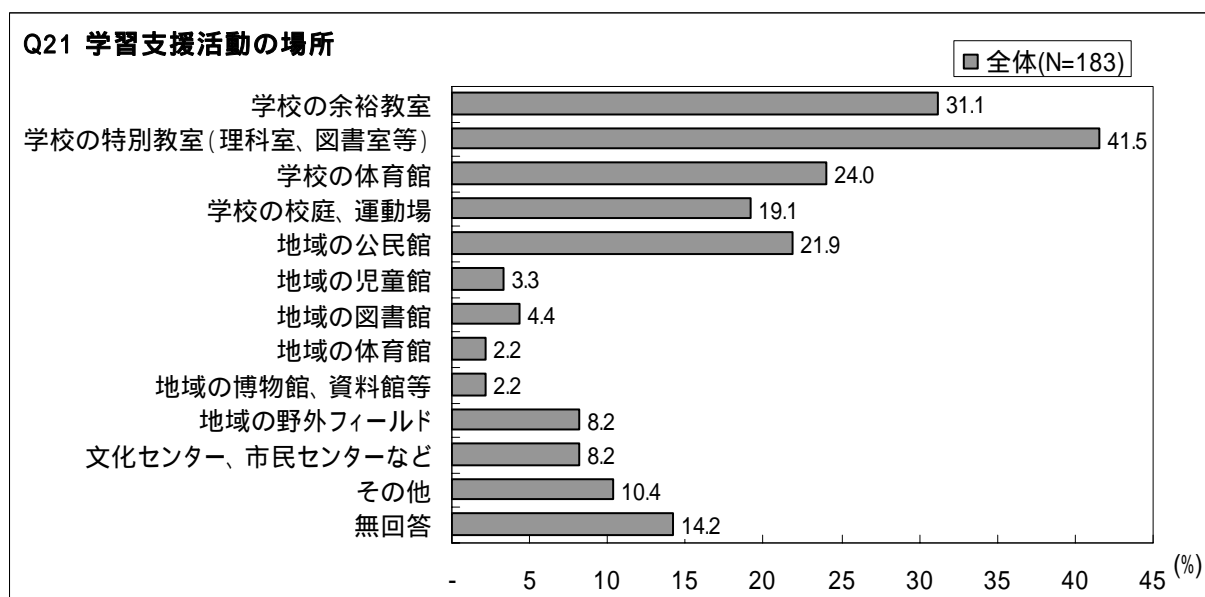
また、各学年の学習支援活動について、それぞれ学年単独で行われているか、あるいは複数の学年の合同で行われているかをみると、小学生ではいずれの学年も「合同」で実施されているケースが9割前後とほとんどであるが、低学年については「学年単独」で実施しているケースも1割程度みられる。一方、中学生については学習支援活動の対象としているケースそのものが少ないが、その中では学年単独で実施されているケースもある程度みられる。



学習支援活動の実施場所

放課後子ども教室における学習支援活動がどのような場所で行われているかをみると、「学校の特別教室(理科室、図書室等)」を活用しているケースが最も多く、41.5%となっている。次いで、「学校の余裕教室」(31.1%)や「学校の体育館」(24.0%)など、学校施設を中心に活動が展開されていることが分かる。

学校施設以外では、「地域の公民館」が21.9%と比較的高い割合となっている。

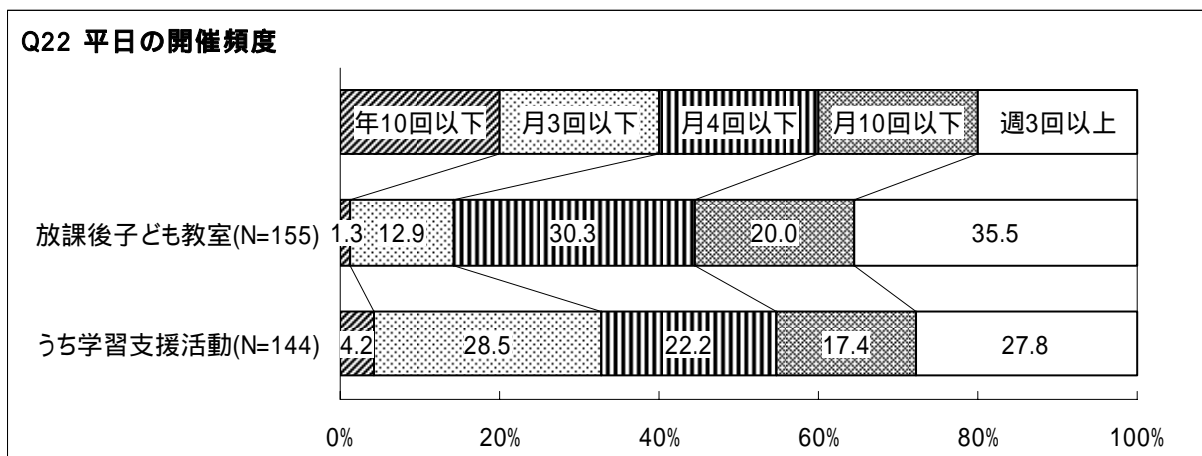


平成20年度における放課後子ども教室の年間開催日数と開催頻度

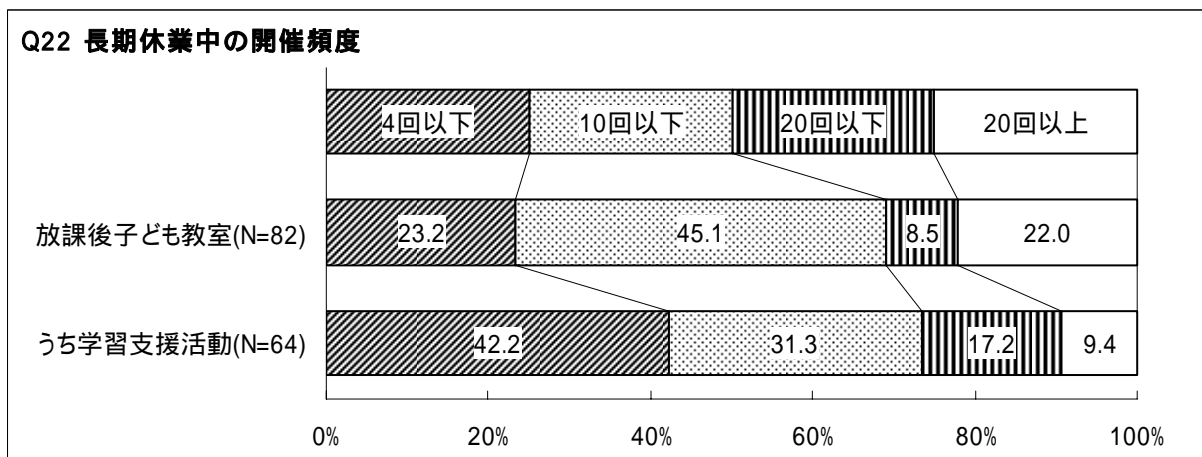
平成20年度における放課後子ども教室の開催について、年間開催日数(予定も含む)をみると、平日では平均62.5日、休日では平均10.8日となっている。

平日における開催頻度をみると、放課後子ども教室は「週3回以上」の頻度で開催している教室が35.5%と最も多いほか、「月4回以下(週1回)」の頻度で開催している教室が30.3%となっており、週1回以上の頻度で開催されているケースが全体の約85%を占めている。

このうち、学習支援活動の開催頻度をみると、「週3回以上」開催されているケースも27.8%と比較的多くみられるものの、月3回以下(週1回未満)が全体の3割以上となっており、放課後子ども教室自体の開催頻度より低くなっている。

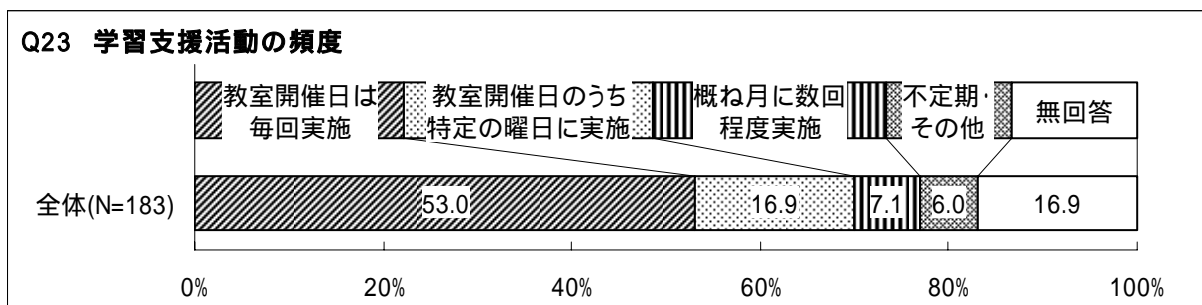


長期休業中における開催回数を見ると、放課後子ども教室は年間10回以下のケースが約7割を占めており、うち「(5回以上)10回以下」が45.1%となっている。このうちの学習支援活動の開催回数についてみると、「4回以下」が42.2%と最も多く、次いで「(5回以上)10回以下」が31.3%となっている。



学習支援活動の実施頻度

放課後子ども教室における学習支援活動の実施頻度をみると、「放課後子ども教室の開催日は毎回実施」が53.0%と最も多く、半数を占めている。次いで、「放課後子ども教室開催日のうち、特定の曜日に実施」が16.9%となっている。



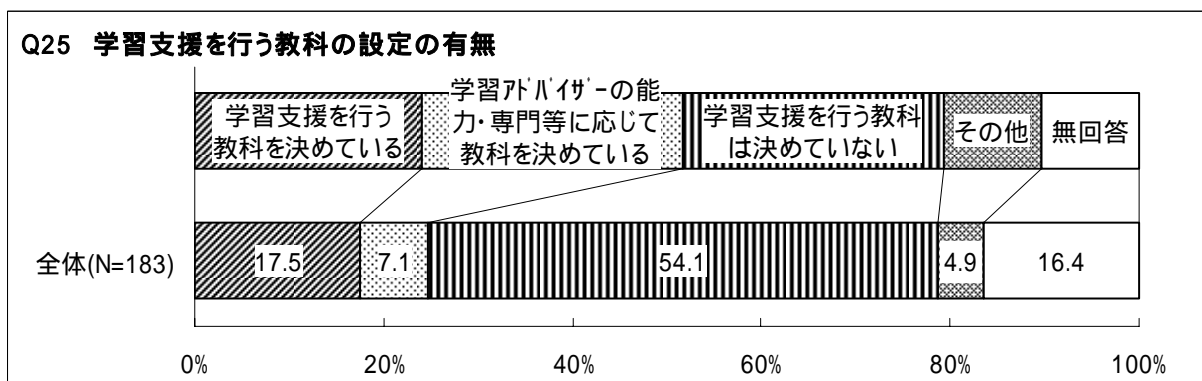
放課後子ども教室における1日あたりの学習支援活動の時間

放課後子ども教室のなかで実施される学習支援活動の時間について、1日あたりの平均時間をみると、平日では総活動時間平均1.9時間のうち平均1.2時間と、活動の大部分が学習支援活動の時間となっている。一方、土日祝日においては、総活動時間平均1.0時間のうち学習支援活動は平均0.5時間、長期休業中においては、総活動時間平均1.4時間のうち学習支援活動は平均0.7時間と、それぞれ活動時間の半分程度が学習支援活動に充てられている。

	総活動時間	うち学習支援活動の時間
平日の1日平均活動時間	1.9 時間	1.2 時間
土日祝日の1日平均活動時間	1.0 時間	0.5 時間
長期休業中の1日平均活動時間	1.4 時間	0.7 時間

学習支援を行う教科の設定状況

放課後子ども教室において学習支援を行う教科の設定状況をみると、「学習支援を行う教科は決めていない」が54.1%と半数以上を占めている。一方、「学習支援を行う教科を決めている」は17.5%、「学習アドバイザーの能力・専門等に応じて教科を決めている」が7.1%と、学習支援を行う教科の設定がみられるのは全体の25%程度である。



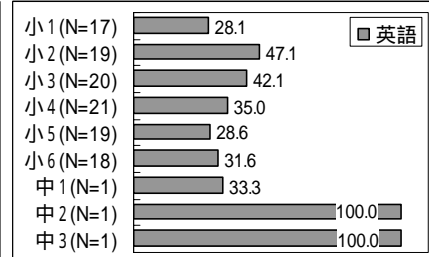
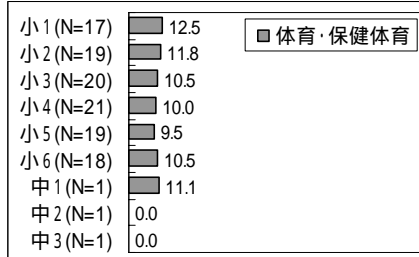
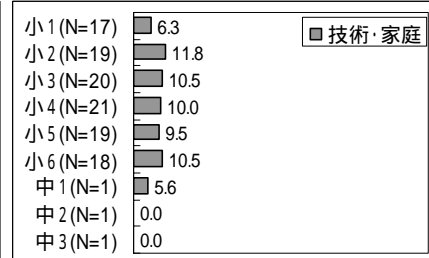
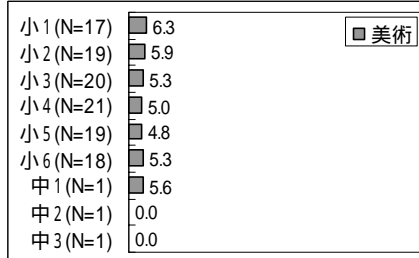
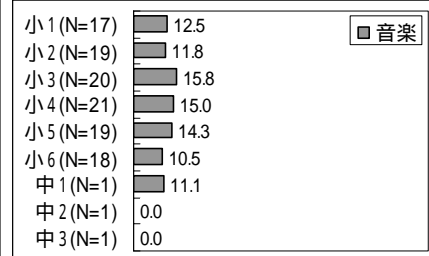
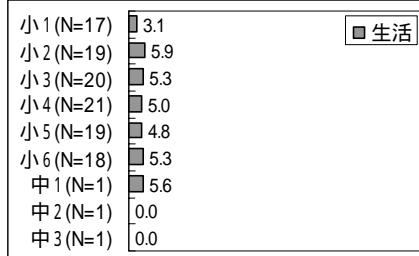
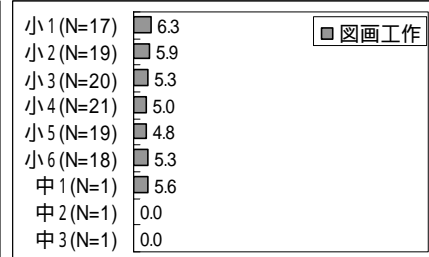
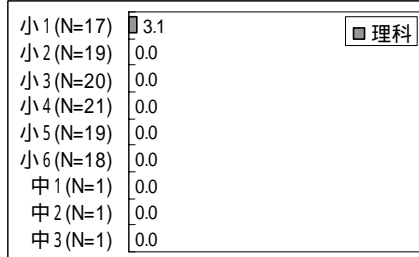
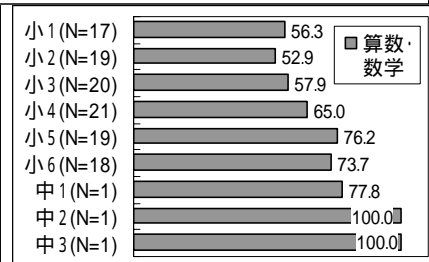
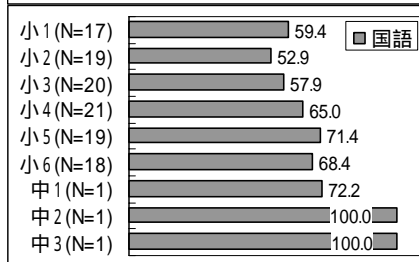
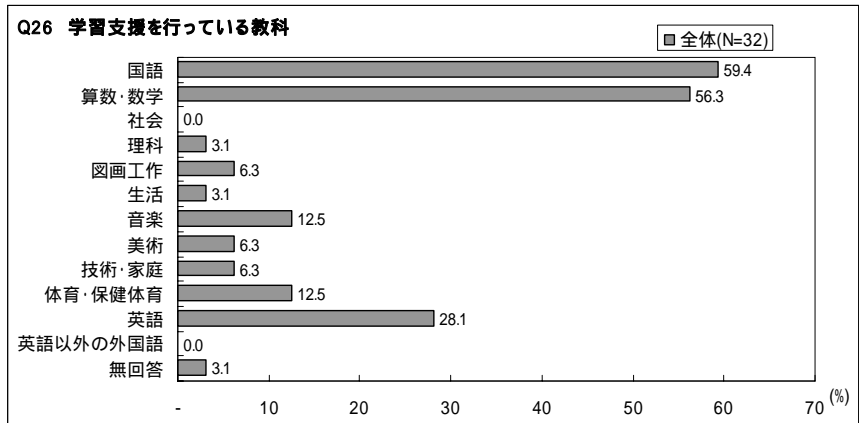
学習支援を行っている教科

「学習支援を行う教科を決めている」という32教室について、その具体的な教科の種類をみると、全体では「国語」(59.4%)と「算数・数学」(56.3%)が突出しているほか、「英語」も28.1%と比較的多くみられる。

学習支援を行っている学年別に、設定されている指導教科をみると、「国語」及び「算数・数学」については小学校低学年よりも高学年の方が指導教科としてより設定されている割合が高くなっている。

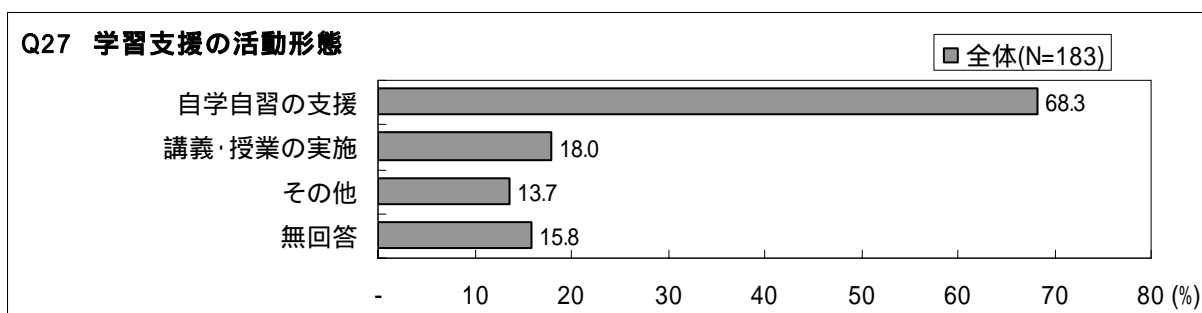
また、「英語」については、小学2・3年生でやや高い割合となっている。

その他の教科については、小学生では学年別にみても大きな差はみられない。



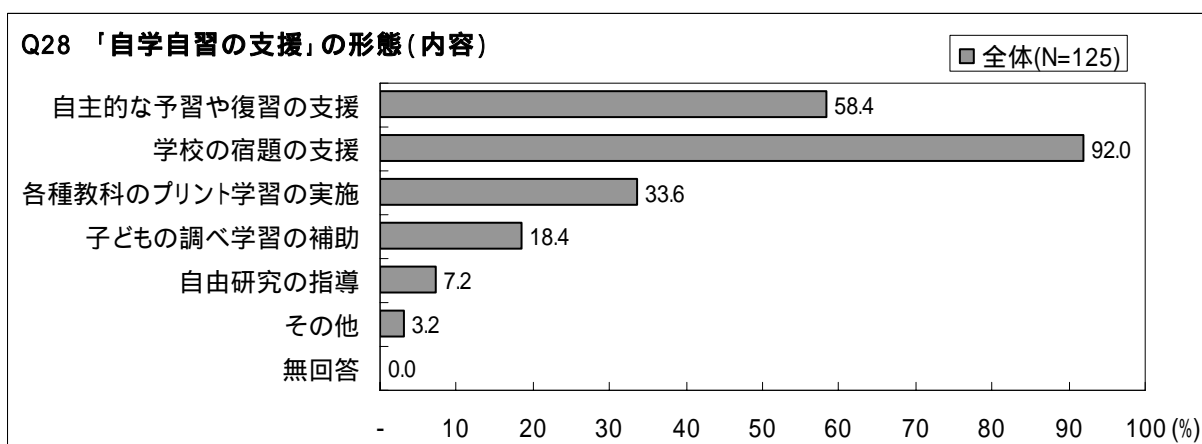
学習支援の活動形態

放課後子ども教室において、学習支援活動がどのような形態で行われているかをみると、「自学自習の支援」が68.3%と突出しており、「講義・授業の実施」は18.0%、「その他」は13.7%となっている。



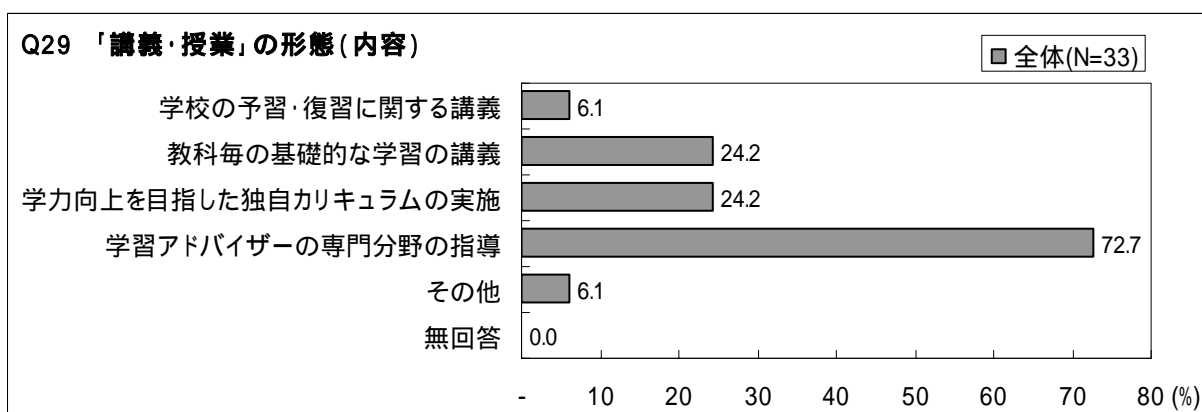
学習支援活動における「自学自習の支援」の形態（内容）

学習支援活動において実施されている「自学自習の支援」の形態（内容）をみると、「学校の宿題の支援」が92.0%と最も多く、次いで「自主的な予習や復習の支援」が58.4%となっている。



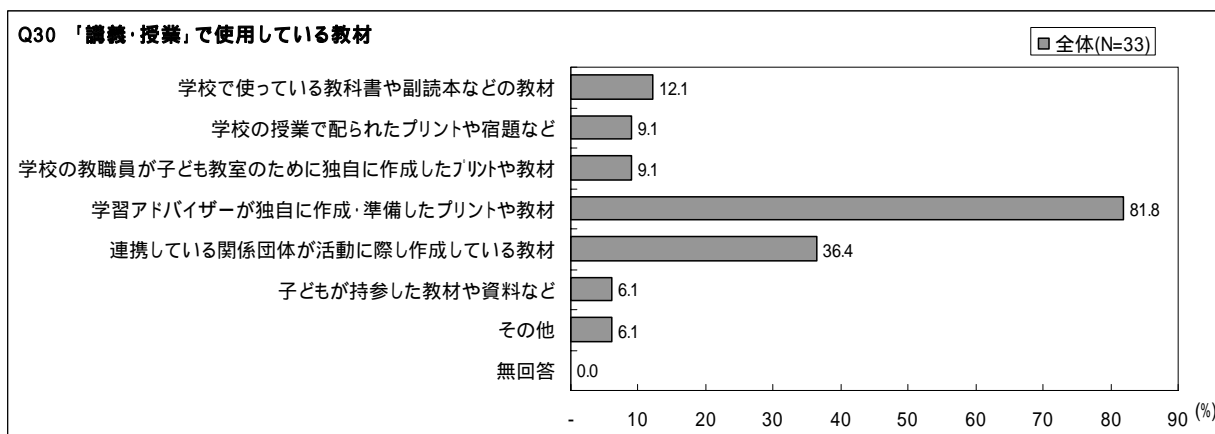
学習支援活動における「講義・授業」の形態（内容）

学習支援活動において実施されている「講義・授業」に関して、その形態（内容）をみると、「学習アドバイザーの専門分野の指導」が72.7%と最も多く、次いで、「教科毎の基礎的な学習の講義」及び「学力向上を目指した独自カリキュラムの実施」がそれぞれ24.2%となっている。



「講義・授業の実施」において使用している教材

学習支援活動において実施されている「講義・授業」においてどのような教材が使われているかをみると、「学習アドバイザーが独自に作成・準備したプリントや教材」を用いているケースが81.8%と最も多く、その他では「連携している関係団体が活動に際し作成している教材」を用いているケースが36.4%となっている。



放課後子ども教室における具体的な学習支援活動の流れ

放課後子ども教室における学習支援活動の流れについて具体的な記述を求めたところ、146市区町村から実際の活動の流れについて回答が得られた。

これらをみると、放課後に子どもたちがそれぞれ活動場所に参集して自主的に学習を始め、学習アドバイザーはその様子を見守りながら、子どもから質問等があれば個々に対応する、という流れになっている教室が多くみられるが、中には学校や放課後子ども教室で用意したプリント等の教材を使った学習活動を行っている例もみられる。また、放課後子ども教室の開設時間の中で、学習活動を行う時間をあらかじめ設定しているケースや、学年によって指導内容を変えているケースなどもみられる。

放課後子ども教室における具体的な学習支援活動の流れ（自由記述回答より）

都道府県	市区町村	具体的な学習支援活動の流れ
北海道	砂川市	学習アドバイザー1名を中心に、安全管理員2～3名、コーディネーター1名が補助を行い、宿題を主とした自主学習や全員で行う学習を行っている。添削はしていない。
北海道	東川町	平日の放課後に公民館に子どもたちが集まり、ホールが使える日は、まず「なわとび」をする。その後指導員が準備したメニューにより、体を動かす。ホールが使えない日は、会議室等を使い、工作等を行っている。(子どもたちが楽しくできるように、おもちゃを作って遊べるようなものが多い)
北海道	豊富町	毎回の集合時間から「宿題タイム」と称して20分程度宿題プリントの自主学習を行う。その後、全員が揃った時点でその日の活動メニューを行う。 独信用意したメニューは、「漢字がおもしろい」「数字のふしぎ」「ことばのビンゴ」などゲーム感覚で展開し、教科の苦手意識を取り除くように努めている。
北海道	大空町	平日の放課後や長期休業中の放課後子ども教室に参加した子どもたちが、児童館の集会室や図書コーナーで学校の宿題や自主的な予習復習を始める。1名の学習アドバイザーが巡回しながら子どもたちの質問に応じて指導している。
北海道	釧路町	放課後や長期休業中に小学校の余裕教室に子どもたちが集まり、好きな席で自主学習を始める。安全管理員2名と1名の学習アドバイザーが学習をサポートする。学習内容は主に宿題に取り組む子が多いが、学校からもらったプリントに取り組む子もいる。低学年の子ども達には、読書や絵本の読み聞かせを実施する場合もある。
青森県	十和田市	平日の放課後に小学校の特別教室に子どもたちが集まり、好きな席で宿題等自主学習を始める。学習アドバイザー1名、安全管理員1名で教室を巡回しながら、子どもたちにアドバイスをしている。その後昔遊び、工作などを体験している。



## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	具体的な学習支援活動の流れ
青森県	むつ市	平日の放課後、勇気ランド子ども教室に帰ってくる。1年生は決まった席(他は自由)で宿題を行う。学習アドバイザー1名、安全管理員1~2名で子どもたちを見守り、わからないところなどは教科書を使い一緒に調べる。音読を全員で済ませたら、その日よりプリントを作ったり、書き取りテストを行ったりする。水曜日は英語の講師を招いて学習する。木、金は珠算を取り入れて数についての学習を行っている。
青森県	外ヶ浜町	平日の放課後に集まり、主に、低学年の宿題の支援を行っている。また、できる範囲において要望に応じて、質問等に答えている。
青森県	五戸町	毎週水・金曜日及び月1回土曜日に公民館に子ども達が集まり、学習アドバイザーが計画した内容について指導している。 平日は学習アドバイザーが1名と安全管理員1名、土曜日は学習アドバイザー1名と安全管理員2名を配置し、地域のボランティアの方々も5名程度きていただき、子ども達とのふれあいをお願いしている。
岩手県	盛岡市	毎週木曜日の開催日の放課後に、当公民館で用意した学習室に子どもたちが集まり、好きな席で自習を始める。学習アドバイザーと社会教育指導員(退職教員)などの公民館職員が室内を巡回し、基本的には子どもからの質問に答える方法で指導する。普段は学校の宿題がほとんどで、各種プリントや書き取りなどが多いため、基礎的な文字の書き方指導や、計算へのアドバイスにとどめるが、夏・冬長期休業期間内には、課題研究への具体的なアドバイスや、問題解決へのアプローチなども行う。
岩手県	花巻市	平日の放課後に小学校の余裕教室に子どもたちが集まり、好きな席で自主学習を始める。小学校の読み聞かせボランティアグループメンバーでもある学習アドバイザー1名と、地域のボランティア2~3名が読み聞かせをした後、宿題や学習用のプリント(主に単純な反復計算)を用い、教室内を巡回して子どもたちの様子をうかがいながら指導を行っている。
岩手県	北上市	平日の放課後に小学校の余裕教室に子どもたちが集まり、受付を済ませると、好きな席で自主学習を始める。多くの子どもたちは宿題を行うが、読書をしたり、なかには授業の復習やテストの見直しをしている子どももいる。平日の活動時間は2時間だが、そのうち最初の1時間を学習時間としている。
岩手県	一関市	平日の放課後に、図書館の会議室に子どもたちが集まり、好きな席で自主学習を始める。退職教員による学習アドバイザーが2名おり、子どもの質問に応じて指導を行っている。宿題が終わった後は、図書館の本を利用して読書をするように指導している。
岩手県	釜石市	毎週火曜日に学校施設内地域連携施設にて放課後子ども教室を開催しており、子ども達は教室で遊ぶ前に宿題や自主学習を行うこととしている。安全管理員兼学習アドバイザーが、子ども達の学習活動を見守りながら、わからないところがある場合は適宜指導を行っている。
岩手県	奥州市	平日の放課後に開催し、集まった子どもたちは最初に宿題を行う。退職教職員等の学習アドバイザーが子どもたちの質問に応じて個々に指導している。その他に、週に数回、全員で遊びながら学べる内容の学習(英語の歌、漢字の書き順等)活動を行っている。
岩手県	平泉町	平日の放課後に余裕教室に子どもたちが集まり、宿題に取り組む。子供たちの質問等に学習アドバイザーが応え、地域のボランティアが補助にあたる。
宮城県	白石市	平日の放課後に小学校の体育館に子どもたちが集まり、ステージ上の広場でそれぞれ希望する活動をはじめる。学校の宿題をするのも自由である。宿題について聞かれれば活動スタッフ兼学習アドバイザーが答える程度等内容は様々。主に活動日の前半を自由に勉強や遊ぶ時間、後半をみんなで遊んだり、季節の行事やニュースポーツ、読み聞かせ、体験学習等の時間にあてている。
宮城県	岩沼市	平日の放課後に小学校の余裕教室に子どもたちが集まり、決められた場所で自主学習を始める。退職教員等の学習アドバイザーが子どもたちの学習を見ながら、質問があった場合や分からない所を指導する。
秋田県	由利本荘市	平日の放課後に小学校の余裕教室を使用し、全ての学年を対象として退職教員の学習アドバイザーが1名、安全管理員等の教室スタッフが2名程度参加している。内容は宿題や学校で用意したプリント学習の支援を行っている。児童は自主的に問題へ取り組み、解き終わったら学習アドバイザーに添削をしてもらう。教科は特に問わない。
山形県	酒田市	平日の放課後に図書室等を集まり、宿題を中心に学習する。スタッフが1名配置されている。また、家庭工作室・体育館等でも工作等の指導を行っている。
山形県	白鷹町	平日の放課後に放課後子ども教室用の部屋に集まり、希望者が好きな席でその日学校から出された宿題をする。教員免許を保有している学習アドバイザーが1名、放課後子ども教室のスタッフの補助者が2~3名おり、教室内を巡回しながら、質問に応じて指導を行っている。
福島県	相馬市	平日の放課後(週2回)に、小学校の図書室に子供たちが集まり、退職教員1名が中心となって子どもたちの自主学習を見守る。特に1名の学習障害と思われる児童には、必ず退職教員が張り付き、学習の支援を行っている。

## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	具体的な学習支援活動の流れ
福島県	本宮市	平日の放課後に小学校の余裕教室に子どもたちが集まり、好きな席で学校の宿題を進める。活動指導員、安全管理員計4名が、子どもたちの学習活動を見守る。月に1回程度、英語やおはなし会といったプログラムを設定し、この活動は学習アドバイザーが中心に、子どもたち全員と活動を進める。
茨城県	筑西市	平日の放課後、村田小学校の生活科室に放課後子ども教室に参加している子どもたちが集まり、好きな席で自主学習(宿題等)を始める。退職教職員の学習アドバイザー・安全管理員(1名)、コーディネーター(1名)が、巡回しながら自主学習(宿題等)の支援をする。
茨城県	河内町	平日の放課後に小学校の体育館で、65歳以上のボランティアの方々に参加を希望する子供たちで、昔の遊び(なわとび、あやとり、けん玉など)と一緒に遊ぶ。ボランティアの方々には子供たちへの昔遊びの指導をさせていただいている。
栃木県	栃木市	毎週木曜日に、地域のコミュニティセンターの会議室に子どもたちが集まり、1年生のグループとそれ以外の学年のグループに分かれて机を並べかえる。それぞれに1名の学習塾講師がつき、指導を行っている。それぞれの能力にあった塾独自のドリルやプリントを使用して学習させている。実施後は講師が添削を行い、また次の段階のドリルやプリントに進むようにしている。
栃木県	鹿沼市	土曜日の午前中、学生のアドバイザーが2名程度で小学生の指導。子どもたちは自分でプリントを持参。わからないところなどを聞いたりしながら学習をすすめていく。
埼玉県	所沢市	平日の放課後に小学校の図書室に子どもたちが集まり、好きな席で宿題や自主学習を始める。学習アドバイザーが1名図書室にいて、子どもたちの質問に応じて指導を行っている。
埼玉県	越谷市	土曜日午後科学技術体験センターに登録児童が集まり、好きな席に着席する。開始時間になるとメイン講師が演台に立ち、PC、プロジェクター、スクリーン等を使用し子どもたちと共にPC講習を進める。子どもたちには、各自1台のPCが用意されている。講師はメイン講師他サブとして約10名程度配置され、子ども2名～3名に1名程度の割合で配置される。
埼玉県	蕨市	毎週月曜日(学校行事・長期休業日を除く)放課後に各小学校の余裕教室等にて参加登録児童たちが集まり、自らが自習できる場所を確保して学習活動を始める。学習アドバイザー2～3名と安全管理員や地域ボランティア補助として指導及びサポートを行っている。
埼玉県	新座市	土曜日の午前10時から午後0時までを活動時間とし、児童それぞれが学力にあった漢字学習プリントを実施後、6名程度の学習アドバイザーが添削をして、子どもに返却する。また、全参加児童合同で読み聞かせや古文の朗読等を行う。年度末には学習の成果を試すため、漢字能力検定を受検する。
埼玉県	小鹿野町	平日(火)に放課後、教室に集まり、自主学習を始める。学習アドバイザーが1名～2名で補助する。 長期休業中の学習については、文化センターの教室で人数によって2箇所に分かれ、各自自主的に学習をする。(宿題、自主学習、調べ学習、自由研究など)学習アドバイザーが適宜指導する。
千葉県	木更津市	当日の学校の実施教室(図書室・PC教室)で好きな席で宿題などの自主学習を始める。学習アドバイザー1名が子ども達の質問に応じて指導を行ったり、読み聞かせをしったりしている。
千葉県	東金市	平日木曜日の放課後に小学校の余裕教室に放課後子ども教室参加児童が集まり、最初の30分間、自主学習を行う。退職教員等の学習アドバイザー1名が、教室内を巡回しながら子供たちの質問に応じて指導を行う。子供たちは主に宿題に取り組み、宿題の出なかった子などは、自主的に課題を決め学習する。
千葉県	柏市	学習支援活動に応募した子ども達は、平日の放課後に、決められた教室に入る。入った時に自分名札をつける。(出席のチェック)決められた席で自主学習を始める。教員免許を持っていない方(公文での経験者)2人と学生ボランティア1人で、巡回指導のほかに質問や課題を終えた子ども(挙手)へ出向いてチェック及び間違い等の指導をする。課題を終えた子どもに学習用のプリントをすすみ添削する。終了時は後片づけと帰りの支度をし、「さようなら」のあいさつをする。帰りは、迎えに来た親へ引渡し、名札を返却する(親の迎えの確認) 学習アドバイザー2人～3人で全てに対応。
千葉県	富里市	この教室では、今年度は毎回外国人の学習アドバイザーを替え、いろいろな国について学んでいる。主に、平日の放課後に小学校の特別教室に子どもたちが集まり、安全管理委員は、名札、ポイントカード、インタビューシートなどを子どもたちに配布する。子どもたちは、当日の学習アドバイザーがどこの国の先生か、好きな食べ物は何かなどを予想する。その後、子どもたち一人一人が学習アドバイザーと英語であいさつをする。子どもたちは英語で学習アドバイザーに英語で質問し、自分の予想と当たっているかをチェックする。予想とアドバイザーの答えが一致していたら、安全管理委員がスタンプを押す。その後、グループ分けをして英語ゲームを行う。また、季節にあった製作活動を英語を交えながら行う。最後は、学習アドバイザーと握手し、あいさつを交わして終了となる。

## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	具体的な学習支援活動の流れ
千葉県	大網白里町	平日の放課後に小学校の余裕教室に参加登録している子どもたちが集まり、予め決まっている席で自主学習を始める。教室は学習アドバイザーを2人配置しており、教室を巡回して子どもたちの質問に応じて指導を行っている。 なお、教室には安全管理員も1人配置しており、指導の際に学習アドバイザーの補助を行っている。
千葉県	芝山町	平日の放課後に指定した特別教室(その日に使用可能な教室)に子どもたちを集める。出欠を確認後、自主学習を始める。(学年によっては既に準備をして始めている児童もいる。)学習アドバイザー、コーディネーター、安全管理員のいずれかが組になり複数名で監督し、子どもたちの質問に応じてアドバイスを行っている。
東京都	中央区	平日の放課後に子ども教室のホームルームに子どもたちがつぎつぎとやって来る。受付終了後、子どもたちの自主的な活動を基本としていることから、体育館や校庭等で元気に遊ぶ子がいる一方、ホームルーム内の机がある空間で自主学習を始める子がいる。主には宿題を行っているようであるが、教員免許を持った学習アドバイザー(職員)がその場につき、子どもたちの質問等に応じて指導を行っている。
東京都	文京区	平日の放課後に小学校の生活科室(オアシス広場)に子どもたちが集まり、ICカードによる入退室管理システムにより子どもの入室が確認されると、子どもたちは各々の遊び場(校庭、体育館、屋上、生活科室)へ行く。遊び場に行かない子はオアシス広場にある机に座り、宿題や習い事の勉強を始める。わからない問題等を学習アドバイザー(ボランティア)が補助をする。また、漢字検定の受験を考えている児童に対しては、漢字検定チャレンジ教室も開催する。
東京都	品川区	前もって申し込みをした児童対象に、小学校の余裕教室にて、好きな席や指定した席等その時の児童の様子にて座席が決まる。指導員が前もって用意した課題のプリントや学校の宿題をやらせ、巡回指導及び添削を行う。また、毎日5時以降残留児童に学校の宿題を中心に組み合せ、わからないときは指導を行う。長期休み等は朝9:30まで学習時間を設け、各自用意した課題に取り組みせ、わからない箇所は指導を行っている。
東京都	渋谷区	土曜日の午後10:30に小学校の余裕教室に子どもたちが集まり、シルバー人材センターより配置された退職教員等1~2人からプリント学習指導を受ける。(プリントは当日の講師が作成)
東京都	杉並区	平日の放課後に、小学校の特別教室に子どもたちが集まって行く。まず、授業が終わった低学年の1・2年生が集まり、ローテーブルの学習アドバイザー(1名)の周りに好きなように集まり、英語のカード合わせやゲーム、プリント等を約1時間30分行う。低学年が終了したら、次に中学年の3・4年生が集まり、同じような形で英語を約1時間30分行う。中学年が終了したら、高学年の5・6年生が集まり、同じような形で英語を約1時間30分行う。基本的な内容はゲーム感覚で楽しめる英語を中心として学習するが、高学年になるにつれ、少しずつレベルアップを図っている。
東京都	豊島区	区の放課後対策として展開している全児童クラブ「子どもスキップ」のスタッフが日頃の学習(宿題など)の補助を行っている。「放課後子ども教室」では学校と共催で集中的に行う学習教室やテーマを決めた学習を月に1~2回または単発で行っている。
東京都	練馬区	放課後に学校の定められた部屋(ひろば室)に集まり自主学習を始める。部屋には1から2名のスタッフがいて質問があれば答えている。
東京都	八王子市	余裕教室を活用し、そろばんの指導を行っている。
東京都	青梅市	放課後子ども教室開催時(水曜日、午後3時~6時)に余裕教室に勉強をしたい子どもたちが集まり、好きな席で自主的に勉強をしている。退職教員であるアドバイザーが子どもたちを見守っている。学習支援員が自主的に学習用のプリントを用意し、適宜子どもたちに配布している。子どもたちが実施した後、答え合わせと添削をし、返却している。
東京都	日野市	放課後、「ひのっち」教室において受付をした子どもたちは、体育館・校庭・教室など「ひのっち」の活動場所と同級生や学年の異なる子どもたちと遊んだり学んだり、自由に過ごしている。学習アドバイザーは、月に数回、学びやスポーツ、文化活動や地域との交流活動等のプログラムを指導する。
東京都	清瀬市	平日の放課後にまなべ実施教室に登録した子どもが集まり、好きな席で宿題を始める。学習アドバイザーが2名、安全管理員が2名補助として、教室を巡回しながら子どもたちの質問に答え指導を行っている。
東京都	あきる野市	今年度より、「やることやって遊ぼうよ!」ということで、毎回集合すると宿題や自習用具を各自が持って図書室で30分ほど学習する時間を設けている。この際子ども教室のスタッフ・ボランティアが主に見守りを行い、児童の質問に対応している。 また、特別プログラムとして、各学期2~3回程度「科学実験教室」や各種体験活動を取り入れている。

## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	具体的な学習支援活動の流れ
神奈川県	平塚市	土曜日に小学校の特別教室(家庭科室等)に子どもたちが集まり、好きな席に着席する。退職教員等の学習アドバイザーが1名、学習用のプリント等を使い基本的な英語の授業を行う。
神奈川県	藤沢市	給食のある日の放課後に、放課後子ども教室に参加したい児童は、参加のための受付をする。日によって開放できる施設(活動教室、自習教室、体育館、校庭)は異なるが、受付後は、どこで過ごすのも、児童の自由となっている。月・水・金曜日は、自習教室に学習アドバイザーがいるので、自習等の際に、アドバイスを求めることもできるようになっている。学習アドバイザーは児童の自主的な学習の支援と児童の安全管理を行う。
新潟県	長岡市	平日の放課後に小学校の建物内にある児童館に子どもたちが集まり、会場へ移動し、指導者の計画に添って学習活動が展開される。指導者には、学習アドバイザーとして専門的な知識・技能をもっている方が1~2名、児童厚生員・安全管理員・地域のボランティアが1~4名程度補助についている。学習材については、指導者が準備したり、児童館で指示されたものを用意したりしている。
新潟県	柏崎市	学習アドバイザー1名と安全管理員2~3名を毎回配置し、体験活動等を実施。その活動を通して、子ども達の健全な成長に必要な知識・情報・意識・技術等を習得させている。
新潟県	上越市	月、水、土曜日に学校向かいの公民館において、子ども達が集まり、好きな席で宿題等をする。退職した保育士等の学習アドバイザーが1~2名が宿題について質問に応じる。宿題や、自主学習が終わった頃に、折り紙、工作、自由画を描いたりしている。体育館で遊ぶ場合もある。土曜日については、特別なメニューを考えて、工作、調理実習をしている。時には、婦人会と合同で、平和学習などをする場合もある。月初めにお知らせのチラシを来た子ども達に配っている。
富山県	高岡市	子どもたちが放課後それぞれに教室に集り、主に宿題や塾の課題を持参してきて好きな席で自習を始める。学習アドバイザーが1名、安全管理員が1名、教室におり、子どもたちが必要に応じて質問をしてくるのに応える。各々の課題を終えた子どもたちは、読書をしたり、絵を描いたり遊んだりして思い思いの時間を過ごす。その中で、学年やクラスを越えた交流が行われる。また、普段は児童育成教室に待機の数人の子も、宿題をしにやってきて、宿題が終わると戻っていく。
富山県	水見市	平日の放課後に小学校の図書室に子どもたちが集まり、好きな席で自主学習を始める。地域の民政委員・児童委員がアドバイザーとなり、2~3名が補助し、教室を巡回しながら子どもたちの質問に応じて指導を行っている。
富山県	射水市	週1回程度、平日の放課後、新湊小学校の余裕教室に学年を問わず子どもたちが集まってくる。特定の座席は決められてはなくて、学習準備のできた子から教室の後ろにある国語と算数のプリントコーナーから自分でチャレンジしたいものを選び学習する。書き終えた児童は学習指導員のところへ行き、プリントの添削してもらい、解き方のアドバイスを受ける。
富山県	上市町	平日の放課後に下校前に体育館に集まり、学習アドバイザー1名が講師となり、補助員2~3名で基礎体力作り(マット運動、鉄棒等)を行う。
富山県	立山町	活動日の放課後に、小学校の(主に)音楽室に、参加児童が集まり、学習アドバイザーに出席を伝え、名札をつけ、学習プリントを受け取って席につく。出来上がったプリントはアドバイザーに採点してもらい、次のプリントへ進む子や、宿題に取り組む子もいる。宿題の添削はしない。「読み聞かせ」「音楽」「習字教室」の日がある。終了後は名札を返却し、下校する。アドバイザーは本日の参加者の確認をし、活動日誌を記入する。
富山県	朝日町	月2回の実施日に参加者が図書室にあつまり、好きな席で宿題・自主学習を始める。退職教員である学習アドバイザーが1名、教室内で児童の学習を見ている。英会話は、年18回あるうちの4回行っており、宿題時間終了後、特別教室にて英語を使ったゲームなどを行うことで英語に親しんでいる。
福井県	池田町	学校の生活室に集まり、学校の宿題がある時は各自行いお友達や体験教室の準備をしたりして待つ。(学校の宿題の無い曜日を教室に計画している。)
福井県	おおい町	合宿通学期間中、ボランティア団体に児童の宿題を見守る
山梨県	甲斐市	開催日、子どもたちが放課後に会場へ集まる。子どもたちはテーブルがある部屋に集まり、学校の宿題に取り掛かる。学習アドバイザーや会場である児童館の職員が子ども達の支援をする。「子どもたちが自分で考えること、調べることを重視しており、学習アドバイザーや児童館職員が講義をすることはなく、答えを見つけ出す「手がかり」を与える形式である。
長野県	駒ヶ根市	平日(夏季も含む)の放課後、小学校の体育館において、学習アドバイザーがリズム体操の指導、また月2回、子供の発達段階に応じサッカーに親しませている。また公民館の会場で囲碁の指導も行っている。
長野県	原村	放課後子ども教室へ来所した子どもたちは、学習したい子だけが、やりたい時間帯に、公民館の空き部屋で、学校の宿題を中心に自主学習を行っている。その日の学習アドバイザーの担当になった指導員が子どもたちの質問に応じて指導を行っている。

## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	具体的な学習支援活動の流れ
岐阜県	羽島市	平日の放課後に小学校の特別教室に子どもたちが集まり、宿題などの自主学習を始める。学習アドバイザー3名、及び支援をして下さる当該学校の教員数人が、教室内を巡回しながら子どもたちの学習活動を見守っている。また、学習用のプリントも数種類用意しており、宿題を終えた子どもは好きな課題に取り組み、学習アドバイザーが添削をして子どもに返却する。
岐阜県	神戸町	毎週木曜日、低学年下校時より、白鳩教室を行う。(高学年下校時刻まで)通常は一時間程度の教室活動のため、子供のニーズに答えた形で、遊びを行うが、学校の都合により、下校時間が早い場合、教室の時間が長い時は、遊び半分学習半分となり、学校の宿題の支援を行った。
岐阜県	坂祝町	子どもたちは、学校敷地内に子ども教室専用の建物があるため、歩いて施設まで来る。受付カードを提出して2階へ上がる。(ランドセルの片づけ 勉強道具を出す。) 受付後30分間は、自主学習タイムとなっているので、各自が自学自習する。
静岡県	磐田市	平日の放課後に小学校の余裕教室に集まり、自主的に学習を始める。退職教員の学習アドバイザーが、4、5人入り、子どもたちの指導にあたる。学習プリントも用意しており、学習の補助として使用している。
静岡県	牧之原市	平日の放課後に、小学校の空き教室(学習室)に子どもたちが集まり、好きな席で指定されたプリントや問題集の該当部分に取り組み始める。学習アドバイザーが1名、教室内を巡回しながら、子どもたちの質問に応じて指導を行っている。学習アドバイザーは、一人一人の子どもの学習記録カードに、その日の様子を一口メモとして記入し、保護者への連絡としている。保護者からの書き込みが寄せられることも多い。その子どもの実態に応じて、アドバイザーが宿題を出す場合もある。その宿題は、放課後支援の際に、アドバイザーが点検・確認をしている。
愛知県	一宮市	平日の放課後に小学校の特別教室に子どもたちが集まり、学年別の指定席で自主学習を始める。退職教員等の学習アドバイザー2名が教室内を巡回しながら子どもたちの質問に応じて指導を行っている。また、音読をする子どもたちは指導員を囲んで教科書を読み指導を受けている。
愛知県	瀬戸市	おおまかな説明をした後に、問題集などを使って具体的な指導を行う。最後には、応用問題などに挑戦する。
愛知県	半田市	週2回月・水の放課後に生涯学習施設に子どもたちが集まり、好きな席で宿題を始める。地域のボランティアが宿題の補助をする。宿題が終了したら基本的には学習支援活動は終了。
愛知県	春日井市	平日の放課後に小学校の余裕教室に子どもたちが集まり、宿題を始める。スタッフは子どもたちの自主性にまかしている。
愛知県	刈谷市	平日の放課後に、小学校で子どもたちは学習ルームにて宿題等、自主学習を始める。元教員の学習アドバイザーが1名、教室内を巡回しながら、子どもの学習の支援・助言を行っている。
愛知県	西尾市	学習アドバイザーは理科専門の退職教員で、個人の自宅で開設している。科学的なおもちゃ類を中心に、子どもたちが興味を持って取り組める教材を準備して、ひとりひとりの子どもたちにそれを使って遊ばせたり、考えさせたりするとともに製作させることもある。教材は豊富に準備してある。
愛知県	犬山市	各教室で、登録した受講者が、学習アドバイザーから、その教室で実施する伝統文化、芸術、スポーツ、ものづくり体験などの指導を受けている。
愛知県	美和町	学習支援の時間には、宿題のある児童が、部屋に集まり、宿題をする。宿題に関し、分からない箇所があれば、学習アドバイザーが対応し、指導する。
愛知県	小坂井町	土曜日(指定日)の午前中に小学校の工作室に子どもが集まり、その日のテーマに沿って指導者の指導により、手作り工作等の学習を始める。指導者は個々の指導を行い全体のバランスを見ながら学習を進める。
三重県	木曽岬町	参加申込のあった子どもたちが公民館に集まり、サークル代表者から指導を受けながら文化的交流、集団活動を学ぶ。その際、参加している子ども達の保護者がボランティアで補助として教室に参加してもらっている。
京都府	城陽市	平日(水曜日)の放課後に小学校の図書学習室に子どもたちが集まり、空いている席で自主学習を始める。コーディネーターが1名、学習アドバイザーが4~5名が巡回しながら、宿題や学習プリントの支援を行っている。学習用のプリントは、学校で学習する内容と異なるように考慮して内容を精選しており、興味をもって取り組むように検討を進めている。実施後は、学習アドバイザーが添削をして子どもに返却をしている。後半は、まなびコースとして、3つ(書道、絵画、スポーツ)に分かれ、地域のボランティアが4~5名で活動の支援をして、学習アドバイザーは、指導補助として子どもたちに活動の指示を与えている。

## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	具体的な学習支援活動の流れ
京都府	長岡京市	毎週火・水・金曜日の放課後に、小学校の図書室に子どもたちが集まり、好きな席で本を読んだり、学習アドバイザーによる読み聞かせに耳を傾けたり、自主学習をしたりする。学習アドバイザーは、自主学習をする子どもからに対し、質問に答えたり、学習方法のアドバイスなども行う。その場には、学習アドバイザー1人と、補助として安全管理員1～2人がいる。
京都府	南丹市	子ども教室参加者が開始時間までの間に教室実施場所に集まり、自習学習を始める。学習アドバイザー及び地域ボランティアがその状況を巡回しながらアドバイスを与えるなど学習支援を行っている。
京都府	木津川市	平日の放課後(月曜日または水曜日)に週1回のペースで実施する放課後子ども教室(相楽台ほっぷ広場)は、子どもたちの地域の居場所として、安全な学校施設を利用して実施する自由な遊び・学習の場である。 スポーツゾーンとして運動場と体育館、室内遊びゾーンとして多目的ホールを開放しているところにあわせて、まなびゾーンとして図書室を開放して学習支援を実施している。 子どもたちが持参する宿題や自由な学習のアドバイスを「学習サポーター」と呼ばれる学習アドバイザーが行う形で、他に、脳のトレーニングとなるカードゲーム、書道、読書等も可能で、子どもたちの求めに応じて、学習サポーターは臨機応変に対応し、子どもたちの自主性を尊重した学習活動をサポートしている。
京都府	笠置町	平日の放課後に、小学校の図書室に子ども達が集まり、自由席で自主学習を行う。内容は主に宿題や予習復習である。学習アドバイザーは巡回しながら子ども達の質問に対応するように活動している。申し合わせとして、教えることよりも、学習の仕方の支援を心掛けている。
大阪府	豊中市	平日の放課後に小学校の少人数制教室に子どもたちが集まり、好きな席で学習アドバイザーが用意したプリント等を使って学習を始める。退職教員等の学習アドバイザーが教室を巡回しながら子どもたちの質問に応じて指導を行っている。アドバイザーが指導できる人数には限りがあるので、子どもたちは学校から事前に募集をかけている。
大阪府	吹田市	平日の放課後に、小学校の余裕教室に子どもが集まり、宿題を中心に自学自習を始める。地域のボランティアが学習(支援)アドバイザーとして1名が教室を巡回しながら学習支援活動を行っている。
大阪府	八尾市	水曜日の放課後に子どもたちが多目的室に集まり、宿題をはじめ、その後担当者から学習プリントを受け取り、できた子どもから、担当者にみてもらおう。地域の方が8名程度交代で体制を組み、毎回4名程度が子どもたちの学習活動を支援している。その後、毎回工作等をしている。 休日は、図工室や体育館、家庭科室で、物づくり、本の読み聞かせ、バスケットボール、バドミントン、キッズテニス、料理教室等を交代で実施している。地域の方や保護者等で担当している。学校の教師も交代で手伝っている。
大阪府	寝屋川市	平日の放課後(火曜日・水曜日)に小学校の図書室に子どもたちが集まり、好きな席で自主学習を行う。安全管理員が図書室を開け、図書室に来た子どもに氏名を日誌に記入させる。子どもたちは各自、宿題等の学習や課題プリントをする。学習支援アドバイザーは、子どもたちに学習指導する。午後4時になったら子どもたちを下校させ、安全管理員は「図書室開放日誌」を記入し、図書室を施錠する。
大阪府	大東市	土曜日の午前中に、小学校の図書室に子どもたちが集まってくる。安全管理員2名、コーディネーター1名、退職された校長先生が準備をしている。 大型紙芝居を大きな声で、はっきりとみんなに読んだ後、学習が始まる。参加児童は、ゆったりと、自分が納得するまで、質問をしたり、話をしたりと、生き生きと学習に向かっていた。他の大人の人たちも、質問に答えたり、質問をしたりと、自然に、課題を考えられるように導いた。
大阪府	田尻町	平日の放課後に小学校の余裕教室に子どもが集まり、好きな席で国語・算数のプリント学習を始める。教員2～3名と大学生の学習支援アドバイザー2～3人がおり、指導を行っている。(平成20年10月から) 土曜日は小学校の体育館と図工室で自由に遊べるようにしており、体験学習アドバイザーがスポーツ教室や囲碁将棋の指導にあたっている。
大阪府	岬町	平日の放課後に小学校の余裕教室(勉強室)に子どもたちが集まり、宿題等の自主学習を始める。学生の学習アドバイザー4名が教室を巡回しながら子どもたちの質問に応じて個別指導を行っている。 また、学習用のプリントも用意し、プリント学習をしたい子どもに配付し、実施後、学習アドバイザーが添削をして、子どもに返却する。
大阪府	河南町	平日の放課後に、校舎内ロビーに集合した児童を学年毎に教室へ引率し、その日の活動内容を伝えた後、宿題にとりかからせる。宿題が終了した児童は、自主学習や読書に取り組む。学習活動を行っている間、学習アドバイザーが質問に答えたり、理解が十分でないところの指導にあたる。

## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	具体的な学習支援活動の流れ
兵庫県	尼崎市	自主学習については、宿題を済ませてから遊びたい児童に対し、学習の場の提供を行っている。 また、定期的に体験事業を実施し、子どもに生きる力やコミュニケーション能力を身に付けさせることを目標としている。
兵庫県	西宮市	地域の学習アドバイザーは自主学習の補助が中心。退職教員の方は、専門的教科の基礎的学習の支援。
兵庫県	伊丹市	週1回火曜日の放課後に小学校の多目的室に子どもたちが集まり1,2年生は丸机(椅子なし)3年生以上は長机と椅子の状況で自主学習(宿題)を始める。学習アドバイザー2名とボランティアとしてPTAや地域から常に5~6人の参加がある。多目的教室内を回りながら、子どもたちの質問や疑問に答えたりしている。
兵庫県	加東市	平日の放課後にコミュニティセンターに子どもたちが集まり、好きな席で自主学習を始める。学習アドバイザーや安全管理員の人々が巡回しながら子どもたちの質問に応じて指導を行っている。
兵庫県	猪名川町	毎週学校のある火曜日の放課後にレッスン 1,2年生11人と、3年生11人に分けて学習する。 1,2年生は、3時~4時、3年生は、4時~5時。 その間、待機している3年生は、別の教室で宿題を済ませておく。 学習アドバイザー1名と安全監視員2名(内1名は、保護者)でサポート。 学習内容は、英会話の基礎を楽しみながら、カリキュラムを講師が毎回作成。 帰りは、保護者が迎えに来る。
奈良県	大和郡山市	1日あたりの開催時間2時間の内、1時間は自学自習など「学び」、残り1時間はドッジボール・自由あそびなど「遊び」を行う。また、2時間全てを芋掘りなど「体験」や、お手玉など「昔遊び」を継承させている。
奈良県	葛城市	基本的に水曜日の2時~5時まで実施。 学習支援 郷土学習・各種文化活動の二つを柱にして実施。学習支援の目的は「まず宿題を確実にやる習慣を身につけること」、「児童の実態に応じプリントを作成し、基本の定着を目指すこと」とし、指導員がアドバイスを行う形で実施。
和歌山県	橋本市	平日の放課後15:45~16:30の間、月曜日4年生、火曜日5年生、木曜日3年生、金曜日6年生と決め、学年担任と担外、学生ボランティアが担当曜日を決め指導している。内容は授業の学習補習、復習プリント、基礎的内容の習得等、学年担任が判断して内容を決定し、教材を準備している。
和歌山県	御坊市	水曜日の午後集団下校により公民館に集まり、学習室で自主学習を行う。その様子を学習アドバイザーが見守り、子どもの希望に応じてアドバイスを行っている。
和歌山県	有田川町	毎週水曜日の放課後、小学校の多目的室に子どもたちが集まり、宿題を始める。退職教員の学習アドバイザーを中心に、安全管理員や地域のボランティアの方も時には子どもの質問に応じて支援を行う。漢字の書き取りについて、丁寧な文字指導や筆順指導、計算ドリルの答え合わせ、漢字ドリルの確認、算数科の文章問題の考え方などを行う。
和歌山県	串本町	平日の放課後に図書館(休館日の月曜が中心)に集まり好きな席で宿題等に取り組む。非常勤教員等の学習アドバイザーが子ども達の質問等に答える等指導を行っている。
鳥取県	岩美町	平日(基本的に木曜日と金曜日)の放課後、小学校の余裕教室に子ども達が集まり、家庭学習を始める。その後、主に国語と算数の補充プリントを行う。学習アドバイザーが中心となって指導にあたるが、時には、学校教職員がサポートにはいる。教室に集まってくる児童は保護者の了解のもと、学力的に低位の児童達である。各自が学習ファイルも所持し、その日の学習の足跡が綴れるようになっている。学習アドバイザーや教職員による添削はもちろん、励ましのコメント等も入っている。保護者にも時々見ていただき、児童のがんばりや学習の成果を賞賛してもらっている。
鳥取県	三朝町	夏休み期間中に、各地域ごとに(5地区)公民館・文化ホールに集まり、自主学習(夏休みの宿題など)を行う。退職教員など地域の学習アドバイザーが1名と中学生ボランティアが数名補助し学習する。 自主的に学習し子ども達の質問に応じて指導支援している。学習用プリントも準備し子ども達に学習させる。役場職員が安全管理者兼務で指導している。
鳥取県	湯梨浜町	平日の放課後に地区公民館に子ども達が集まり、好きな席で自主学習を始める。地域のボランティアとして学習アドバイザーが子ども達の問いかけに対処。
鳥根県	浜田市	平日の放課後、子供教室を実施している公民館に集まり、好きな席で自主学習を始める。退職教員等の学習アドバイザーが1名、地域のボランティアが補助として数名おり、子どもの質問に応じている。ドリルなど、宿題を行っている。また、土曜日には英語指導員による英語学習を行っており、英語指導員が講師として、ゲームなどを交えながら英語学習をしている。

## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	具体的な学習支援活動の流れ
島根県	美郷町	学校終了後、居場所に集まり30分から1時間程度、宿題など自主学習をはじめ。他に読書、学習プリントを行う。宿題への指導は基本的に行わない。
島根県	西ノ島町	公民館の居場所に来て、好きな場所でそれぞれの子どもたちの問いかけに答えながら指導している。
岡山県	津山市	平日の放課後に小学校の余裕教室に子どもたちが集まり、好きな席で学習用プリントで学習を行う。高等専門学校先生の学習アドバイザー1名、地域のボランティア(無償の方も)が補助として2~3名おり、添削し、子どもに返却する。
岡山県	玉野市	平日の放課後に、小学校区の公民館に子どもたちが集まり、好きな席で自主学習を始める。退職教員等の学習アドバイザーが2~3名教室内を巡回しながら子どもたちの質問に応じて指導を行っている。 また、学習用プリントも用意しており、プリント学習をしたい子どもは、参加時にプリントを受け取り、実施後、学習アドバイザーが添削して子どもに返却する。
岡山県	笠岡市	参加者が多いため第2と第4土曜日の2グループに分けて実施。 講師が準備した題材をスケッチブックにえんぴつで下書きし、その後クレパス・絵の具で色をつける。間に休憩を一度入れて、絵を完成させる。最後にドライヤーで絵を乾かす。次回またスケッチブックを持参する。
岡山県	真庭市	平日の放課後に小学校から隣の図書館の一室に子ども達が集まり、まずは宿題に取りかかる。地域のボランティアが数名学習アドバイザーとして自主学習の指導を行っている。 また、不定期に、華道・陶芸・中国語・料理などの芸術文化に触れる体験学習が行われている。
岡山県	矢掛町	平日の放課後に小学校の余裕教室で、子どもたちは宿題等の自主学習を行う。学習アドバイザーは、そばで適宜指導したり、子どもたちの質問に答えたりする。 長期休業中には、大学の学生や地域ボランティアの援助を受け、宿題やプリント学習を行う。
広島県	三原市	平日の放課後に小学校の余裕教室に子どもたちが集まり、好きな席で自主学習を始める。学習アドバイザーが1名、ボランティアが2名おり、個々に声かけをしながら子どもたちが集中して取り組めるよう働きかける。また、終わりの1時間は、曜日ごとの当番である学習アドバイザーの特技を活かした活動を専科として行っている(合気道、ピース工作、書道など)。
広島県	尾道市	平日の放課後(長期休業中は午前中)に小学校の余裕教室に集合し、指定された席で自主学習を始める。自主学習が終わると、学年に応じた課題学習に取り組む。 退職教員の学習アドバイザーが1名、保護者を含めた地域の指導員が数名補助を行っている。教室内を巡回しながら子どもたちの質問に応じて指導を行っている。 また、九九や漢字等の反復学習・ステップアップ学習等に独自のプリントを用意し、各自の学習意欲や理解度に応じて活用している。子どもたちから提出されたプリントは、指導員が添削して返却している。 また、合格シールやワッペンを活用して、意欲や達成感を向上させる工夫をしている。
広島県	東広島市	木曜日の放課後を基本に教室を実施。事前に教室(講座)参加希望を募り、講座別に分かれる。教職経験の学習アドバイザー2名をチーフとして、学生ボランティア(広島大学教育学部系)や地域ボランティア等、総勢10名で、「茶道教室」、「そろばん教室」、「おりがみ教室」、「けんだま教室」等の講座を運営する。 学習成果としては、年度末に学習成果発表会を行う。
山口県	宇部市	平日の放課後に小学校の余裕教室に子どもたちが集まり、好きな席で宿題やプリントをさせている。大学生がチューターとして、2~5名入り、子どもたちの指導をしている。 学習だけでなく、いろいろな遊びや体験させているが、その中で子どもたちが感じた疑問に、一緒に考えたり、丁寧に答えたりしている。
山口県	萩市	平日の放課後、資料館に子どもたちが集まり、宿題等自主活動を始める。地域のボランティア2名が、子どもたちの質問に応じて指導を行っている。
徳島県	鳴門市	平日の放課後に小学校の図書室に子どもたちが集まり、自主学習を始める。学習アドバイザー2名・安全管理委員2名・ボランティア数名が補助をしている。子どもたちそれぞれが、宿題のプリント等を行う。指導員は子どもたちの質問や出来具合を見ながら指導もしている。宿題や、自主学習ができたのを確認した後、ゲームや読み聞かせ等を行う。
徳島県	美馬市	各学年で授業が終わり次第、余裕教室に子どもたちが集まり、まず宿題を行う。終わった子どもたちから、順次工作などの自主学習を行う。 また、地域ボランティア団体による定期的な紙芝居や手話を学ぶことで新しい何かを感じてもらえることができる。 さらには、季節のイベント(クリスマス、正月等)も開催している。
徳島県	石井町	放課後、小学校図書室に子どもが集まり各学年ごとに宿題をする(各学年に1名の指導員)その後毎月の計画に従い学習する。



## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	具体的な学習支援活動の流れ
香川県	さぬき市	土曜日の午前中に小学校の特別教室に子どもたちが集まり、3教室が行われている。そろばん教室では、レベルに合わせた実践指導を、2グループに分かれ、学習アドバイザーが1名ずつ補助1名で取り組んでいる。お茶教室では、学習アドバイザー1名、ボランティア4～5名により、作法礼儀等の指導にあたっている。年に数回地域や学校の中などでお茶会として成果発表の機会をもうけている。パソコン教室では、学習アドバイザー1名、ボランティア1名によりパソコンの基本操作をテーマに添って(アルバムや招待状など)学習している。安全管理員は3教室を兼務して安全面を見守っている。
香川県	琴平町	子ども教室参加者全員に対して、講義方式で行っている。
愛媛県	西条市	毎月隔週の土曜日に公民館で「算数チャレンジ教室」という学習支援活動を実施している。退職教員や、地元の民生委員等の学習アドバイザー4名が用意したドリル式のプリントを児童にさせており、添削及び指導を行っている。
高知県	日高村	平日の放課後に地域の公民館に子どもたちが集まり、好きな席で宿題を始める。コーディネーター1名、学習指導員2名が子どもたちの質問に応じて指導を行っている。
福岡県	小郡市	火曜日と木曜日に放課後から5時まで体育館運動場を中心に体を使った遊びを行い、その後5時からは空き教室に集まって、自主学習を始める最初の30分は宿題を行いその後1時間は学習に取り組む。教材は、プリントやドリルを用意している。地域のボランティアが10人に1人位付いている。分らないところは大人に尋ねながら学習を進めている。
佐賀県	神崎市	初めて行うプログラムの場合は、事前に内容について、打合せを行う。さらに教室開始の30分前に講師の方に来ていただき、今回の流れについて打合せを行った後、開始する。小学校の集合場所に子どもたちを集め、点呼をとった後に、本日の活動を行う場所へ移動する。室内の場合、子どもたちは決められた班で集まり、席につく。コーディネーターによる講師の紹介の後、活動を開始する。講師の動きとしては、説明を行ったあとに、巡回しながら、指導を行う。終了時には、子どもたちの代表が講師へお礼の言葉を述べ、みんなでお礼を言った後に、終了となる。
佐賀県	吉野ヶ里町	毎週木曜日の放課後に小学校の特別教室に子供たちが集まり、自主学習を始める。学年ごとに集まる時間が異なるため、全員揃ったところであいさつをする。教室には退職教員、大学生による学習アドバイザーがあり、教室を巡回しながら、子供たちの質問等に対応している。
長崎県	諫早市	月・水曜日に学校から徒歩5分の公民館において実施している。学年ごとに集団で来室し、宿題に取りかかる。学習アドバイザーは2から3名で、安全管理員1名も同様に学習支援を行う。見守りタイプで、学習が進まない子へ声をかけたり、質問に応じたりする。宿題が終わると、子どもたちは思い思いに活動する。折り紙遊びや裁縫をする子へは、材料や道具を準備して指導する。月に1回程度、社会教育指導員が映画会に招待している。
長崎県	対馬市	放課後子ども教室の実施場所である施設に、子どもたちが集まり、好きな席で自主学習を始める。学校の宿題が終わると、図書室の本を利用して、調べ学習・読書活動をしている。
長崎県	雲仙市	長期休業中(夏休み)に公民館に子どもたちが集まり、好きな席で自主学習を始める。退職教員等の学習アドバイザーが1名、地域のボランティアが補助として3～4人おり、教室を巡回しながら子どもたちの学習を支援している。
長崎県	新上五島町	平日の放課後、地域の図書館へ子ども達が集まり、まず初めに、学校からの宿題をするようにルールを決めている。安全管理員と学習アドバイザーが日程調整し、学習アドバイザーが参加した日においては、学校の宿題やプリントなどを各自行いそれぞれ個別に指導をしている。
大分県	豊後高田市	土曜日の午前中に中央公民館の研修室へ、それぞれの講座に合わせ受講生が集まり、好きな席につく。退職教職員及びそれぞれの学習アドバイザーが1～2名、地域のボランティアが2～3名、各講座における受講生の出席状況等の受付をする。プリント学習をする講座では、各自プリントを解いた後、アドバイザーの添削及び説明をし、子どもに返却する。英会話では、簡単なあいさつから英語の雰囲気作りをし、季節に応じた内容を入れながら、CDによる歌や体を使った活動を行ったり、フォニックス・ゲームなどをして、集中力のなくなった場合を補っている。そろばんでは、読み上げ算・各自で解くプリント学習など、行っている。
宮崎県	西米良村	平日の放課後に小学校の図書室に子どもたちが集まり、好きな席で自習学習を始める。村雇用の教職員1名(学習アドバイザーではない)、地域のボランティア(安全管理員)が補助として1～2人おり、教室を巡回しながら子どもたちの質問に応じて指導を行っている。また、パソコンの学習支援ソフトを活用した学習をすることもできる。

## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

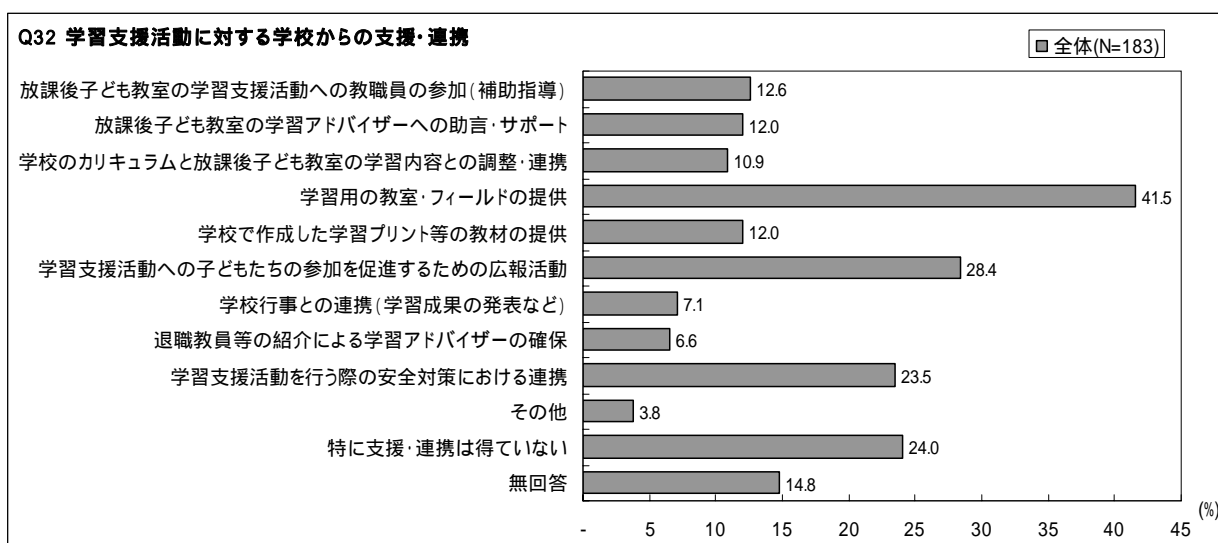
都道府県	市区町村	具体的な学習支援活動の流れ
宮崎県	五ヶ瀬町	子ども教室に参加する児童は、まず学校の宿題をするようにしている。学習アドバイザーはその指導にあっている。宿題が終わった後は、外で遊ぶ子ども、残って教室内で勉強したりする子どもがいるが、残った子どもの勉強の指導も行っている。(子どもがわからない時のみ)
鹿児島県	曽於市	平日の放課後に小学校敷地内の幼児学園に子供たちが集まり、好きな席で自主学習を始める。保育師が子供達の宿題を見守りながら、必要に応じて質問に答える。
鹿児島県	南九州市	平日の放課後授業の終わった子どもたちが随時集まり、自主学習を始める。退職教員や、安全管理員が、机間巡視し、子どもたちの疑問に答えている。 また姿勢や鉛筆の握り方、かばん靴の置き方等のしつけもきちんとしている。 特にスポーツ少年団等の子どもが始まるまでの時間熱心に学習している。
鹿児島県	瀬戸内町	子ども達が中央公民館に集まり決められたプログラムにより、学習アドバイザーが指導に当たる。その間安全管理員が補佐的役割をしている。
鹿児島県	喜界町	長期休業中の「宿題を終わらせよう」では、参加者それぞれ宿題を始め、解らないところがあれば教職員に聞いている。 「環境について学習しよう」では、アドバイザーが独自に資料を作成し、講義を行っている。
鹿児島県	和泊町	放課後子ども教室の時間内において、自主学習を行う。学習アドバイザー、安全管理員が巡回しながらその学習の様子を見守る。問題を解く手助け等は行うが具体的な指導や添削は行わない。
沖縄県	浦添市	毎週、平日の決まった子ども教室の開催日に小学校の特別教室を利用して漢字検定に向けての勉強をする。各々の能力に応じた、級の漢字書き取り学習やプリント学習を行っている。学習アドバイザーが平均して毎回3人、安全管理員が1人、時々ボランティアが応援で教室運営に関わっている。子ども教室に関わっている方は、すべてPTAである。子ども教室の参加者が多いため、低学年と高学年で教室開催の時間帯を分けて、入替えをし活動している。
沖縄県	うるま市	月曜日の放課後は高学年(4～6年)の児童が高学年広場で、水曜日の放課後は低学年(1～3年生)の児童が低学年広場に集まり、好きな座卓で宿題や家庭学習ノートや準備されたプリントを活用して学習を始める。分からないところを習ったり、プリントの丸付けを3～4名の学習支援員のテーブルで行う。学校職員も時間があるときは支援している。低学年の場合は机間指導を中心に行っている。
沖縄県	南風原町	平日の放課後に小学校の余裕教室に子どもたちが集まり、学年ごとにわけた席で自主宿題を始める。PTA関係の学習アドバイザーが2名、安全管理者2名が、教室を巡回しながら子どもたちの質問に応じて指導を行っている。

#### (4) 学習支援活動におけると学校との連携

学習支援活動に対する学校からの支援・連携の状況

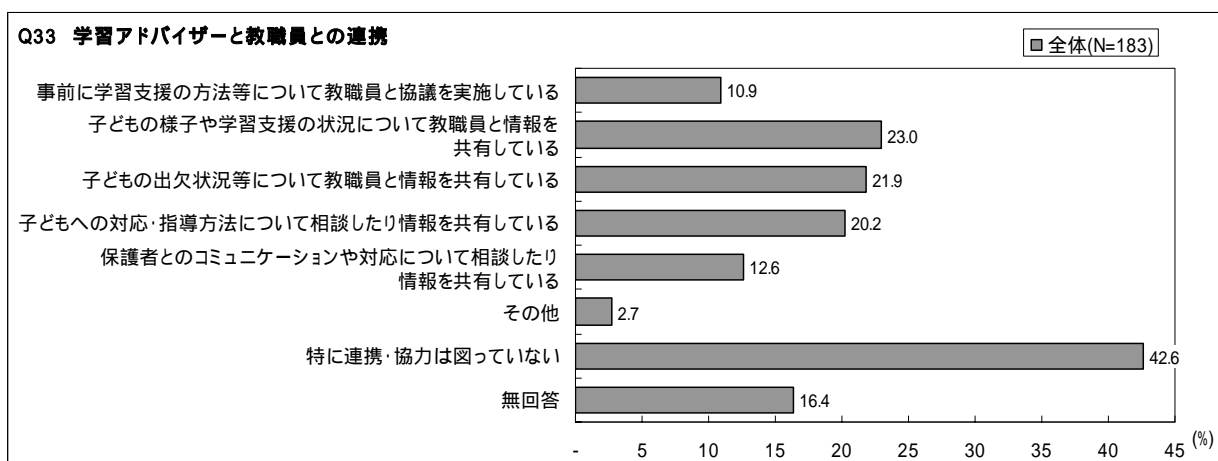
放課後子ども教室での学習支援活動に対して、学校から何らかの支援・連携を得ているかをみると、受けている支援の内容としては「学習用の教室・フィールドの提供」が41.5%と最も多くなっている。このほか、「学習支援活動への子どもたちの参加を促進するための広報活動」(28.4%)や「学習支援活動を行う際の安全対策における連携」(23.5%)などについても比較的高い割合となっている。

なお、約4分の1の教室は「特に連携・支援は得ていない」(24.0%)としている。



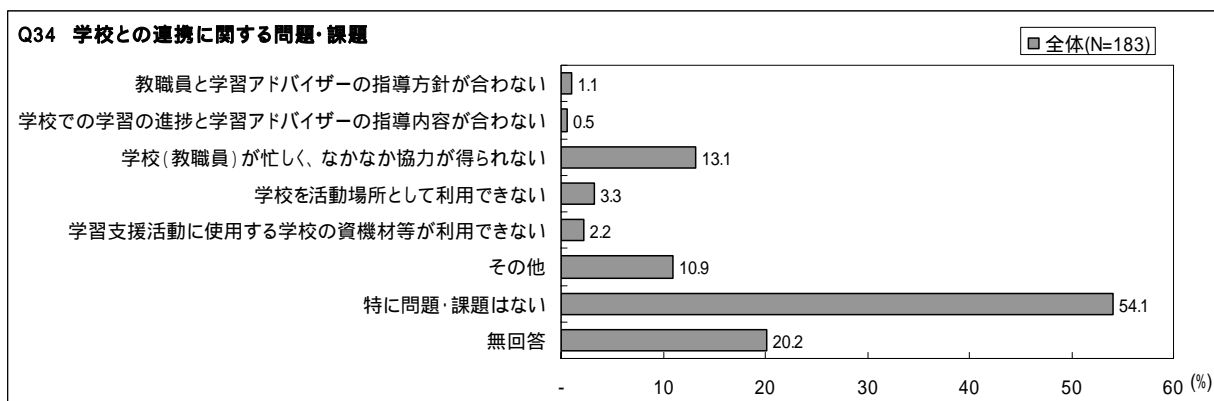
学習支援活動における学習アドバイザーと教職員との連携状況

学習支援活動を行う学習アドバイザーと教職員との連携状況をみると、4割以上の教室では「特に連携・協力は図っていない」(42.6%)としている。連携が図られているケースとしては、「子どもの様子や学習支援の状況について教職員と情報を共有している」(23.0%)、「子どもの出欠状況等について教職員と情報を共有している」(21.9%)、「子どもへの対応・指導方法について相談したり情報を共有している」(20.2%)などが中心となっている。



学習支援活動における学校との連携に関する問題・課題

放課後子ども教室での学習支援活動を行うにあたって学校と連携を図る上での問題や課題をみると、「特に問題・課題はない」が54.1%と、半数以上の教室では特に学校との連携上の問題は生じていないとしている。一方、問題・課題として挙げられた事項としては、「学校(教職員)が忙しく、なかなか協力が得られない」ことが13.1%と多くなっている。



学習支援活動における学校及び教職員との具体的な連携内容と成果

学習支援活動の実施に際して、学校との連携や教職員との協力・連携が図られている取組についての具体的な内容や成果を照会したところ、「特になし」を除くと58団体から記述回答が得られた。

これらの内容をみると、子どもの出席状況や放課後子ども教室での様子、ケガなどの問題の発生状況などについて学校や教職員と情報交換・情報共有を図っているケースが多くみられたほか、学校側に放課後子ども教室の担当(窓口)となる教員を配置してもらったり、教員が活動場所に子どもの様子を見にきたりするなど、教職員の協力を得ている事例も比較的多くみられる。

また、教室や体育館など、放課後子ども教室の活動場所となる施設について優先的に提供してもらったり、学校を通じて参加者の募集を行ってもらおうなどの連携もみられ、さらに数件ではあるが、放課後子ども教室での学習支援活動に用いる教材(プリント)を学校側に作成してもらっている例もみられた。

Q35 学習支援活動における学校及び教職員との連携内容	回答団体数	回答団体に対する割合
全体(N)	70	100.0%
活動場所での様子など、子どもの様子についての情報交換・共有	19	27.1%
教職員の協力(担当職員の配置、活動への教職員の参加等)	16	22.9%
活動場所となる施設の提供や必要な備品等の提供	9	12.9%
参加者の募集など広報活動における協力	5	7.1%
独自の教材の作成	3	4.3%
その他	15	21.4%
特になし	12	17.1%

学習支援活動における学校や教職員との連携内容及び連携による成果（自由記述回答より）

都道府県	市区町村	学習支援活動における学校や教職員との連携内容及び連携による成果
北海道	豊富町	問題行動の見られる児童に関する情報共有と協議 学校の教具借用 児童のケガなどに対する応急対応処置と情報共有
青森県	五戸町	運営委員会を年2回実施しており、子どもへの指導についてアドバイスをいただいている。 また、子どもの様子について情報交換をしている。
岩手県	盛岡市	子どもたちが教室で過ごす時間は短く、問題の見られる子どもへの個別の情報収集も難しいため、学校との情報共有を密にし、適切な対応や指導に努めている。
宮城県	白石市	放課後子ども教室実施のために体育館を優先して使用させてもらっている。 時々、先生方が子どもたちの様子を見に来てくれる。 校長先生に、活動の中で紙芝居や読み聞かせ、活動への参加をしていただいている。
宮城県	岩沼市	放課後子ども教室は学校の管理下外の事業であるが、放課後子ども教室における子どもたちの怪我などの緊急の際に保健室で手当していただくか、家庭に連絡いただくなどの協力をいただいている。
秋田県	由利本荘市	基本的には宿題を中心とした自習内容だが、早く済ませた子どもが予習・復習できるよう学習プリントを学校側が用意し、学習支援の取り組みの充実に協力いただいている。
福島県	相馬市	参加する子どもたちが授業に遅れることの無いよう、また担任が授業を進めやすいようにと、学習アドバイザーの方がしっかりと取り組んでいることによって、学校側が放課後子ども教室の活動を非常に評価し、協力体制を強化している。 例えば、活動場所や地区公民館に協力者の紹介や活動の紹介のポスターを貼るなど、学校だけではなく、地域全体で子どもたちを育てていく気運が高まっている。
福島県	本宮市	学校の余裕教室を提供していただいていることや、子ども教室における連絡文書を学校を通して児童・保護者に配布すること
埼玉県	所沢市	1 施設面の安全管理 2 学校側で行う生徒指導部会への参加（遊び場・遊具の使い方などの共通理解）
埼玉県	蕨市	毎回の活動内容や活動施設、参加登録児童についての連絡・調整を実施している。
埼玉県	新座市	教職員に学習アドバイザーとして御協力いただいている。
埼玉県	小鹿野町	子どもの様子、学習状況についての情報交換が行われている。
千葉県	柏市	この事業の趣旨の共通理解を図る。 どの学年を対象とするか、その理由等を話し合う。 年間学校行事を踏まえた実施時期および時程の上から実施日の調整を図る。 実施教室（特別教室または余裕教室）を決定する。 参加者募集用のチラシの配布と参加の呼びかけに協力してもらう。 参加申込書のとりまとめと参加児童の確認をする。 参加児童の特徴等の情報をいただく。 実施途中で学校行事等による実施日等の変更に関する連絡調整を密にする。
千葉県	富里市	学校の協力により、放課後の特別教室を借りることができたことは、参加児童の安全確保の面及び保護者の負担軽減に効果があると考えます。
東京都	品川区	各クラス担任と打ち合わせをし、苦手な科目、今必要な知識等、連絡を取っている。また授業の進め方のコツや教材等、情報交換を行っている。
東京都	豊島区	夏休みに学校との共催で「学習教室」を開催している。 この「学習教室」は、1学期の復習を目的とし、子どもたちの自主学習の補助をするもので、学校が作成したプリント、持ち込みのドリル等に取り組んでいる。学校と子ども教室が協力することで、学年ごとに行っていた教室が、全校でできるようになった。
新潟県	長岡市	水泳教室の開設（7回実施）にあたって、学校のプール使用についての許可や学校としても配慮してほしい事柄・子どもについて話し合った。 その結果、水を怖がっているような子どもと5年生で学校行事の海で行う遠泳に参加が危ぶまれる子どもの指導を大事に実施することになった。
新潟県	柏崎市	地域探求や自然体験活動など、学校と共同で開催している。
新潟県	上越市	県教育庁教育事務所の職員と共に、コーディネーターが学校を訪問し、学校との連携や、問題点について話し合いの場を持った。
富山県	射水市	国語と算数の教材プリントの補充
富山県	立山町	校区のコーディネーター役を引き受けてくださっている先生方が何人かはいらっしゃる（当然無償での活動である）。
福井県	池田町	土・日の体験学習に教職員が参加されると、子どもたちはとても身近に感じるようである。
岐阜県	羽島市	学習支援活動で教職員の見守りがあることで、子どもたちの学習態度が引き締まる。

## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	学習支援活動における学校や教職員との連携内容及び連携による成果
岐阜県	坂祝町	・教育委員会の中に教員の割愛職員が1名いて、子ども教室担当者となっている。学校と指導員の間に入って、学習面だけでなく、生活面で特別に支援が必要な子を中心に協議し、日々の指導に役立っている。各担任は忙しいため、生徒指導主事等が窓口になり、必要に応じて担任も入れて指導の場を設けている。これらの連携は、入会時に保護者にも伝えてあり、「プライバシー問題」はない。逆に保護者からは連携がとれた指導が喜ばれている。
静岡県	磐田市	募集チラシの配布や回収を行ってもらう。また、教室の開催日には、校内放送で知らせていただくケースもある。
静岡県	牧之原市	保護者との連絡カードの内容について、担任も共有することで、当該児童の様子をつかんだり、アドバイスしたりすることができている。また、細かな情報のやりとりが保護者の信頼感を高め、保護者が家庭学習に協力的になった。放課後支援教室での子どもの「分かった」喜びが、授業への意欲に反映している。
愛知県	小坂井町	もっばら寺子屋教室の指導者が自主的に行うので、学校、教職員との協力・連携は不要。もの作りに参加する子ども達はみないきいきとしている。
三重県	木曽岬町	長期休暇中の自由課題の把握などについて資料提供、指導を受けている。また、ホリデー教室開催に際しての周知チラシの配布に協力してもらっている。また、運動会などの振替休日等の情報提供をしてもらっている。
京都府	長岡京市	図書室を積極的に開放し、読書支援や自主学習の支援を行っている。参加児童に、読書や自学自習の習慣が身に付いてきた。
京都府	木津川市	特別支援が必要な児童が参加し、学習アドバイザーがどう指導すればよいかに迷い、困ってしまう事態が発生。その際、学校からその児童の指導に関するアドバイスをもらい、学習アドバイザーへ伝えた。その児童へのよりよい指導の在り方を学習アドバイザーが共通理解でき、同様の事態が起こらなくなった。
大阪府	豊中市	「担任 - アドバイザー」間でノート交換をしている。その子のその日のづまずきを記し、一方では教室でのその子の様子や課題を記入してもらっている。
大阪府	八尾市	休日の活動に、教職員が交代でサポートしている。活動の紹介や案内等の広報活動を学校を通して配布してもらっている。
大阪府	寝屋川市	学習支援アドバイザーは、各公立小学校に配置している市独自の「児童生徒支援人材」が担っているため、学校とは一体である。
大阪府	田尻町	学校との連携・協力により10月からまなび舎 Kids を開始することができた。具体的な成果については、まだこれからである。
大阪府	岬町	月1回、学習アドバイザーと教職員で情報交換会を実施し、学習支援の方法や状況について協議している。その結果、子どもたちも放課後学習活動に積極的に参加するようになり、宿題もきちんとできるようになっている。
大阪府	河南町	配慮を要する児童や学習に課題をかかえている児童についての情報の共有を図るとともに、教員と学習アドバイザーが協力して指導にあたる。
和歌山県	橋本市	補充学習が必要な子どもに対して、学生ボランティアや教師が継続的に指導を続けることができ、基礎学力が身についた。 茶道や大正琴など、日常の授業で扱わない内容を教えてもらえるので、子どもはいろいろな文化について知ることができた。 教職員も子どもたちと共に長期休業中は参加している。よい交流になっている。
和歌山県	有田川町	放課後子ども教室での子どもの様子(学習面や行動面)を教職員に伝え、また、担任の先生方から学校での様子で変わったことがあったら直接足を運んで下さりお教え頂けるので、子どもの理解が進んでいる。
鳥取県	岩美町	学校が作成した補充プリントを活用しているため、学習アドバイザーはしっかりと子どもの支援に専念できる。また、児童一人一人が学習ファイルを所持し、自分の学習のふりかえりをしながら学習に取り組むことができる。学習アドバイザーも特に専門的な教育指導技術があるわけではないので、常の教職員がサポートできる体制をとっている。
鳥取県	三朝町	活動に必要な備品等の借り入れ 活動に対する啓発活動や参加取りまとめの協力
鳥根県	美郷町	学校のスペースを借りて居場所を実施、参加する子どもの状況など共通認識を持つため学校との調整会議の開催など連絡を密にしている。学校に居場所の担当者を置いてもらっており、週1回は居場所の様子を伺うことをしてもらっている。
鳥根県	西ノ島町	学校より毎月の広報チラシで子供教室の参加の呼びかけを行っている。
岡山県	矢掛町	長期休業中に、小学校教諭、大学生、地域ボランティアの支援をうけ、学校や公民館でプリントを中心に学習した。子どもたちは、意欲的に学習に取り組んだ。
広島県	三原市	活動の予定を学校と共有することで、子どもたちに準備してもらいたいものの連絡や、活動にあわせた学校施設の利用について配慮してもらっている。

## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

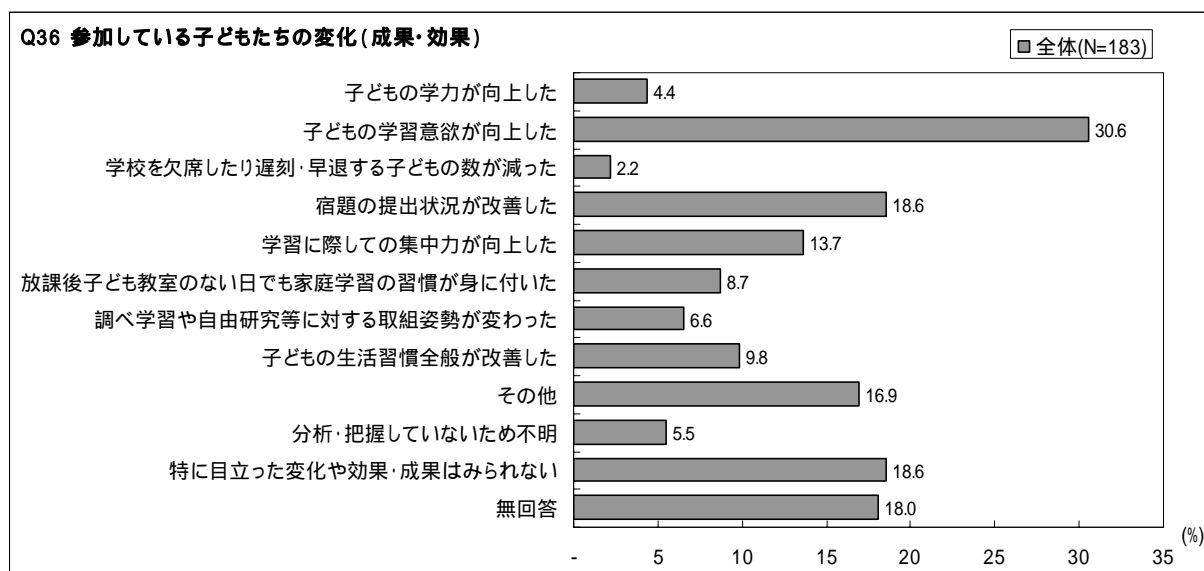
都道府県	市区町村	学習支援活動における学校や教職員との連携内容及び連携による成果
広島県	尾道市	健康障害や学習障害等、課題をもつ子どもへの対応や指導方法等について、学校の取組みを学び、また、学校・保護者・子ども教室の三者での話し合いをもち、お互いが共通理解をしながら子どもへの指導や対応を行うように努めている。
広島県	東広島市	東広島市では、市内37小学校すべてに生涯学習担当教諭を配置。放課後子ども教室を推進する上で、学校の窓口になっている。また、すべての児童に「学ちゃんノート」を配布している。子ども自身が学習の記録に記入し、学校の担任に提出し、評価を受ける。ポイントが貯まると表彰を受けるため、参加児童の学ぶ意欲の向上に結びついている。
山口県	宇部市	特別な取組はないが、学校生活や放課後子ども教室での子どもたちの様子について、大学の学習チューターと教職員とが普段からお互いが報告や相談などで情報を共有し合っている。学校(教員)との信頼関係や子どもたちとの信頼関係が深まり、学習アドバイザーとして活動するうえで、問題や課題が発生することもなく、スムーズにしている。また、子どもたちの学習効果を挙げており、家庭学習の一役を担っている。
徳島県	美馬市	参加希望者の受付や連絡。教室等の利用方法の調整。
徳島県	石井町	英語の活動にALTが講師として参加している。
香川県	さぬき市	学校側から、学習アドバイザーを推薦したり、日程調整などの窓口の担当職員が校長なので、スムーズに取り組まれている。
香川県	琴平町	教職員の見回り
佐賀県	神崎市	夏場の実施の場合、クーラーのある教室を提供していただいている。
長崎県	諫早市	時折、校長ならびに担任教諭が教室の様子を観察に来て、静かに活動できていない子や友達とトラブルを起こしている子を指導していただく。そのことで、教室内の安全と静かな環境が保たれる。
大分県	豊後高田市	講座開催のその都度、受付や出席状況を把握してくれる。また、欠席が続けば、担任へことづけをしてくれる。
宮崎県	西米良村	本村は学習アドバイザーを配置していないが、放課後子ども教室の一環として村雇用教職員1名に学習支援をお願いしているため、子どもとのコミュニケーション、教職員との情報共有が比較的スムーズである。
鹿児島県	南九州市	子どものつまづきや特に能力の落ちている子どもの学習状況について共有し、その子の学習意欲が、徐々に出てきて、学校の楽しさを身につけている。
鹿児島県	加治木町	活動状況を観戦したりして児童が積極的に取り組むようになった。
鹿児島県	喜界町	開設校区の教職員に協力をいただき、長期休業中に早く宿題を終わらせる。

(5) 市区町村において取り組んだ学習支援活動の成果

学習支援活動の実施により参加している子どもたちにみられた変化(成果・効果)

放課後子ども教室において学習支援活動を実施したことにより、参加した子どもたちに何らかの変化(成果・効果)がみられたかをみると、「特に目立った変化や効果・成果はみられない」が18.6%となっており、また「分析・把握していないため成果は不明」とする市区町村も5.5%みられたが、多くの市区町村では、学習支援活動を通じて何らかの変化が子どもにみられている。

具体的な変化(成果・効果)としては、「子どもの学習意欲が向上した」が30.6%と最も多くから挙げられているほか、「宿題の提出状況が改善した」(18.6%)や「学習に際しての集中力が向上した」(13.7%)なども比較的高い割合となっている。また、「その他」として、『挨拶やコミュニケーション力が高まった』ことや、『宿題をする習慣がついた』こと、『学習に向かう姿勢に変化がみられる』ことなどが挙げられている。



参加している子どもたちの変化「その他」の記述内容

	回答団体数	回答団体に対する割合	全体(N=183)に対する割合
全体(N)	27	100.0%	14.8%
挨拶やコミュニケーション力の向上	5	18.5%	2.7%
宿題をする習慣がついた	4	14.8%	2.2%
学習に向う姿勢の変化	4	14.8%	2.2%
様々なものに対する興味関心の高まり	3	11.1%	1.6%
参加するのが楽しくなった	3	11.1%	1.6%
生活のメリハリがついた	2	7.4%	1.1%
子どもの変化を量るのは難しい	2	7.4%	1.1%
その他	5	18.5%	2.7%



学習支援活動の実施により子どもの学力が向上した事例

前述 において、放課後子ども教室における学習支援活動の実施により「子どもの学力が向上した」と回答した市区町村に対し、具体的な活動内容と成果を記述にて求めたところ、9団体から14件の事例が挙げられた。

これらの事例を詳しくみると、学習支援活動における指導内容としては、計算ドリルや漢字プリントなど、放課後子ども教室で準備した教材等を使った教科学習の指導事例が多くみられるほか、学校の宿題等の自学自習をサポートしている事例もみられる。

また、子どもの学力向上を示す具体的な変化としては、検定試験等に合格したり、より難度の高いプリントができるようになったりといった事例のほか、学力テストの点数が上がったという事例もみられる。

Q36SQ1 学習支援活動により子どもの学力が向上した事例		回答事例数	回答事例に対する割合
全体(N)		14	100.0%
学習支援活動における指導内容	教科学習の指導	12	85.7%
	教室独自教材(プリント)	11	78.6%
	学校の宿題等	4	28.6%
	体験活動の指導	2	14.3%
	スポーツの指導	1	7.1%
具体的な変化	学力の向上	7	50.0%
	関心・意欲などの向上	4	28.6%
	その他	3	21.4%

学習支援活動の実施により子どもの学力が向上した事例

教室名	むつ市勇気ランド子ども教室 (青森県むつ市)		
対象学年	小学校1～6年生		
活動期間	4～3月の放課後、土曜日、長期休暇		
参加数	子どもの参加人数	学習アドバイザー数	参加ボランティア数
	14人	1人	0人
指導内容	宿題、漢字練習(週に1度テストを行う)、計算練習(そろばんを取り入れる)		
具体的変化	・学校で行われている漢字検定に多数合格 ・そろばんで各級に合格している		

教室名	新座小学校ぱわーあっぷくらぶ (埼玉県新座市)		
対象学年	小学生		
活動期間	6月から3月まで		
参加数	子どもの参加人数	学習アドバイザー数	参加ボランティア数
	35人	5人	0人
指導内容	独自の算数プリント教材を児童が実施後、学習アドバイザーが添削する。 数字を用いたゲーム等を行う。		
具体的変化	より高度な算数プリント教材が解けるようになった。		

## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

教室名	栗原小学校ぱわーあっぷくらぶ (埼玉県新座市)		
対象学年	小学生		
活動期間	6月から3月まで		
参加数	子どもの参加人数	学習アドバイザー数	参加ボランティア数
	30人	5人	0人
指導内容	独自の漢字プリント教材を児童が実施後、学習アドバイザーが添削する。 読み聞かせやゲーム形式での学習活動		
具体的変化	漢字能力検定に合格した。 より高度な漢字プリント教材が解けるようになった。		

教室名	新開小学校ぱわーあっぷくらぶ (埼玉県新座市)		
対象学年	小学生		
活動期間	6月から3月まで		
参加数	子どもの参加人数	学習アドバイザー数	参加ボランティア数
	30人	4人	0人
指導内容	独自の漢字プリント教材を児童が実施後、学習アドバイザーが添削する。 読み聞かせやゲーム形式での学習活動		
具体的変化	漢字能力検定に合格した。 より高度な漢字プリント教材が解けるようになった。		

教室名	神田子ども教室 (新潟県長岡市)		
対象学年	1～6年生		
活動期間	4～5		
参加数	子どもの参加人数	学習アドバイザー数	参加ボランティア数
	10人	2人	2人
指導内容	手芸教室におけるエコバック等の作成		
具体的変化	運針やミシンの使い方に慣れ、技術が向上した。		

教室名	表町放課後子ども教室 (新潟県長岡市)		
対象学年	1～6年生		
活動期間	7.26～8.8		
参加数	子どもの参加人数	学習アドバイザー数	参加ボランティア数
	20人	4人	3人
指導内容	・水慣れの活動 ・泳ぎ方の指導		
具体的変化	・水に顔をつけることができなかつたり、浮くことができなかつた子どもが、水に親しみ泳ぐことができるようになった。 ・5年生の子どもで泳力が不十分なため参加が危ぶまれていた学校行事の遠泳に無事参加し泳ぎきることができた。		

教室名	深日小学校 (大阪府岬町)		
対象学年	全学年		
活動期間	年間で、平日週2回		
参加数	子どもの参加人数	学習アドバイザー数	参加ボランティア数
	21人	4人	0人
指導内容	宿題や学習用のプリント等の自主学習を実施し、学生の学習アドバイザーが個別指導を行い、プリントを添削をして子どもに返却する。		
具体的変化	全国学力・学習状況調査における国語、算数の学習状況調査の結果が向上した。		

## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

教室名	さくらんぼキッズ (鳥取県岩美町)		
対象学年	3年生から6年生		
活動期間	平成20年6月～平成21年3月		
参加数	子どもの参加人数	学習アドバイザー数	参加ボランティア数
	10人	2人	0人
指導内容	家庭学習の補助や国語・算数などの基礎学習補充プリント。また、PCを使っでの学習なども取り入れている。		
具体的変化	個人差はあるものの、毎月の月末テストや県が実施している国語、算数診断テストの結果などからも、確実に学力(各教科の点数)は向上している。さくらんぼキッズの学びのプログラムに参加している児童は、全体的に学力的に低位の児童の参加が多く(保護者の了解のもと)、基礎的な学習を中心に学力補充に取り組んでいる。保護者からも好評を得ており、児童の励みとなっている。		

教室名	はちはま子ども楽級(はちはまこどもがっきゅう) (岡山県玉野市)		
対象学年	小学校1年生～6年生		
活動期間	毎週木曜日 15:00～17:00		
参加数	子どもの参加人数	学習アドバイザー数	参加ボランティア数
	26人	4人	0人
指導内容	各教科のプリント 学校の宿題など		
具体的変化	教科書の内容を発展させた学習内容を取り入れている。子どもたちの学習全般への興味関心が高まったようだ。		

教室名	石根小学校放課後子ども教室「算数チャレンジ教室」 (愛媛県西条市)		
対象学年	4年生～6年生		
活動期間	毎月隔週の土曜日		
参加数	子どもの参加人数	学習アドバイザー数	参加ボランティア数
	12人	4人	0人
指導内容	主に計算ドリルのプリントを実施し、学習アドバイザー(運営協力者)が添削し、指導にあたる。		
具体的変化	わからないところをわかるまで指導してくれるので、結果的に学力向上につながると思う。		

教室名	小郡小学校 (福岡県小郡市)		
対象学年	5年生		
活動期間	5月から3月		
参加数	子どもの参加人数	学習アドバイザー数	参加ボランティア数
	30人	2人	3人
指導内容	自学自習の促進・宿題をやり終える・ドリル学習		
具体的変化	参加児童全体の傾向は分からないが、学習に自信を持たない子の参加があって開始当初は学習に積極性が見られず、集中できなかったが、会を重ねるにつれて、学習へ取り組む自主的な姿勢が育ってきている。宿題もできていないという状況を抱えた子が、宿題を最初に行うという声かけで、粘り強く取り組む姿ができてきている。		

教室名	伊波小学校 がじまる教室 (沖縄県うるま市)		
対象学年	1～6年		
活動期間	6月～3月		
参加数	子どもの参加人数	学習アドバイザー数	参加ボランティア数
	0人	0人	0人
指導内容	宿題、家庭学習の支援 物づくり(風鈴づくり)		
具体的変化	-		

教室名	高江洲小学校放課後子ども教室（学習支援 算数教室）（沖縄県うるま市）		
対象学年	4年生を中心に たまに3年生も参加		
活動期間	6月～3月		
参加数	子どもの参加人数	学習アドバイザー数	参加ボランティア数
	15人	4人	0人
指導内容	4年生を中心に算数・国語の復習・予習をおもに指導。 たまにお楽しみ会等をとりにいれたら楽しく参加するようになった。		
具体的変化	何人が参加するたびに意欲的になり、やる気がみられるようになった。		

教室名	与那城小学校放課後子ども教室 学習支援教室（沖縄県うるま市）		
対象学年	-		
活動期間	-		
参加数	子どもの参加人数	学習アドバイザー数	参加ボランティア数
	63人	4人	0人
指導内容	教師からの課題(宿題)や自学学習(がんばりノート)への取り組み		
具体的変化	取り組みを通して学習リズムが形成され、日常の授業に意欲をもって参加するようになった。		

学習支援活動の実施により子どもに具体的な変化（成果・効果）がみられた事例

前述において、放課後子ども教室における学習支援活動の実施により、学力向上を含め、何らかの変化（成果・効果）が子どもたちにみられたと回答した市区町村に対し、具体的な変化（成果・効果）について記述回答を求めたところ、70団体から97件（「特になし」2件を除く）の事例が挙げられた。

子どもたちにみられた具体的な変化としては、学習意欲の向上や学びに対する興味・関心の高まりがみられた事例が最も多いほか、挨拶や整理整頓をするようになるなど、生活習慣面で改善がみられたという事例も多い。また、学習支援活動の時間に学校の宿題をやらせている教室も多く、積極的に宿題に取り組むようになった、あるいは宿題を忘れる子どもが減ったなど、宿題への取組状況の向上も多く報告されている。

こうした学習意欲や生活習慣面での変化のほか、異学年が一緒に学習活動を行うことにより、高学年が低学年を教えたり、子ども同士で分からないところを教えあうなど、子ども同士の交流やグループでの学習が促進されてきたという変化も挙げられている。

Q36SQ2 学習支援活動の実施により子どもにみられた変化	回答事例数	回答事例に対する割合
全体(N)	97	100.0%
学習意欲・関心の向上	51	52.6%
子どもの生活習慣の向上・改善	35	36.1%
宿題の取組状況の向上	20	20.6%
子ども同士(異学年)の交流の活発化・グループワークの促進	18	18.6%
集中力の向上	11	11.3%
家庭での学習習慣の定着	5	5.2%
学力の向上	3	3.1%
その他	4	4.1%

学習支援活動の実施により子どもにみられた具体的変化(成果・効果)

都道府県	市区町村	教室名	学習支援活動の実施により子どもにみられた具体的変化(成果・効果)
北海道	豊富町	おむすび作りにチャレンジ(調理)	作業説明、用具準備、実際の活動を通し熱心かつ集中していた。もっともかわってきたことは、活動後の後片付けで調理台や床面が前年にくらべ、きれいに終了できている。
北海道	豊富町	野原に出かけよう(自然体験/虫取り・花摘み)	学校裏の野原に出て、虫を追いかけたり草花を摘んだりの単純な散策活動であるが、のびのびと遊ぶこともとスタッフとの交流ができ、教室内では見られない子どもの表情や性格の一面が見られた。
北海道	豊富町	ハロウィーンカードを作ろう(工作)	色紙でかぼちゃの切り絵を作り、両開きのカードにするだけの活動だが、説明段階から作成まで熱心に取組んでいた。集中力も少しずつついてきたようだ。
北海道	大空町	女満別子どもワールド21	学習支援活動を実施するようになってから、児童館で自主的に学習をする子が増えてきた。学習アドバイザーに分からないことや自信のないことを質問するようになった。
北海道	釧路町	とみはら放課後子ども教室	学習活動が定着し、子ども達が自らすすんで学習活動に取り組むようになった。
青森県	むつ市	むつ市勇気ランド子ども教室	子ども同士で問題を作り合ったり、ドリルを持ってきてみんなでやるようになった。 宿題以外でもプラス勉強として進んで行う子が増えた。
青森県	むつ市	川内地域子ども教室	図書館(公民館内に設置している)を利用する子どもが増えた。
青森県	五戸町	子どもあそびの広場	年3回「茶道体験教室」を実施しており、礼儀作法やお茶の運びなどを指導していただき、町の文化祭では来場者に対して、お茶の運びを実践した。そのことにより、おちついて相手の話をきくことができるようになるなど、社会性や感性を育てることができた。
岩手県	盛岡市	上田ジュニアキャンパス	遊びを行う前に、宿題に取り組む姿勢が、低学年のうちから身につけてきた。長期休業中には、自由研究などへのヒント提供により、自分で調べる道筋がつかめてきたと、保護者から評価された。
岩手県	一関市	真柴きゃんぱす	以前は、遊び中心であったが、教室に到着すると必ず宿題をする習慣が身についた。また、分からない箇所については積極的に学習アドバイザーに質問するようになった。
岩手県	釜石市	双葉小学校放課後子ども教室	教室に遊びに来たら誰からも言われることなく宿題や1人勉強を行うようになった。
秋田県	由利本荘市	つるまい教室	・毎週のように放課後学習に参加する子どもが見られるようになってきた。 ・テストなどにあわせて子どもたちが放課後学習を活用している。 ・学習アドバイザーの先生が入って下さったことで、子どもたちの取り組みも充実してきた。
福島県	本宮市	ごひゃくがわ遊友クラブ	英語を取り入れたプログラムを月に1回程度取り入れ、実践していることで、子どもたちの中に英語に関する意欲関心が高まった者が見られる。
福島県	本宮市	本宮市7つの子ども教室すべて	7つの教室すべて、こども教室では、宿題を済ませてから活動することが約束となっていることから、宿題の提出状況はよくなっている。
茨城県	結城市	玉岡ふれあいスクール	お互いにドリルの答え合わせをしたり、まちがっているところに気づくと教えあったりできるようになった。また、おしゃべりばかりしている子には、友達同士で注意し合う姿も見られる。入室してくると、子どもたちは意欲的にドリルや漢字、本読みなどに取り組み、自主学習が習慣となっている。積極的に指導員に声をかけ、「聞いてて」と何回も国語の本読みをする姿も見られ、指導員もきちんと対応している。
栃木県	栃木市	どんぐり教室	1年生は当初学習に集中できなくて、フラフラするものや騒いでいるものもいたが、最近では以前より落ち着いて学習できる時間が増えてきている。
埼玉県	蕨市	蕨市放課後子ども教室	平成19年度蕨市放課後子ども教室アンケートより 放課後子ども教室に来ていて、とても楽しかった 58% 放課後子ども教室に来ていて、友だちと遊べるから楽しい 47% 学校に行くのが楽しくなった 50%
埼玉県	新座市	栗原小学校ぱわーあっぷくらぶ	学習意欲が向上し、活動回数を増やしてほしいという要望が児童からあった。
千葉県	柏市	柏第一小学校	A君・2年生 当初は課題も持ち込まず、友達との悪ふざけがあったが、ここへ参加していることの意義を、学習アドバイザーが根気強く諭したところ、課題を持ち込み、それを済ますと学習プリントに取り組むまでになった。

## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	教室名	学習支援活動の実施により子どもにみられた具体的変化(成果・効果)
千葉県	柏市	柏第二小学校	Bさん・3年生 自分の課題はマンガを書くことときめつけ、宿題やドリルやプリントには興味・関心を示さなかったが、宿題やドリルを前半にして、やり終えたらマンガを書いてもいいことを、学習アドバイザーと約束し、今ではマンガを書くことがほとんどなくなった。
千葉県	柏市	大津ケ丘第一小学校	Cさん・2年生 無口で友達も少なく、自分の殻に閉じこもりがちな女の子であったが、学習グループを異学年そして異学級の子も達で編成したところ、3年生の活発な女の子と意気投合し積極性が出てきた。お母さんからは、放課後子ども教室の様子をよく話したり、友達とおしゃべりの様子などをよく話すようになり、行動に積極性が出てきたと報告があった。
千葉県	富里市	とみさとザ・ワールド・キッズ洗心小学校区	放課後子ども教室で学んだ、英語でのあいさつの仕方、英単語、質問などを実際のホテルに行き、外国人クルーにインタビューを行った。初めのうちは、自信がなさそうに小さな声で質問していた子どもたちであったが、数人の方にインタビューをしていくうちに、自分たちの英語が通じる喜びを感じ、もっと質問してみたいという気持ちになったようだ。また、その後の活動においては、英語への興味が高まり、自信をもって発言するようになったと聞いている。
千葉県	大網白里町	増穂小放課後子ども教室	平成 19 年度末に参加児童とその保護者を対象としたアンケートの回答より意見を抜粋。 〔参加児童〕 ・今まで遊んだことのない友達と遊んだりお話することができて楽しかった。 ・家に帰っていたら友達とあまり遊ぶことができなかったから。 〔保護者〕 ・放課後子ども教室がない日でも家に帰ってきたら、すぐに宿題をやるようになった。 ・英語で遊ぼなどのプログラムで英語に興味を持つようになった。
千葉県	大網白里町	増穂北小放課後子ども教室	平成 19 年度末に参加児童とその保護者を対象としたアンケートの回答より意見を抜粋。 〔参加児童〕 ・学年の異なる友達がたくさんできた。 〔保護者〕 ・宿題を早めに済ませ、遊ぶようになり、教室で教わってきた遊びや英語の歌を家庭でも見せてくれるようになった。 ・積極的に友達や先生に話しかけることができるようになった。
東京都	文京区	放課後オアシス	宿題を片付けてから遊ぶという習慣が身についてきた子どもも見られたので、保護者も満足している。
東京都	豊島区	そろばん教室	新しい知識を身に付けることが楽しいようで、熱心に取り組んでいる。早く次のステップへ進みたがっている様子から、学習意欲の向上がうかがえる。
東京都	練馬区	どろんこ山ひろば	部屋に来ると、まず宿題をするという子どもが増えた。
東京都	練馬区	どろんこ山ひろば	上級生が下級生に勉強を教える光景が見られるようになった。
東京都	日野市	昔遊び	駒まわし、剣玉、将棋、囲碁などの遊び方を習得した子どもたちは、仲間同士で競いあうことで積極性・集中力を向上させている。
東京都	日野市	外遊び	集団の中で遊ぶことにより、生活の知恵・ルールを身に付けることを学ぶ。
東京都	あきる野市	草花放課後子ども教室	子どもたちが自主的に宿題等の学習活動を行うようになった。またそのことに伴い体を使う遊びを多く実施するようになった。
新潟県	長岡市	表町教室 神田教室	「英語教室」の実施により、遊びの中で英語を使ってみたり、英語について調べてみたりするなど関心が高まった。
新潟県	長岡市	表町教室	「理科教室」(プランターへの花の観察、メダカの卵や稚魚の観察、太陽の動きの観察、磁石遊び、動くおもちゃ作り等)を実施することにより、子どもたちにとって新たな発見が多くあり、自宅でも取り組んでみたりする等、その学んだ内容に関する興味を深めた子どもも多かった。
新潟県	長岡市	表町教室 神田教室 希望が丘教室 宮内教室 黒条教室	「絵画教室」「工作教室」の実施により、絵を描くことやものを作ることに喜びを見出す子どもが多く見られた。やや注意力散漫で注意ばかりされていた子どもが、絵について褒められることにより大きな自信をもち、注意にも素直に従い、徐々に落ち着いた行動をとるようになった事例もあった。
新潟県	上越市	やわらぎ塾	プリント学習を実施しているが、自分のレベルに合わせた計画的な取組姿勢がうかがえるようになった。

## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	教室名	学習支援活動の実施により子どもにみられた具体的変化(成果・効果)
富山県	射水市	堀岡小学校放課後子ども教室 漢字サークル	2月に行われる漢字能力検定試験に向け、各自の目標とする級の合格を目指し、積極的に取り組む姿が見られる。
富山県	射水市	新湊小学校放課後子ども教室 学習チャレンジサークル	自分の苦手な分野を克服したい、または得意な分野をもっと伸ばしたいという各自のめあてに向かって積極的に学習に取り組んでいる。また、中にはまだ習っていない上の学年の分野にまでチャレンジする子もおり、互いに切磋琢磨する姿がよく見られる。
富山県	立山町	新瀬戸小学校学区放課後子ども教室	以前にもまして、朝の挨拶等がはきはきと元気に行えるようになった。
富山県	朝日町	あさひ野小学校放課後子ども教室	講師をしていただいた地域の方と子どもたちが町の中で偶然会ったときでも、子どもたちからあいさつを行うなど、地域と子どもたちの交流が深まってきた。
福井県	おおい町	名田庄地域放課後子ども教室	共同生活のため、時間内に宿題をしないといけないう意識が強くなった。
岐阜県	羽島市	正木小学校放課後子ども教室	学習活動を終えた子どもから順に、その日の活動(工作やゲームなどのレクリエーション)に入ることができるという決まりを作ったことで、学習活動に積極的に、また集中して取り組む姿勢を定着させることができた。
岐阜県	羽島市	小熊小学校放課後子ども教室	グループに分かれて学習活動に取り組むことによって、分からないことを教え合うという、学び合いの姿勢が生まれた。
岐阜県	坂祝町	坂祝町教育委員会	・担任から「君が宿題を出すようになった。」という声を聞くことがよくある。
静岡県	磐田市	竜洋放課後子ども教室	保護者からの意見では、教員以外の地域の大人の方や異学年の子ども達との交流が図れて、有意義な時間となっているとの報告を得ている。
静岡県	牧之原市	わくわく教室	保護者との連絡カードの内容について、担任も共有することで、当該児童の様子をつかんだり、アドバイスしたりすることができている。また、細かな情報のやりとりが保護者の信頼感を高め、保護者が家庭学習に協力的になった。放課後支援教室での子どもの「分かった」喜びが、授業への意欲に反映している。
愛知県	一宮市	キッズi葉栗北	宿題と遊びの時間が区切られ、前半に自主学習のカリキュラムを設けている。児童の受け身学習ではなく、宿題をし不明な点を指導員に尋ね、音読も児童自ら意欲的に指導を受けている。
愛知県	瀬戸市	道泉小学校せとっ子モアスクール	細やかなことにも興味を示して、新しい発見や自分に出ることが増えていくことを喜んでいる感じがする。
愛知県	瀬戸市	八幡小学校せとっ子モアスクール	宿題などを教室に来ている間に終わらせておくことで保護者に誉められ、嬉しそうにしている姿が見られる。この為か、宿題を自主的に取り組む姿が見られるようになった。
愛知県	刈谷市	小高原小学校放課後子ども教室	入室後、初めに学習時間を設けたことで、自主的に宿題や勉強に取り組む様子がみられる。
愛知県	西尾市	寺子屋にしお全般	宿題を忘れる子どもが少なくなった。 あいさつ、整理、整頓の心が育ってきた。
京都府	城陽市	古川「放課後子ども教室」	小学校以外の場所で、先生以外の方の話を聞く、学習に向かう姿勢や態度が少しずつ身についてきたように思う。書道、絵画、スポーツに分かれての活動は、各学習アドバイザーに指導方法や指示等を共通理解してもらいながら、支援に関わっていただいているので、子どもたちもルールを意識しながら、取り組む姿が見られるようになった。各コースに分かれることで、自分の希望するコースに参加し、少人数で活動することで集中して取り組む様子も見られるようになった。 学習プリントは、クイズ形式の資料から選択して作成しているので、自主的に取り組んでいる。
京都府	長岡京市	長五小すくすく教室(ほか8教室)	自主学習の時間を確保したことにより、参加児童の多くに、夕方までに宿題や復習等を済ませる習慣が身に付いた。
京都府	長岡京市	らくしんすくすく教室(ほか3教室)	算数や漢字学習のドリル、プリント、ゲームなどを通して、意欲的に学習に取り組む子どもたちの姿が見られる。
京都府	木津川市	相楽台ほっぷ広場(まなびゾーン)	学校の幅広いエリアを開放して実施している中で、図書室(まなびゾーン)を選択して入室する子どもたちが増加し、それぞれが思い思いの学習活動に取り組む、学習サポーターが子どもたちの自主性を尊重しながら学習活動を支援する形が定着してきている。

## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	教室名	学習支援活動の実施により子どもにみられた具体的変化(成果・効果)
京都府	笠置町	かさぎ・まなび塾	集まったらそれぞれに自発的に学習に取組始めるようになった。 また、年下の学年の子どもに丁寧に教えることができるようになった。 学力との関係分析はできていない。
大阪府	吹田市	佐井寺中学校区 東佐井寺小学校 「太陽の広場」	今までは、外で遊んでから帰宅。「早く宿題しなさい」と何度も言わないとやらないことが多かった。時間の使い方も、だらだらと宿題をはじめることが多かった。しかし、放課後子ども教室が毎日実施されるようになってからは、教室に参加して、友達と相談したりしながらでも宿題を必ず済ませてから、遊ぶようになった。自宅に戻っても時間的余裕ができ、家の手伝いもできるようになった。
大阪府	岬町	深日小学校	放課後学習活動に積極的に参加するようになり、宿題もきちんとできるようになっている。
大阪府	河南町	放課後子ども教室 河内	・学習の準備がはやくなり、学習中の私語も減った。 ・分からないところについて、学習アドバイザーの助言が素直に聞け、取り組めるようになった。 ・計画時間にやりきろうとがんばれるようになった。
大阪府	河南町	放課後子ども教室 中村	・同学年で教えあったり、援助し合えるようになった。 ・学習アドバイザーにすすんで本読みを聞いてもらったり、批評を受け入れるようになった。 ・学習時間内に宿題を済ませ、自主勉強を始める児童が増えた。
兵庫県	尼崎市	43箇所すべての こどもクラブ	宿題をしてから遊ぶということが生活習慣として身についた子どもが見受けられる。
兵庫県	伊丹市	花里小学校放課 後子ども教室	最初は皆と一緒に席に座り仕方なく宿題をする様子が続いたが、日が立つにつれ次第に意欲を見せ、子ども教室がはじまれば直ぐに座って宿題に取り組み、時間が終わってもまだがんばっている状況である。
奈良県	大和郡山市	ぱいかじ教室	異学年との交流が少し増えた。市の行事(例えば、金魚すくい大会)へ参加する子どもが増えた。
和歌山県	橋本市	城山小学校 ふれあいルーム	学習支援は宿題をする。終わったらこちらで用意したプリントをやるか、ドッジボール、お絵かき、トランプをする。 開放感から、バタバタ騒ぎ宿題をすることができない状況から、学習アドバイザー、ボランティアが子どもの目線でふれあい、話を聞き、ドッジボールがしたい、話をしたい、という気持ちを理解することにより、宿題をきちんと、はやくやって遊ぶメリハリができていきいきとした顔が見られるようになった。
和歌山県	橋本市	紀見小学校 ふれあいルーム	宿題をした後、こちらで用意した学習プリントをする。学年の担任と学習の打ち合わせをすることもある。ユニークな問題集を用意して学習アドバイザーが花まるやイラストを書いて採点することにより「もっと、もっと」「僕枚やった」と時間がくるまでずっと熱心にプリントをやり続けることができた。
和歌山県	有田川町	ウェンズデイクラブ	家庭ではなかなか進まない宿題も友達とすることで教えあいながら、競い合いながらすることに楽しさを感じ、短時間で集中して済ませることができるようになってきた。また、家庭からも、今までのように時間がかからなくなったというご意見をいただいた。
鳥取県	岩美町	さくらんぼキッズ	家庭学習の積極的に取り組めるようになってきた。 難しい問題にもあきらめずに取り組もうとする姿勢が育ってきた。 教室での学習に集中力が身に付いてきた。 途中で投げ出したりすることが少なくなった。
岡山県	津山市	北小子ども教室	子ども教室の開始時間より前に、子どもたちが来ることが多くなった。
岡山県	玉野市	はちはま子ども 楽級(はちはまこ どもがっきゅう)	小学校2年生が九九をよく覚えるようになった。また、学校の宿題に自主的に取り組む習慣が身についたようだ。
岡山県	笠岡市	陶山放課後子 ども教室(陶 山っ子)	さまざまな活動において積極的に取り組もうという姿勢がみられる子どもが増えた。
岡山県	真庭市	わくわくクラブ	上級生が下級生の勉強の補助をするようになった。
広島県	三原市	さいざき放課後 子ども教室 他	友だちと机を並べて自主学習(宿題)に取り組むことで、友だちの様子を見て宿題に取り組む姿勢がでたり、高学年が低学年にわからないところを教えるなど、お互いに高めあう状況がみられた。
広島県	尾道市	長江放課後子 ども教室	総合学習活動に積極性が出てきた。上級生の中には、下級生の安全面での配慮など気遣いが見られるようになった。宿題の提出状況が改善した。



## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	教室名	学習支援活動の実施により子どもにみられた具体的変化(成果・効果)
広島県	尾道市	浦崎放課後子ども教室	異学年の交流機会が増えたことで、学校での集団活動全体としてのまとまりがよくなった。上級生が下級生の世話をするなどの積極性が出てきた。宿題の提出状況が改善した。
広島県	尾道市	東生口放課後子ども教室	グループワークなどの活動で、興味・関心を持って取り組むなど、積極性が出てきた。地域の方々に親しみを持てるようになり、積極的にコミュニケーションを取れるようになってきた。
山口県	宇部市	吉部っ子クラブ	宿題の内容について、分からない点や自信がない箇所をすぐに質問することができるので、その日の学習を確認することができる。また、家庭での学習への連続性を期待することもできる。
山口県	宇部市	琴芝校区放課後子ども教室	宿題やプリントをさせることにより、宿題の提出状況の改善が図られている。また体験学習を通じて、学ぶことの楽しさや、喜びを感じてきており、毎回の放課後子ども教室の参加状況は大変良い。
徳島県	鳴門市	げんきっこ教室	プリントや宿題等が終わった後のゲームや読み聞かせ等を楽しみにしており、放課後子ども教室の学習と遊びの区別がしっかりとつくようになり、学習については、みんなが集中して取り組むようになった。
徳島県	鳴門市	里浦のびっ子ルーム	自分にあった問題集やプリントを持ち込んで勉強し、わからないところを学習アドバイザーから指導や支援を受ける。異学年の子どもが主体的に活動し自分で考えて勉強や読書をするようになってきた。また、漢字や計算の手作り100級テストを活用し自分で進んで勉強する意欲が高まった。
徳島県	鳴門市	撫養子どもクラブ	体操やミニバスケット等を週に1回ではあるが教えてもらっており、持久力であったり、テクニックであったりいろいろな面で進歩が目立っている。
徳島県	美馬市	穴吹小学校区放課後子ども教室	大人数で学習することで、個人のやる気が向上し、家庭における学習意欲が向上したと思われる。
香川県	さぬき市	神前子ども教室	・茶道の練習の結果、茶道の技術が向上するとともに感謝の気持ちを表現したり礼儀作法が大変良くなった。 ・パソコン技術やそろばん技術を習得し、暗算で計算ができる能力やパソコンの操作能力が向上した。 ・地域の大人との接触により、対人関係の持ち方を学習している。 ・同じ教室の児童との異年齢交流が自然にでき、人との接し方に幅ができています。
香川県	琴平町	こんぴら子ども塾	児童・生徒が地域の方々と積極的に話ができるようになった。
愛媛県	西条市	石根小学校放課後子ども教室	計算ドリルを4～6年とも一斉に行うため、自然と競争心が沸き、集中力も養われたと思う。学校の他の授業においても、今まで以上に集中力を持って熱心に勉強する児童も見受けられた。
福岡県	小都市	小郡小BBクラブ	基礎基本の充実を目指しているが、高学年になると、自信をなくしてしまいやる気を持っていない状況になってしまう。漢字のテストで、20点以下しか取れないという子が再テストに意欲的になり、そのための学習に取り組み始めたという例がある。
福岡県	小都市	味坂小BBクラブ	宿題を毎日提出するというのを学校との連携の中で確認し声かけをおこなった結果、参加児童は必ず来てすぐに宿題に取り組み、学校への提出ができるようになってきている。今後は家庭学習の充実という面で指導していく必要があると確認している。
佐賀県	神崎市	すべての教室	子どもたちが活動内容について、家庭で話すようになり、家庭内での会話が増えたと保護者から連絡が多くある。
佐賀県	神崎市	すべての教室	消極的な子どもが、外で講師の人を見かけて挨拶をしにいった。人に挨拶ができるような子どもではなかったのに変わったと保護者から言われる。
佐賀県	吉野ヶ里町	三田川小火曜学級、東脊振小木曜学級	両教室で「雨二モマケズ」の朗読に取り組んでいるが、成果を町民に知ってもらうため、町文化祭のステージ部門に出演し、町民に披露した。この練習を教室だけでなく家庭でも行う児童が多く見られた。
鹿児島県	南九州市	高田小三世代塾	読み聞かせを中心に放課後教室を行い、子どもたちに落ち着きが出てきたと同時に、読書量も増えてきた。
鹿児島県	南九州市	神殿ほたる太鼓	全校13名の小規模校で平日は、ほぼ全員がお互い教えあいながらの自主学習を行い、土曜日は伝統のほたる太鼓を練習している。お互いの教え合いの中で、学習の進め方を身につけ授業時間も積極的に学習し、複式学級の授業が、効率的に進められている。

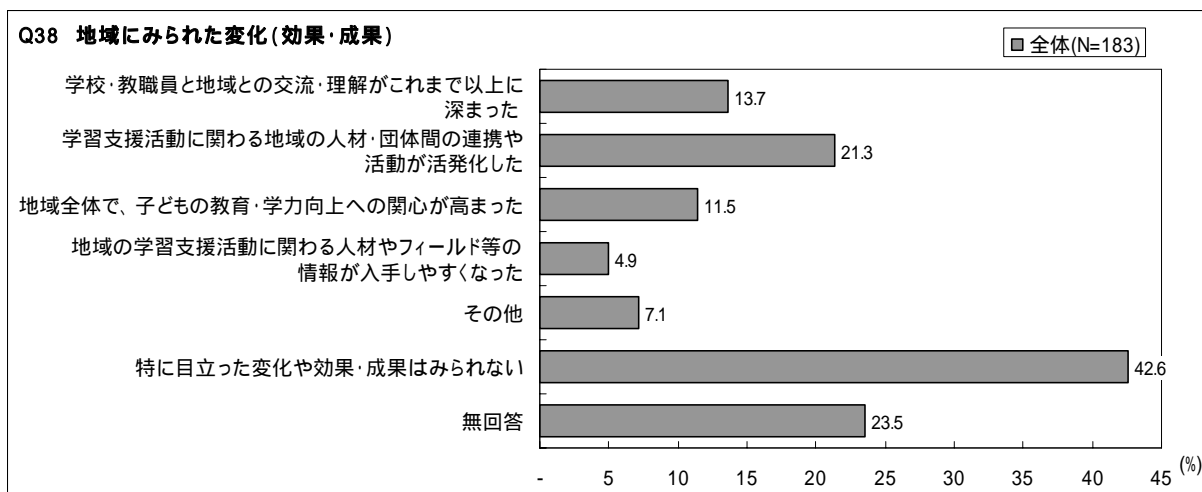
## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	教室名	学習支援活動の実施により子どもにみられた具体的変化(成果・効果)
鹿児島県	加治木町	柁城小学校放課後教室	低学年の書道で一学期は墨をこぼす児童が多かったが、学期を追う毎に上手になってきた。 学年毎に手本を示し、練習の成果を発表させている。
鹿児島県	加治木町	加治木小学校放課後教室	パソコン教室では、マウスの操作、キーボードの操作、文字入力等の練習後プリントで「百ます計算」をし、その後パソコンで「百ます計算」をさせている。興味を持ち、計算も速くなった。
鹿児島県	喜界町	あらきわらび教室	本町の遺跡・史跡の学習や探検することにより、ふるさとに誇りを持てるようになった。
沖縄県	浦添市	神森子どもチャレンジ教室	保護者より夏休み期間中に開催した学習支援に参加した子どもが、勉強がすごくわかりやすく、とても楽しかったと喜んでいると、教室の担当者へお礼の連絡が入った。保護者の話によると、今まで勉強が楽しいと言ったことがなかったため、子どもの生き生きとした話にとっても感激したとのこと。子ども教室の学習支援により、学ぶ意欲を育てることができたとうかがえる。
沖縄県	うるま市	与那城小学校学習支援教室	・学修支援教室での過ごし方、マナー等を身につけることにより、よりよい学習習慣を形成することができた。 ・仲間意識も生まれ、共に学んでいこうとする態度が育ってきた。
沖縄県	うるま市	高江洲小学校放課後子ども教室(学習支援 算数教室)	子どもたちにやる気がみられるようになった。
沖縄県	南風原町	南風原小子ども教室『わくわく広場』	・教室では、最初の30分から1時間は宿題をする時間。早く終わっても静かに読書をするよう指導。今ではすっかり定着し、子どもたちが自主的に取り組むようになったとのこと。

### 学習支援活動の実施により地域にみられた変化(成果・効果)

放課後子ども教室において学習支援活動を実施したことにより、地域に何か変化(成果・効果)がみられたかをみると、「特に目立った変化や効果・成果はみられない」が42.6%と最も高い割合となっている。

地域に何らかの変化が見られたという中では、具体的な変化として、「学習支援活動に関わる地域の人材・団体間の連携や活動が活発化した」が21.3%と最も多くから挙げられているほか、「学校・教職員と地域との交流・理解がこれまで以上に深まった」や「地域全体で子どもの教育・学力向上への関心が高まった」なども1割強の市区町村で実感されている。



学習支援活動の実施により地域に変化（成果・効果）がみられた事例

放課後子ども教室における学習支援活動の実施により地域にみられた具体的な変化（成果・効果）としては、27団体から34件の事例が挙げられた。

具体的な変化としては、学習アドバイザーやボランティア等として参加してもらえる人が増えたり、多くの団体から協力が得られるようになるなど、学習支援活動を充実させていく上で地域人材の発掘や各種団体との連携が図られ、地域の事業への関わりが深まるという変化が多くみられている。

また、学習アドバイザーと子どもが学校外で会っても挨拶を交わすようになるなど、地域で大人と子どもの交流が増えたという変化もみられている。

Q39 学習支援活動の実施により地域にみられた変化	回答事例数	回答事例に対する割合
全体(N)	34	100.0%
地域の人材発掘や協力者(団体)の拡大	19	55.9%
地域と子どもの交流の増加	7	20.6%
放課後子どもプランに対する地域の理解の深まり	5	14.7%
その他	4	11.8%

学習支援活動の実施により地域にみられた具体的な変化（成果・効果）

都道府県	市区町村	教室名	学習支援活動の実施により地域にみられた具体的な変化(成果・効果)
青森県	五戸町	子どもあそびの広場	子どもあそびの広場では情報紙を発行しており、地域住民へ活動をPRしている。そのことにより、地域住民から学習アドバイザーやボランティアなどの申し込みがあり、人と人とのつながりが少しずつできてきている。
宮城県	白石市	越河・斎川・大平・福岡小学校区放課後子ども教室	地域の皆さんが学校や子ども達とのかかわりを持つ機会が出来たため、これまで関心があっても関わる事がなかなか出来なかった方や団体等が少しずつ協力していただけるようになった。活動スタッフは、子ども達と直接かかわりを持つため、うまくかかわることができないこともあり、たくさん気付けられることができたようで、自分自身の指導力向上に努めたり、配慮の足りないところの改善等、子どもも活動スタッフも一緒に成長しているように感じられる。
福島県	本宮市	本宮市7つの子ども教室すべて	子どもたちとの交流を通して、地域の子どものたちと積極的にかかわっていたただける方々が増えるとともに、子どもたちとの交流に関心が広がってきたように感じる。
埼玉県	蕨市	蕨市放課後子ども教室	放課後子ども教室が開設されてから、各小学校の行事に積極的に参加協力してくれるようになった。
千葉県	柏市	花野井小学校	この学区内で学習塾を経営している方の仲間が、学習アドバイザーとして積極的に参加している。
新潟県	柏崎市	比角放課後クラブ・野田放課後クラブ	地域の大人達が、地域の子どもの顔をわかるようになり、子ども達への興味関心が増した。また、地域の子どもの達が、地域の大人達の顔をわかるようになり、大人達や地域への興味関心が増した。
富山県	立山町	新瀬戸小学校区放課後子ども教室	校区の方々に、放課後子ども教室に関心を持っていただき、何人かから学習アドバイザーとして参加してもよい、との打診を受けた。
富山県	朝日町	あさひ野小学校放課後子ども教室	講師をしていただいた地域の方と子どもたちが町の中で偶然会ったときでも、子どもたちからあいさつを行うなど、地域と子どもたちの交流が深まった。
岐阜県	坂祝町	坂祝町教育委員会	・小学校のクラブ活動の講師や年1回地域の方を講師として実施する「ふるさと教室」の講師が増えた。
京都府	城陽市	古川「放課後子ども教室」	毎週水曜日の放課後、学習活動後に3つの分野に分かれて活動を行っている。各コーナーでは地域で協力していただける方に依頼し、毎週欠かさず活動支援及び教材の計画、準備を積極的に担っていただいている。
京都府	長岡京市	神足すくすく教室	多くの人が学校に集まったり、目を向けたりするようになったことで、清掃活動や環境整備などでも学校を支援しようとする活動が生まれてきた。

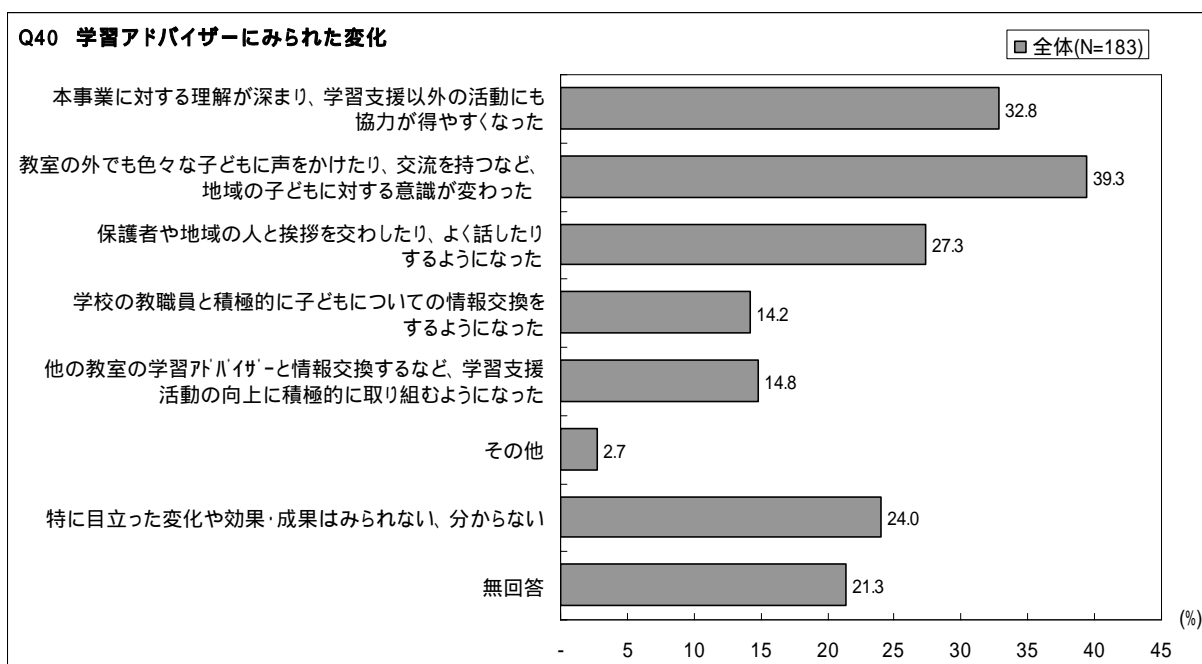
## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	教室名	学習支援活動の実施により地域にみられた具体的変化(成果・効果)
京都府	長岡京市	全10教室	子どもたちと協力者の間で、あいさつや声かけ等のさまざまなコミュニケーションが広がってきた。
大阪府	八尾市	南山本小学校区放課後子ども教室(わくわくプラザ)	地域の方がボランティアとして50名程度参加しており、ボランティアの方の生きがいにつながっている。自ら陶芸教室の支援内容を研修されたりしている。
大阪府	八尾市	北山本小学校区放課後子ども教室	地域の方が参加していることで、子どもたちが地域で挨拶をするようになった。
大阪府	大東市	大東市立諸福小学校放課後子ども教室	学校外で子どもたちから、親しく声をかけてくれるようになった。あいさつができるようになった。
兵庫県	尼崎市	43箇所すべてのこどもクラブ	地域の方々(団体を含む)にこどもクラブのことを知っていただいたことで、子どもの行き帰りの見守りなどにつながった。
岡山県	笠岡市	陶山放課後子ども教室(陶山っ子)	地域の目が今まで以上に子どもの活動や登下校の様子に向くようになり、子どもに対して励ましの言葉をかけるようになった。
広島県	東広島市	志和堀サルビア教室	地域ボランティアの協力を得ることで、地域の方が役立ち感を感じ、平日の放課後を楽しみに活動場所の公民館に集まるようになった。「子どもとの係わりを通して元気になった。」など、放課後子ども教室の協力に対して意欲的になった。
広島県	東広島市	高美が丘つくしんぼクラブ	参加児童と街中で出会うと、「つくしんぼの先生!」と言って、挨拶してくれるようになった。子どもと地域がうまく結びついているなどの実感がある。
広島県	東広島市	高屋東放課後子ども教室	これまでは、学校の児童との係わりは一切なかった公民館であったが、放課後子ども教室を通じて、地域と学校、そして、家庭(保護者)が結びついていった。子どもは、家庭や学校だけでなく、地域で育っていくという気持ちが高まってきた。
山口県	宇部市	吉部っ子クラブ	大学生にチューターとして学習活動に入ってもらうことから、地域の行事にも参加してもらえるようになり、地域の活性化につながった。
山口県	宇部市	琴芝校区放課後子ども教室	子どもたちと関わることが楽しいと思えるようになった。子どもたちの喜ぶ姿が見たい気持ちから、いろいろな体験学習のメニューを考えるなど、積極的に活動を行うようになった。
徳島県	鳴門市	げんきっこ教室	地域の人たちと年齢などの違いはあるが、仲間意識が高まり、放課後子ども教室だけでなくいろいろな活動の場にも、進んで参加している。
徳島県	鳴門市	撫養子どもクラブ	ボランティアに来ていた保護者との連携がうまくいくようになった。保護者や地域の方も子どもたちのためにできることをしようという気運があがった。
徳島県	美馬市	穴吹小学校区放課後子ども教室	ボランティア団体等の存在が認められ、多くの人々が様々なことに関わっていることがわかった。一つのことに地域で取り組むことにより、連帯意識が生まれた。
香川県	さぬき市	神前子ども教室	・地域のボランティアやアドバイザーとの交流を通して、子ども教室事業の内容や必要な人材の協力など地域で子どもを育てる良さや必要性の啓発ができてきた。
香川県	琴平町	こんびら子ども塾	大人も子どもも地域間で、あいさつや会話が増えた。指導者同士の横のつながりができた。
福岡県	小郡市	小郡小BBクラブ	地域のボランティアを募り学習の場に参加してもらうことを通して、学校と協議する機会が増え児童の様子も交流することができるようになっている。連携が必要な場面が増えることで、活動の活性化にも繋がっている。子どもの教育・学力向上への関心の高まりを生み出せるよう努力している。
佐賀県	神埼市	すべての教室	認知度があがったことにより、自主的に活動に参加したいという方が出てきた。
鹿児島県	曽於市	メセナっ子岩北教室	保護者が喜んでいて、
鹿児島県	南九州市	たかた三世塾	放課後子ども教室や土曜三世塾を通して、地域の方が学校に出てくる機会も多くなり、学校と地域共催の行事等にも多くの校区民が参加している。(収穫祭、ふるさと学寮、太鼓踊り等)
鹿児島県	加治木町	加治木小学校放課後教室	活動してきた写真を展示しているが、それを見られた団体が、私もと今年は手話活動が加わった。
沖縄県	うるま市	与那城小学校 学習支援教室	子ども達に確かな学力をつけさせたいと願う「読み聞かせサークル」の皆さんが積極的な態度と協力で学習支援活動を展開している。この活動の大切さを実感し、現在では本当の意味でのボランティア支援に徹している。
沖縄県	うるま市	高江洲小学校放課後子ども教室(学習支援 算数教室)	父母が、子どもの変化に気づき学校への信頼が生まれた。

学習支援活動の実施により参加した学習アドバイザーにみられた変化

放課後子ども教室における学習支援活動に参加した学習アドバイザーについて、活動前後で何か変化がみられたかをみると、「特に目立った変化や効果・成果はみられない、分からない」とする市区町村が24.0%となっているが、半数以上の市区町村からは学習アドバイザーに何らかの変化がみられている。

具体的な変化をみると、「教室の外でも色々な子どもに声をかけたり、交流を持つなど、地域の子どもに対する意識が変わった」が39.3%と最も多くから挙げられているほか、「本事業に対する理解が深まり、学習支援以外の活動にも協力が得やすくなった」(32.8%)や「保護者や地域の人と挨拶を交わしたり、よく話したりするようになった」(27.3%)なども比較的多くから挙げられている。

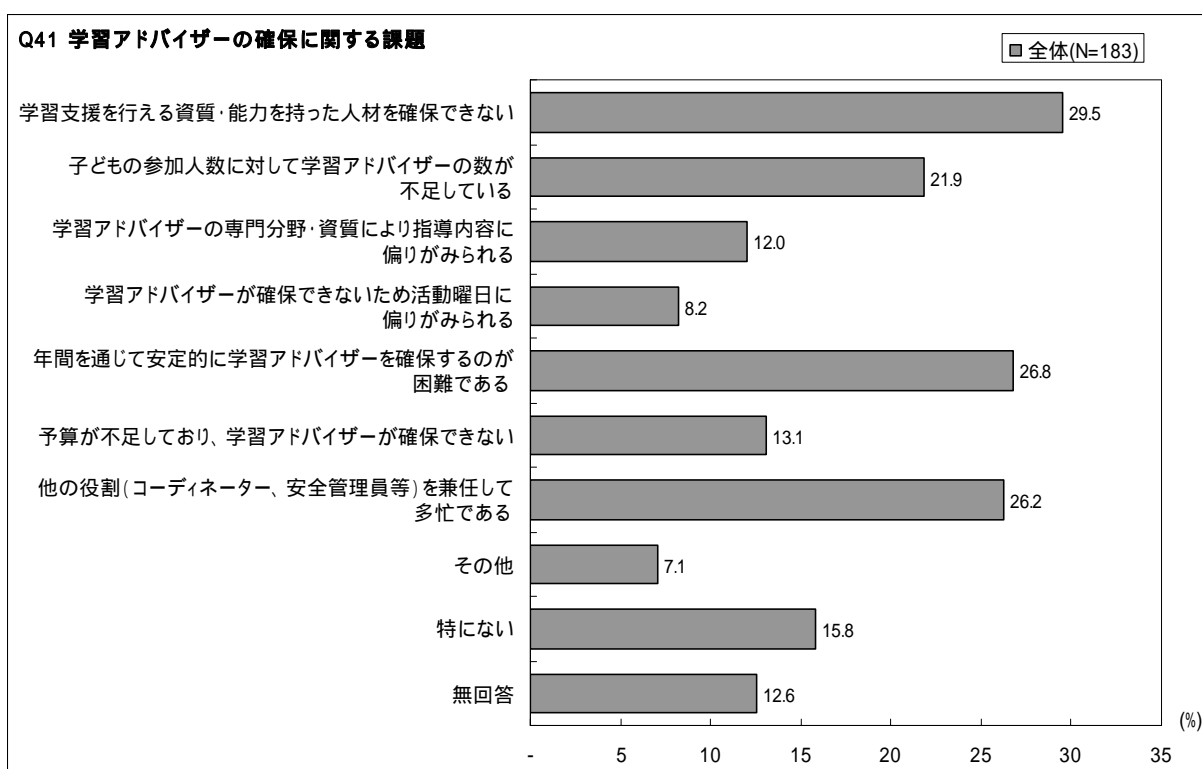


(6) 市区町村における学習支援活動に係る課題と今後の方向性

学習アドバイザーの確保に関する今後の課題

学習支援活動を行う上で必要な学習アドバイザーの確保に関し、どのような課題があるかをみると、「学習支援を行える資質・能力を持った人材を確保できない」点(29.5%)や、「年間を通じて安定的に学習アドバイザーを確保するのが困難である」点(26.8%)など、一定の資質・能力を持った人材を安定的に確保することが難しいという声が多くなっている。

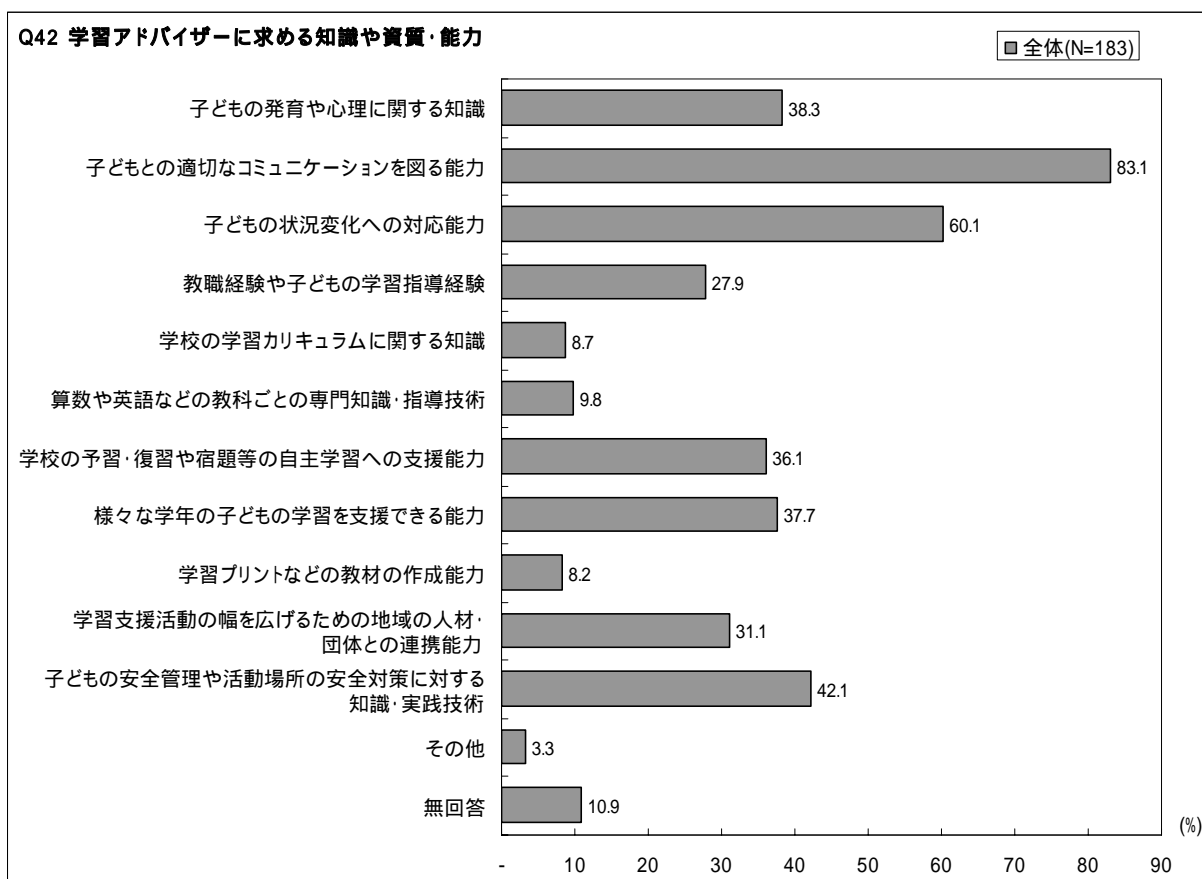
こうした人材不足ゆえに、事業に積極的に協力してもらえる人には必然的に様々な役割が課せられることとなりがちであるため、「他の役割(コーディネーター、安全管理員など)を兼任して多忙である」こと(26.2%)も比較的多くから課題として挙げられている。



学習アドバイザーに求める知識や資質・能力

放課後子ども教室における学習アドバイザーに対して市区町村がどのような知識や資質・能力を求めているかをみると、「子どもとの適切なコミュニケーションを図る能力」が83.1%と最も高く、8割以上の市区町村から挙げられているほか、「子どもの状況変化への対応能力」についても60.1%と比較的高い割合となっている。また、「子どもの安全管理や活動場所の安全対策に対する知識・実践技術」(42.1%)や「子どもの発達や心理に関する知識」(38.3%)なども上位に挙げられており、学習支援活動を行う学習アドバイザーとして、というよりは、放課後子ども教室における子どもの活動を見守るスタッフとして、子どもへの適切な対応や安全対策等が求められているといえる。

一方、学習支援活動を行う学習アドバイザーとしては、教科ごとの知識や指導技術よりは、子どもの学習指導に関わる経験・能力をより重視しており、「様々な学年の子どもの学習を支援できる能力」(37.7%)や「学校の予習・復習や宿題等の自主学習への支援能力」(36.1%)なども4割近くとなっている。



学習アドバイザーの資質向上を図る上での課題とその解決策

学習支援活動の充実に向け学習アドバイザーの資質向上を図る上で、どのようなことが課題となるか、またその課題を解決する上でどのようなことが必要であり、さらに課題解決に向け既に市区町村としてどのような対策が講じられているかについて、記述にて回答を求めたところ、76市区町村から回答が得られた。

a) 学習アドバイザーの資質向上を図る上での課題

学習アドバイザーの資質向上を図る上での課題としては、子どもに対する指導方法や子どもとの接し方についての習得が必要であるとの声が多く聞かれたほか、研修会や情報交換の場の充実についても多くから課題として挙げられている。

また、資質向上よりもまず人材を発掘・確保することの方が先であるという声も聞かれた。

Q43a 学習アドバイザーの資質向上を図る上での課題	回答団体数	回答団体に対する割合
全体(N)	76	100.0%
子どもの指導方法や子どもとの接し方の習得	32	42.1%
研修会や情報交換の場・情報提供の充実	19	25.0%
(資質向上よりもまず)人材の発掘・確保	8	10.5%
学習アドバイザーとしての役割の理解の促進	6	7.9%
その他	14	18.4%

b) 学習アドバイザーの資質向上に向けた課題を解決する上で必要なこと

上記のような課題を解決する上では、研修を充実する必要があるという意見が最も多く、これに次いで学習アドバイザー同士が交流したり情報交換したりできる場の創出や、現在活動している人からの紹介や退職教員への働きかけ等による人材の確保が必要であるという指摘が多く聞かれた。

Q43b 課題を解決する上で必要なこと	回答団体数	回答団体に対する割合
全体(N)	69	100.0%
学習アドバイザーに対する研修機会の充実	28	40.6%
学習アドバイザー同士の交流・情報交換の場づくり	15	21.7%
学習アドバイザーとなる人材の確保	13	18.8%
学習アドバイザーと学校・家庭との連携	5	7.2%
予算の充実	4	5.8%
その他	4	5.8%

c) 課題解決に向け実施している取組

また、こうした課題解決のために既に市区町村として取り組んでいることとしては、研修会の開催や学習アドバイザー同士あるいはその他のスタッフも含めた関係者間の話し合い・情報交換の場づくりなどが多く挙げられている。

Q43c 課題の解決に向け実施している取組	回答団体数	回答団体に対する割合
全体(N)	43	100.0%
研修会の実施	17	39.5%
関係者間の話し合いの場づくり	17	39.5%
コーディネーター等によるマネジメント	6	14.0%
人材確保を図る様々な工夫	6	14.0%
その他	4	9.3%



学習アドバイザーの資質向上を図る上での課題とその解決策（自由記述回答より）

都道府県	市区町村	資質向上を図る上での課題	課題解決に向け必要なこと	課題解決に向けた取組
青森県	むつ市	小学生が対象のため、子どもに対する接し方等の知識があればそれで足りると思う。資質よりも、安全管理員、学習アドバイザー、コーディネーターの役割を兼ねる方が多いので、人手が不足していることの方が問題である。	-	-
青森県	五戸町	子どもへの指示の出し方や接し方、子どものリーダーの育て方などを学ぶ必要がある。	学校や教職経験者との情報交換の場を設けなければならない。	運営委員会で情報交換をし、その内容について学習アドバイザーや安全管理員との情報交換会で話し合う。
岩手県	花巻市	学習アドバイザーの役割の明確化。	本事業のねらいの明確化。（学習能力の向上なのか、体験的学習活動の推進なのか）	-
岩手県	北上市	学習アドバイザーの資質向上をつながる学習や研修の場や機会を確保すること	学習アドバイザーの資質向上をつながる研修会等の情報を収集すること。研修会等が行われていなければ、自ら学習アドバイザーを育てるプログラムを創り出すこと。	-
岩手県	一関市	学習指導方法について、学習する機会がない	学習指導方法についての学習会や研修会への派遣や開催	-
宮城県	白石市	情報提供や研修機会の提供	国や県の情報提供や研修機会の提供	活動スタッフの話し合いの場の設定
宮城県	岩沼市	教職員の指導方針に関する情報交換や学習アドバイザー対象の研修会等の提供が不可欠である。	学校との連携及び学習機会の提供	学校との情報交換会・研修会等の開催及び参加の促進
山形県	白鷹町	資質向上のための研修機会を設定するのは町独自では困難である。	県主催等での研修機会の確保	-
福島県	相馬市	さまざまな子ども達のケースに合わせた対応をいかに行えるかが課題と思われる。	専門的な知識の習得と、実践が必要。	発達障害に近い子ども達もおおく参加しているので、そういった子ども達との接し方などの研修会に積極的に参加をしてもらっている。その上で、放課後子ども教室で実践し経験をつんでもらっている。
福島県	本宮市	子どもたちとの適切なコミュニケーション能力や子どもの状況変化への対応能力	研修会の実施、学習アドバイザー同士の情報交換	学習アドバイザー同士の交流・情報交換の場の設定
茨城県	結城市	子どもたちは、体を動かす活動が大好きで、プログラムに取り入れたいと思っているが、学習アドバイザーの体力的問題（高齢化）により、体を動かす活動に限界が生じている。	若い年齢の学習アドバイザーの育成や得意なジャンルごとに学習アドバイザーを充実させる。	中学生や高校生のヤングボランティアを育成している。
埼玉県	所沢市	配慮を要する子への対応	「地域の子どもは、地域で育てる」趣旨のもと、社会通念上必要なしつけを行うことの共通理解	リーダー会議、スタッフ同士の情報交換会等（教育委員会がオブザーバーとして参加している。）
埼玉県	新座市	学習アドバイザーによって、研修会等に参加できる時間が違うため、研修会等を開催しても参加が見込めない。	全般的な指導要領、緊急対策マニュアルの作成、配布	-
埼玉県	小鹿野町	学校教育、子どもへの理解	学校教育、子どもへの様子、現状を知らせる。	-

第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	資質向上を図る上での課題	課題解決に向け必要なこと	課題解決に向けた取組
千葉県	柏市	学習アドバイザーの役割の認識を深める。	今の子ども状況(あいさつやかたづけができない、わがままで自分かってである等)の把握をする研修の推進	学習アドバイザーの研修の実施し、互いの情報交換を行った。
千葉県	芝山町	資質向上以前に確保が課題	退職教員の把握	退職教員の把握
東京都	文京区	学習アドバイザーは専門的な知識・能力を持っているが、それを向上させるための研修や能力開発などの機会がない。	学習アドバイザーは一人一人が異なる分野で子どもに指導するので個人にあった研修・能力開発を行い、専門性を高めること。	-
東京都	世田谷区	安全対策に対する知識や実践技術に関する能力の向上	研修メニューの充実	安全管理に関する研修
東京都	豊島区	子どもたちが興味を持つような指導内容・方法。	子どもの関心や興味を把握し、様々な学習方法に取り組む。	スタッフとコーディネーターで定期的に打ち合わせなどを行い、内容の工夫を図る。
東京都	日野市	子どもとの適切なコミュニケーションを図る能力、子どもの状況変化への対応能力などの向上をめざす。	スキルアップのための研修などを行う。	-
東京都	清瀬市	教職経験のない学習アドバイザーの指導力向上。	実践経験を多く体験してもらう。	スタッフ研修会やコーディネーターによる個別指導を実施している。
神奈川県	平塚市	研修等学習機会の提供	委託している団体と連携・協力し、実態の把握及び研修の実施	-
神奈川県	藤沢市	当市では、放課後子ども教室において自習等に取り組む児童が少ないため、学習アドバイザーに求める資質そのものについても、今後の検討課題である。	放課後子ども教室の学習支援について、その内容・在り方を再検討する。	-
新潟県	長岡市	学校のカリキュラムを念頭に入れた上で、子どもたちの学習意欲、興味・関心を高めようとする構えをもって欲しい。	指導者の拡大とその方々の協議を通しての理解を深めたい。	子ども教室の関係者が学校と連携をとりながら、学校の要望等を指導者に伝えている。
新潟県	上越市	市全体として学習アドバイザーの研修や情報交換の機会を設けて、相互の資質向上に努める必要がある。	旅費等経費上の問題がある。	各教室ごとに研修や情報交換の機会を設け、成果や課題等についてメール等で交換し合い、共有するようにする。
富山県	高岡市	子どもとの接し方についての知識や技能	各種研修会への参加	県主催の研修会への参加を促している。
富山県	朝日町	当町では、1ヶ所のみでの開催であり、他のところの状況がどうなのかといった情報・知識不足であり、他市町村で行っている良い所を見習うところが必要。	県内や近隣市町村単位での研修会や視察等を行い、他で行っていることの情報収集。	県下での研修会は既に行われている。その際、事例発表も行われている。
岐阜県	羽島市	多様な学習機会の提供やネットワークづくり、及び積極的な情報提供。	学習機会に参加するための予算確保、情報の収集、及びさまざまな団体との情報交換の場の提供。	-
岐阜県	飛騨市	まずは人材の確保が大変だと思う。	県単位での研修の実施。	-
岐阜県	坂祝町	・現在既に解決に向かっていますが、「各学習アドバイザーの横の連携」が大切。人が人と接する以上、大なり小なり差が出る。その差をいかになくしていくかが課題である。	・指導者の連携を図るため、子どもの姿を交流する場が大切。具体的には「君は、しかるよりほめて伸ばすタイプ。」や「さんに指導するときは、『担任の先生に見てもらおうか。』と先生の名前を出し、連携をとって指導していることを子どもに分かると良い。	・毎月1回(第一月曜日)に全職員(教育委員会担当者・コーディネーター・管理人・学習アドバイザー全員)で職員会議を実施し、今月の反省から、具体的な児童の指導方法までを交流する場を設けている。

## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	資質向上を図る上での課題	課題解決に向け必要なこと	課題解決に向けた取組
静岡県	牧之原市	自分の指導方法や指導内容等について研修する機会がない。	学習アドバイザー同士の情報交換の場や時間の保障すること。	-
愛知県	一宮市	学習支援活動の幅を広げるための地域の人材・団体との連携能力の充実を図るべきである。	活動内容の幅を広げるため地域の知識者・ボランティアとの交流を図り学習支援内容の充実を図る。	-
愛知県	西尾市	要求を高くすると指導者の確保が難しい。	学習の範疇を広く捉え、指導者の自主性の尊重にも心がける。	子どもの安全管理に対する研修
愛知県	犬山市	指導力、教育知識、企画力	研修等	-
三重県	木曽岬町	公民館サークルの代表者や、NPO法人、町内の有識者等においている関係から、放課後子ども教室側から、資質向上を求めることはできない。	-	-
京都府	城陽市	子どもたちにわかりやすく指示してもらうこと、活動中は、率先して支援を行うこと、子どもたちに集団生活の中でのルールを学ばせること、学習支援の方法への意見をもつことが必要課題と考える。	学習アドバイザーとしての基本的な活動マニュアルを理解してもらう。活動支援については、年齢に関係なく同等であり、積極的に行動してもらう。	子どもたちの前で全体の指示を与える役割を各自が担っていくように、コーディネーターが当日に指示している。
京都府	長岡京市	子どもたちとの接し方や、意欲の引き出し方等のスキルの向上	研修の機会の確保、そのようなスキルを備えた新たな人材の発掘	研修の実施、人材募集の広報活動
京都府	木津川市	子どもの指導に関する研修会の実施	現状を的確に把握し、課題を明確にする	普段からのコミュニケーション（アドバイザー相互・事務局との関係） 実施状況の把握
京都府	笠置町	教えることより、子ども自身が自分で考えたり調べたりするように支援する。そうした関わりの必要性を自覚していただくこと。	関係者同士のコミュニケーションの充実。	学習支援の手法について事務局より提示している。また、事業日には毎回ミーティングを行っている。
大阪府	八尾市	時間と経費	研修や学習アドバイザーの交流	各地区放課後子ども教室意見交換会研修会
大阪府	寝屋川市	本市では、児童生徒支援人材による、学習支援活動を実施している。児童生徒支援人材には、退職教員や今後教員を目指す人材を募集している。その中で、また、児童生徒の前に初めて立つ支援者について具体的な活動を周知していく。	児童生徒支援人材の交流が必要である。経験のある人材から、未経験の人材への伝達等。	月一度の研修会等。
大阪府	田尻町	現在大学生3名に来ていただいているが、卒業後に次のアドバイザーを確保できるかは限らない。	継続的にアドバイザーを確保できるよう、後輩に働きかけていただく。	学校側からも働きかけを進めてもらう。
大阪府	岬町	学校現場の経験が少ないので、子どもの発達段階に応じた指導を行うこと	教員との連携	教員との情報交換
大阪府	河南町	参加児童その時々々の状況にあった指導。	-	活動後の反省で、できるだけ個別の児童の把握に努めるようにしている。
兵庫県	尼崎市	年度途中で、退職、採用となるパターンが時折ある。	研修の充実	集合研修、ブロック研修、職場研修を実施している。

## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	資質向上を図る上での課題	課題解決に向け必要なこと	課題解決に向けた取組
兵庫県	西宮市	始まったばかりで、具体的事例については今後の課題。	-	-
兵庫県	伊丹市	学習アドバイザーの役割や情報交換ができる場の設定	学習アドバイザーを対象とした研修の実施	子どもとのかかわりの中で資質を向上していく。
兵庫県	加東市	様々なプログラム等を企画・立案すること。	各教室での情報交換をしたり、県などが実施している研修会に参加する。	加東市の運営委員会の中で情報交換会をしている。
兵庫県	新温泉町	研修不足	研修機会の提供	-
奈良県	葛城市	資質以上に「教えたことの経験があるかどうか」が重視されるように感じる。それだけに難しさを感じる。	元教員の確保にむけ、県等により積極的な取組を望む。	-
和歌山県	橋本市	さまざまな子どもが集まる放課後子ども教室においては、特に発達や心理に関する知識が必要とされる。	研修会等を開催し資質向上を図る。	研修講座を年間4回開催する。
和歌山県	紀の川市	人数が少ない	事業内容にあった人材の確保	-
和歌山県	有田川町	子ども理解と指導力の向上についての学習会等が困難である。	学習アドバイザーの養成者(指導・助言者)の確保。	-
鳥取県	岩美町	現在、学習アドバイザーは1人であり、その確保に苦慮している。	学習支援ということにこだわらないで、幅広く声かけをしてネットワークを広げていくことが必要である。	-
島根県	美郷町	研修会等への参加	学習アドバイザーの配置に余裕がある事	-
岡山県	玉野市	低学年から高学年までの幅広い子どもの学習を支援でき、児童心理にも詳しい人材の確保。	退職教員等の人材確保。	退職教員等で組織する「教育振興会」等との連携。
岡山県	笠岡市	知識・知恵を活かした指導。コミュニケーション能力	コミュニケーション能力の向上。	長期休業時に専門家を招き、指導法を学ぶ。
岡山県	真庭市	多忙な中での学習アドバイザーなので資質向上の時間が取れない。	人材確保。	-
広島県	尾道市	ボランティアの方々が高齢者が多く、子どもの指導能力や子どもの変化への対応能力が不足している。また、放課後の子どもたちは気持ちが非常に開放的で、学校生活での態度とは異なり、指導に苦慮する事例が多い。	学校・保護者と連携し、基本的な集団活動のルールを守らせること。家庭においては、基本的な生活習慣を身につけさせること。	運営に支障をきたした教室では、保護者会において教室活動で困っている現状を報告し、保護者の理解・協力が得られた。また、生徒指導の教員に時々様子を見に来ていただき、注意をしていただいた。
広島県	東広島市	大人が学習アドバイザーになっている関係で、長年の経験によるプライドがあるため、なかなか研修だけでは解決できないことがある。	実践交流会の定期的な実施等	社会教育指導員(活動アドバイザー)の派遣
山口県	宇部市	学習アドバイザーの全員が教職員、またはその資格を持っているのではないので、子どもとの接し方等に不安を持つ人や、子どもが何を考えているか分からない人がいる。	子どもの心理学や、子どもとの接し方などの研修会の開催。または教職員等との情報交換。	-
山口県	萩市	発達障害などの特別な支援を要する子どもへの対応方法の共通理解。	専門的な研修会への参加。	県が主催する研修会への積極的な参加を呼びかけている。
徳島県	美馬市	教職員からの側面的な指導。中身のある研修。	-	-

## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	資質向上を図る上での課題	課題解決に向け必要なこと	課題解決に向けた取組
徳島県	石井町	子どもと同じ気持ちで共感できること	子どものことについて知る、知ろうとする	講習会を計画中(アイスブレイキング、ネイチャーゲーム他)
香川県	さぬき市	学習アドバイザーが多忙なので、本人の自己資質の向上にゆだねている。	-	-
香川県	琴平町	みんな多忙で、なかなか資質向上までできない。	-	-
高知県	日高村	児童個々の課題を把握すること。	学校・コーディネーターとの情報交換をすること。	定期的(月1回)に学校・各関係機関との情報交換会を開催している。
福岡県	小郡市	低学年が参加している教室では、子どもたちを受け止める柔軟な声かけや遊びの場面での関係づくり等の力が必要となる。落ち着かない状況にもなることがあり、対応が難しい場面もあった。学習以外の事柄ではあるが、子どもと関わる上では大きな課題だった。	子どもたちとのコミュニケーションを図る力の育成だが、慣れただき経験を積むことが必要な面がある。また、いろいろなボランティアに参加した経験豊富な人材を求める必要がある。	これまでの地域でのボランティア体験者の中から人材を求める。 様々なボランティアに積極的に参加してもらう。
佐賀県	神崎市	本事業に対する理解度。無断欠席や遅刻など。特に、活動を多くされている方に、たまに見られる。	本事業に対する学習アドバイザーへの説明会。目的や事例報告、成果などを説明することで理解が深まる。これは、市職員が説明すると、ただ市がやっている事業と思われがちなため、郡単位などで集まって、県や国から説明に来られた方が、効果があるように思われる。	無断欠席や遅刻などをされた方に関しては、事前に電話連絡を行い、確認をしている。
佐賀県	吉野ヶ里町	学習アドバイザーの意思統一	行政と学習アドバイザーの連絡会議の開催	-
鹿児島県	曾於市	活動時間・日数の確保	予算	-
鹿児島県	南九州市	子ども一人ひとりの能力に応じた学習支援の方法	学校・家庭との連携 子ども一人ひとりの会話等	各学校の教頭先生、担任の先生との交流・打ち合わせ
鹿児島県	加治木町	先進地の研修不足	予算不足	-
鹿児島県	喜界町	子どもの安全管理や活動場所の安全対策に関する知識等	研修会等での専門的な知識や他市町村との意見交換が必要だと思う。	-
沖縄県	うるま市	・子どもとの適切なコミュニケーションが図れるようにしたい。 ・定期的に研修会などがあればいいと思う。	いつでも明るく笑顔で接し、子ども達に丁寧に声ができる。	学習アドバイザーの役割について話し合いを多く持っている。
沖縄県	南風原町	・子ども教室での学習内容の幅を広げるための知識・技術。	・研修等への参加。	・コーディネーターが各教室の取組を紹介している。

放課後子ども教室で学習支援活動を実施していく上での課題

放課後子ども教室において今後学習支援活動を実施していく上での課題や、課題解決を図る上で必要なこと、あるいは課題解決に向けた取組として、113市区町村から具体的な意見が寄せられた。

**a) 学習支援活動を実施していく上での課題**

学習支援活動を実施していく上での課題としては、学習アドバイザーの確保が困難である点が最も多いほか、放課後子ども教室としての学習活動の内容や実施方法の再検討が必要となっていることや、様々な学年の子ども一人ひとりの状況や習熟度等に応じた適切な対応を図ることが難しいといった声も聞かれた。

Q44a 学習支援活動を実施していく上での課題	回答団体数	回答団体に対する割合
全体(N)	113	100.0%
学習アドバイザーとなる人材の確保が困難	57	50.4%
学習支援活動の内容や実施方法の再整理・検討が必要	16	14.2%
様々な学年の子どもへの適切な対応が困難	15	13.3%
学校との連携が困難	10	8.8%
活動場所・スペースの確保が困難	9	8.0%
学校行事との兼ねあいで活動時間が制約される	8	7.1%
(学習アドバイザーを確保するには)予算が少ない	5	4.4%
事業に対する地域の理解や地域との連携が不足	5	4.4%
その他	7	6.2%

**b) 学習支援活動の実施に向けた課題を解決する上で必要なこと**

上記のような課題を解決する上では、地域に働きかけ学習アドバイザーとなる人材を確保・育成していくことが必要であるという意見が最も多く聞かれたほか、学校や保護者との連携を推進し、活動についての理解を得ていくことが必要であるという声も聞かれた。

Q44b 課題を解決する上で必要なこと	回答団体数	回答団体に対する割合
全体(N)	100	100.0%
学習アドバイザーとなる人材の確保・育成	24	24.0%
学校・保護者との連携の推進	13	13.0%
活動に必要な予算の確保・充実	8	8.0%
その他	11	11.0%

**c) 課題解決に向け実施している取組**

また、学習支援活動を実施する上で既に行われていることとして、人材の確保に向け大学や関係団体等に働きかけたり、学習アドバイザーの研修や情報交換の機会を作ってスタッフ間の交流を促したり、あるいは学習の時間と遊びの時間を分けるなどプログラムを工夫したりといった取組がみられる。

Q44c 課題解決に向け実施している取組	回答団体数	回答団体に対する割合
全体(N)	55	100.0%
大学や関係団体等への働きかけ(人材募集)	13	23.6%
研修・情報交換の場づくり	12	21.8%
プログラムにおける工夫	12	21.8%
広報等での募集	8	14.5%
活動場所の工夫	2	3.6%
その他	8	14.5%

放課後子ども教室で学習支援活動を実施していく上での課題とその解決策（自由記述回答より）

都道府県	市区町村	学習支援活動実施上の課題	課題解決に向け必要なこと	課題解決に向けた取組
北海道	寿都町	学習内容に対応できるアドバイザーの人材確保	情報の収集と発信	町内広報媒体で情報発信と募集
北海道	豊富町	現在のアドバイザーが教員出身のため、今後の人材確保が難しい。	-	-
北海道	大空町	放課後子ども教室の子どもたちは、学校での勉強が終わり、自由に遊びたいと思ってくる子がほとんどである。また子どもたちは、学校の宿題や塾通いと多忙である。	左記の子どもの実態にあった学習支援活動をする。	学校の宿題や復習・予習等の学習支援活動をしている。
北海道	釧路町	学習内容における学年差や個人差にどう対応していくか	年齢に応じた学習プログラムの提供	学年ごとの学習プリントを学校から提供してもらう。
青森県	十和田市	人材の確保	謝金単価の上乗せ	-
青森県	外ヶ浜町	学習アドバイザーの確保が難しい。専門的な知識を持った人材の不足。	人材の発掘及び育成	各種団体に呼びかけて人材の発掘に取り組んでいる。
青森県	五戸町	豊かな体験を提供するために多様な活動プログラムを実施しなければならない。	地域のイベントで活動のPRをしたり、地域の活動について把握する必要がある。	地域のイベントで活動のPRをしたり、地域の活動について把握することに努めている。
岩手県	盛岡市	1～6年までの多人数の子どもたち個々の学習能力や意欲の格差に対して、均一かつ公平な指導を行うには、スタッフが不足している。 また、保護者の多様なニーズの把握が必要である。	アンケート等により、保護者の声を集約するとともに、教職を目指す学生などを中心にスタッフを確保する必要がある。	-
岩手県	花巻市	教職免許のない者による学習指導は、学校教育領域を侵害することにはならないか。学習環境を整えることはできるが、責任をもって「教えること」は大きな負担ではないか。学校での教え方と放課後子ども教室での教え方が異なることの危険性も考えられる。	学校（教育委員会）との方針確認。	-
岩手県	一関市	学習アドバイザーの人材が不足している。	人材育成と確保	-
岩手県	釜石市	学習支援活動を子ども達に押し付けてしまうと、子ども達が教室から離れていってしまう。	子ども達が自発的に学習を行うようにする必要がある。	-
岩手県	奥州市	主に退職教職員の協力を得て学習支援活動を行っているが、農村部では家の農業を行ったりと、退職後でも忙しい方が多く、人材の確保が困難である。	-	-
岩手県	平泉町	定期的な活動をするに当たり、固定されている活動場所がない。	場所を固定化すること。	放課後児童クラブとの連携を模索することなど。
宮城県	白石市	授業時数の増加により、放課後子ども教室の活動日や活動時間がなくなってくる。	放課後児童クラブ推進事業の活用。	検討中。学校の使用できる空き教室や体育館等の施設や活動できるスタッフ、予算等考えるべき課題が多すぎる。
宮城県	岩沼市	学習アドバイザーの人員確保と学校における学習指導内容に則った指導が必要と考える。	市広報紙等による公募と学校との連携	市広報紙等による公募
秋田県	由利本荘市	由利本荘市では23教室実施しており、実施地域が大きいので、地域によっては学習アドバイザーの配置ができないところがある。	地域の人材の把握に努める。	各地域の公民館や小学校の先生から紹介してもらう。

## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	学習支援活動実施上の課題	課題解決に向け必要なこと	課題解決に向けた取組
山形県	西川町	定期的な児童の参加と学習支援できる人材の確保	-	-
山形県	白鷹町	保護者の合意形成と学習塾など民間業者との調整	保護者等との十分な話し合いをすること。	-
福島県	相馬市	子ども達が放課後子ども教室で期待するのは、遊びやスポーツなどの様々な体験活動であり、学習面の時間はあまり必要としていない。その中で、いかに集中して学習に取り込ませるかが課題。	学習の時間があってこそその遊びを習慣化すること。	ほとんどの放課後子ども教室では、最初の1時間弱は学習の時間にとっている。宿題が終わった子ども達から遊びにはいるような流れができている。
福島県	本宮市	子どもの思いと学習アドバイザーの指導内容のずれ	本市の子ども教室では体験活動、交流活動を中心にした取り組みを進めているため、体験活動、交流活動を通じた学習活動であることを学習アドバイザーに理解いただく。	学習アドバイザーとの意見交換、子どもたちや保護者の意見・感想等の収集や実態の把握
茨城県	結城市	校外へ出かける活動日には、学習の時間がとれないこともある。また、学習内容をよく理解していない子や集中して取り組めない子への対応も課題。	活動に対する保護者の理解。時間をかけて対応する。	お迎えの保護者に学習の時間が取れなかったことを話して理解を求めている。指導員が1対1で助言し対応している。
栃木県	鹿沼市	教科等の専門的な知識をもった学習アドバイザーの配置	退職教員や教職をめざす大学生などの確保	-
埼玉県	蕨市	人材の確保。	事業への協力者の募集活動。	市の広報やケーブルテレビなどでの募集活動。
埼玉県	新座市	低学年と高学年に学力の差があり、同時に教えることが難しい。	学年別等の基準により、学習内容や教室を分ける。	自習時間を取り入れる。個別にプリント教材を行う。
埼玉県	小鹿野町	学習アドバイザーを確保すること	退職教員等を含め放課後子ども教室への協力を求める。	広報紙等により周知、募集を呼びかける。
千葉県	柏市	子どもの居場所づくりとして、この放課後子ども教室が存続するとするならば、現在の実施形態で目的に達することができのかを、じっくりと考えてみたい。	放課後子ども教室とこどもルームの連携がとれていない状況を解決することが急務と考える。	-
千葉県	富里市	安全管理員の確保が困難であることと、小学校での英語活動が活発となり、また学習指導要領の改正に伴い、教科として英語が導入されることにより、学習内容が重複してしまうこと。	安全管理員の確保と学習内容の見直し。	各地区の指導員や安全管理員から学習内容について意見等を聞いている。
千葉県	芝山町	学習アドバイザー等の人材確保	退職教員の把握	退職教員の把握
東京都	文京区	現在、宿題や習い事の補助、漢検チャレンジプログラム等を実施している。机に向かう習慣付けや学力向上のために保護者のニーズを把握し、それを実行するための学習アドバイザーを確保することが難しい。	保護者のニーズを調査することと、それを実行できる学習アドバイザーを募集する。	-
東京都	世田谷区	放課後の遊び場対策として、学習支援そのものの推進ではなく、体験・交流活動を通じた事業を実施している。より一層の事業の充実を図るためには、様々な資質を有する地域の方の参画が必要であり、今後はそれら地域の方々と連携する仕組みづくりが必要と考える。	新BOPの活動について、地域の様々な方に理解・協力をいただくための仕組みづくり。	各新BOPごとに地域・PTAの方々をメンバーとした新BOP連絡協議会を設置し、地域の方々に新BOP事業を広く周知し、新BOP運営や活動に理解と協力が得られるよう努めている。



## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	学習支援活動実施上の課題	課題解決に向け必要なこと	課題解決に向けた取組
東京都	渋谷区	放課後を楽しく過ごすことを目的に放課後クラブ事業を行っているが、参加は希望制にしている。工作、将棋・茶道等伝承文化をクラブ事業に取り入れたり、また宿題を自発的に行うことも習慣化しているが、いわゆるお勉強は子どもたちに人気がない。10月からは1校が学習クラブを開始。他は検討中。	-	-
東京都	豊島区	人材の確保。	広く活動を周知していくこと。	ホームページやチラシによる周知活動を行っている。 人材バンク登録制度。
東京都	練馬区	場所の確保	学校の協力	学校への働きかけ
東京都	八王子市	余裕教室が無いため校庭以外に放課後子ども教室を実施する場所がない地区がある。	-	現状では解決は困難である。
東京都	青梅市	教室の確保 支援員の確保	学校(校長)の協力	教室の確保については、校長にお願いするしかない
東京都	日野市	子どもの居場所づくりとして、もっと魅力のあるものにする。	地域の人たちとの連携を広げ、幅広い分野の人材を確保する。	特になし
東京都	東大和市	学力に差をつける方法は、本来の子ども教室の趣旨に反するのではないか。	-	-
東京都	清瀬市	宿題を主として実施しているために、子どもたちは宿題を早く済ませればよいと考えている。	楽しく学習することを意識させる。	宿題以外にも学習する必要があると考えている。
東京都	あきる野市	学習支援活動について、学校からの制約が多く、学習アドバイザーの導入が難しい。 学習支援活動を学校の補習的なものとするべきかどうか。	学校との話し合いを行い、学習支援活動について共通の認識を持つ。	-
神奈川県	平塚市	学習アドバイザーの人材確保	委託している団体との連携・協力	特になし
神奈川県	藤沢市	学校教育との整合性を図ること。	学校に、放課後教室の学習支援の取り組み内容等を理解してもらうこと。	学校にも運営委員会へ参画してもらい、放課後子ども教室の状況等を理解してもらっている。
新潟県	長岡市	・学校の予習・復習、宿題等の支援が必要とされているか把握すること。 ・指導者の持つ知識や技術を大切にしたいと考えるが、学校のカリキュラムに添った支援をできるようにすること。	・学校の予習・復習、宿題等の支援の必要性について、学校、子ども、保護者の意向を探るようにしていく。 ・学校で子どもたちが学んでいることを機会を見つけながら理解を深めていくようにする。	一部教室では、学校の意向を聞いた上での活動が図られている。
新潟県	柏崎市	子ども達の自立心の育成。	子ども達が自ら考え、行動するプログラムの提供。	子ども達による活動計画の作成・自主的な活動の実施。
新潟県	上越市	放課後子ども教室について、地域住民の理解・協力を得るための具体的な方策を講じることが急務である。	放課後子ども教室開設の趣旨、活動実態等を市民に周知するための広報活動に積極的に取り組む。	学習活動を支援していただく人材の開拓や、市内のNPOなど各種団体との連絡を行っている。
富山県	高岡市	人材の確保。活動のニーズがあるかどうか。	一律の実施を目指すのではなく、各地域ごとにニーズに合った活動の内容・展開が必要	各地域で必要と判断されれば展開していただけるよう、活動の内容や実施日については、各教室の判断に一任している。
富山県	上市町	教育関係者 OB、保育士の OB 等、なかなか人的協力が得られないのが課題である。	粘り強く、協力を求めていくしかないと考えている。	-

第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	学習支援活動実施上の課題	課題解決に向け必要なこと	課題解決に向けた取組
富山県	立山町	学習アドバイザーの量的確保。	-	-
富山県	朝日町	学童保育の感覚で参加している子もいるため、いかに全員興味を持って参加できる教室を実施するかが課題である。	参加している子どもが楽しみながら学べる教室(メニュー)の実施	長時間であるとしても集中力が途切れてしまうため、授業時間と同じ45分単位で2つの教室を行っている。
山梨県	甲斐市	現在、本市は地域の児童館で実施し、児童館職員の協力がなくと運営困難な状況下にある。よって、学習支援活動を本格的に実施するには 児童館以外で会場確保、 によって生ずる人員確保、 3小学校区のみで先行実施しているが、残りの小学校区の扱いが課題となる。	財源の確保 新たな会場として見込まれる小学校や各種公共施設管理者との協力が不可欠と考える。	-
長野県	駒ヶ根市	スポーツ中心、または趣味的な内容での子ども教室となっている。	-	教科の学習支援までに及ぶと、学校との連携が中心となり、地域で子どもを育てる意味では、学習支援にこだわっていない。
岐阜県	羽島市	学校から与えられた課題だけをこなすのではなく、幅広い分野の学習(文化・ボランティア活動・自然体験)の場を提供していくこと。	財政面の充実と、コーディネーターや学習アドバイザーなど、子ども教室に関わる人たちの適切な選任と、情報収集と実施に向けての積極的な姿勢。	-
岐阜県	飛騨市	子どもを預ければ面倒をみてもらえるから、という家庭の教育力の低下を懸念する。また、民間と競合してしまう。	体験学習の実施に限定し、学習支援活動までは手を広げない。	体験学習の実施に限定
岐阜県	神戸町	活動時間が短いため、子供たちは学習よりも遊びが優先する。また、学習支援を行える資質を持った人材を確保するのが困難。	学習を取り入れた教室のプログラムをきちんと作成し、子供たち・保護者に周知する。	-
岐阜県	坂祝町	・現在素晴らしい指導員にめぐまれているが、この指導員もいつまでも働けるわけではない。10年、20年を見越したとき、どのようにこの子ども教室の指導体制をいぞくしていくことができるかが、課題。( さんがいなくなったら子ども教室の質が低下したでは、×だと思う。)	・子ども教室ができて本年度4年を迎え、小学校を卒業して中学校に入学した子どもたちの中で、ボランティアとして参加する子が出てきた。その姿を認め励まし、積極的に受け入れ将来の指導者を育成している。彼女らの何人かが、親になって指導者として帰ってきてくれると信じている。	・中学生の中で子ども教室に興味がある生徒に積極的に働きかけて、ボランティアに来てもらっている。(学習面だけでなく、パルーンアート等の工作や行事等の補助など)生徒たちもとても喜んでおり、今後、高校や大学へいってもボランティアとして来てほしいと今から話をしている。
静岡県	磐田市	実施回数を増やすこと。	大学生など、若い年代の学習アドバイザーを確保すること。	今のところ無
静岡県	牧之原市	放課後の限られた時間のみ、勤務して下さる学習支援アドバイザーの人材確保	-	-
愛知県	一宮市	定員制を採っており、希望者全員に参加する機会を与えることができない。	アドバイザーの増員	-
愛知県	西尾市	指導者の意識の向上(楽しく学習させる指導法の習得)	研修機会を増やす。	学童保育の指導者と合同で研修会を開催している。
愛知県	美和町	教職経験者等の人材が十分に確保できない。 学習支援活動を行う部屋が、参加人数に対して狭い。 主に体育館での実施なので、冷暖房設備がなく、夏季・冬季は厳しい。	小学校の余裕教室等の場所の確保。学習環境の整備。	-

## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	学習支援活動実施上の課題	課題解決に向け必要なこと	課題解決に向けた取組
三重県	四日市市	学習アドバイザーの確保	-	-
三重県	木曽岬町	放課後子ども教室でおこなう学習支援は、勉学の支援というよりも、子どもたちに様々な体験をさせるということを目的に行っている。このことから公民館で開催されている各種サークルの代表者にアドバイザーを担っていただいているのだが、さらにこの範囲を拡大させていく必要がある。	現在、アドバイザーになってもらっていない各サークル代表者に放課後子ども教室の趣旨を理解してもらう必要がある。	機会あるごとに趣旨説明を行っている。
京都府	城陽市	学校からの要望でもある基礎学力の補充になるような学習活動の取り組みの実施。漢字検定、個性を伸ばしたり、身につけたりできるような活動の実施。	例えば、計算力を定着させる学習では、繰り返しの練習では子どもたちは興味がなく持続しない。活動方法の検討が課題となる。学習塾ではないので、どの程度の取り組みがアドバイザーの負担にならないかの検討も必要である。	子どもたちが、提供された活動の中で、自主的にできる内容の検討をすすめている。
京都府	長岡京市	開設回数の増加、土曜休業日などの学校施設の開放、下校時の安全対策	人材の確保、活動場所提供への学校の協力、保護者の理解と協力	人材募集の広報活動、学校訪問による協力依頼、安全指導に関する家庭への協力依頼
京都府	木津川市	学校の理解 人材の確保 必要経費(謝金等)の確保	放課後子ども教室事業に関する啓発活動(学校向け・保護者向け・地域向け) 補助金の継続	本事業の周知を図る機会を有効に活用し、様々な形での啓発活動を実施。(フォーラム・シンポジウムでの発表・保護者へのチラシの配布・地域への回覧等)
京都府	笠置町	教えることより、子ども自身が自分で考えたり調べたりするように支援する。そうした関わりの必要性を自覚していただくこと。	関係者同士のコミュニケーションの充実。	学習支援の手法について事務局より提示している。また、事業日には毎回ミーティングを行っている。
大阪府	豊中市	謝礼金の少なさゆえ、開催回数が制限されたり、アドバイザーの人数が制限され、教室への参加希望に応えることができない	1回当たりの謝礼金を3000円にしてほしい。アドバイザーの採用人数を5人にしてほしい	-
大阪府	吹田市	こどもの安心・安全な居場所づくりを目的として教室をスタートしてきたので、学力向上を目標においた学習支援活動を展開していくことは、教室スタート時の目的と異なってきているのではと考える地域の方々がおられる。	共通理解をしていくために、地域の方々との話し合いが必要。	各地域で定期的(月1回程度)に実施される連絡会議や学期に1回実施するフレンド(安全管理員)連絡会において情報交流の場として設定。
大阪府	八尾市	人材の不足	学生ボランティアの活用	近隣の大学に学生ボランティアの依頼
大阪府	寝屋川市	学習支援アドバイザーの人材確保。	校内での推薦や紹介。	年度末に各校の実績報告を各校校長より提出し、それに基づき、次年度の採用についての参考にする。
大阪府	大東市	適切な人材の確保	情報の共有	-
大阪府	田尻町	下校時の安全を確保するための見守りボランティアを増やす必要があるが、平日はボランティアの確保が難しい。	安全管理員など有償ボランティアの予算を確保できるように、補助限度額の引き上げが必要。	現在は学習支援アドバイザーと先生が手分けして下校時に付き添っている。
大阪府	岬町	学習支援アドバイザーを確保していくこと	学習支援アドバイザーへの謝金を増額すること	-
大阪府	河南町	学習活動を保障する教室の確保	学校のカリキュラムや集団下校時間と放課後子ども教室活動の時間の調整。	-

## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	学習支援活動実施上の課題	課題解決に向け必要なこと	課題解決に向けた取組
兵庫県	尼崎市	宿題をしたい子どもと既に終わった子どもや宿題をしない子どもが同室で活動しているため、学習中の子どもが集中できないことがある。	遊びの指導を充実する。	運動場や体育館を利用させてもらい、活動場所を分けている。
兵庫県	伊丹市	子ども達が楽しく学ぶための雰囲気づくりと学校での学習活動の課題などを共有すること。	学校との情報交換が必要	雰囲気づくりは、子どもを主体にした自主的な取り組みを進めている。
兵庫県	新温泉町	指導者の確保、予算不足	退職教員等の理解と協力。補助制度の拡大	-
奈良県	大和郡山市	指導者(支援者)の確保	-	-
奈良県	葛城市	指導員(元教員)の確保。21年度授業時間の上積みがされると聞いているので、その影響で「教室」への時間帯に影響がないかどうか。	県としてのより積極的な取り組みを望む。	-
和歌山県	橋本市	学習アドバイザーの確保。	地域にはたらきかけ、学習アドバイザーを募集する。	近隣の大学にボランティアの募集をする。
和歌山県	紀の川市	積極的に支援していただく人材を発見できない。また、協力支援者の方も毎日同じメンバーで人材の確保に難しさがある。	地域での経験者や支援者の把握をすること	-
和歌山県	有田川町	学習指導要領と各学校の教育課程の把握。学校での学習の進捗状況の把握。子どもの理解度の把握。学校との教材、子どもに対する意見交流の実施。	放課後子ども教室に関わるスタッフの学習会の実施。学校の先生方との懇談会の実施。	学校の先生方にできるだけ子どもの様子を知らせる。
鳥取県	岩美町	各教室の中に「学びの活動」を取り入れるかどうかは、実行委員会で協議している。児童の興味・関心を考慮した魅力あるプログラム作りを心がけているため、無理に学習の場は設定していない。現在3教室のうち1教室のみが実施している。	実施している教室では、学習アドバイザーは1名であり、現在特別に苦慮していることはないが、今後の地域のネットワークを活かして幅広く人材を確保していくことを考えていきたい。	公民館等のネットワークを活かし、幅広く人材を確保していくことを協議している。
鳥取県	三朝町	活動内容がマンネリ化している。新しい活動提供が難しい。参加児童が活動内容により減少する。学習アドバイザーの確保。関わる職員の勤務体制。	有識者との協議検討	コーディネーターとの協議。地域で取り組んでいる団体をお願いしている。趣味、特技としている方に依頼している。
鳥根県	美郷町	自然体験や地域の方との交流を主とした教室を基本としているので、体験活動をする中で学習を取り入れた内容設定	-	-
岡山県	津山市	15教室中1教室しか学校支援活動がない。ほとんど公民館での活動なので、体験的・文化的なものがほとんど。活発にするなら、学習支援活動をしてあげる気持ちがある方々が声と行動を起こしていく必要あり。また小学校の余裕教室の活用も。	地域の方の協力と教育委員会・学校の理解	-
岡山県	玉野市	必要な資質を備えた学習アドバイザーの確保と、公民館長等の理解。	退職教員等の人材確保。	退職教員等で組織する「教育振興会」等との連携。コーディネーター連絡会と公民館館長会との合同開催。
岡山県	笠岡市	多様なメニューと専門的指導員の確保。	コーディネーターの幅広い人脈。	-

## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	学習支援活動実施上の課題	課題解決に向け必要なこと	課題解決に向けた取組
岡山県	真庭市	学習活動支援は放課後子ども教室の一部分であり、時間的にも短時間であることから、活動内容に制限がある。	参加する子ども達が無理のないような学習支援を行う。そのためには学習アドバイザーの増員が必要。	自主学習を尊重し、みんなが学習する時間といった環境づくりに配慮する。
岡山県	矢掛町	個々の子どもに合った指導をしていくこと	学習アドバイザーに研修を行う	-
広島県	三原市	地域住民ボランティアを中心とした人材確保。	-	-
広島県	尾道市	教員経験者が地域に少なく、他の地域活動で多忙な方も多いため、継続的に来ていただける人材確保が困難である。地域のボランティアが中心となって様々な体験活動の提供することを目的としており、教員経験・子どもの指導経験を必須条件にはできない。	各教室で、中心的リーダーとして子どもの自主学習の支援と子どもの生活態度等の指導をしていただく教員経験者の人材確保。(その場合、安全管理員の扱いとなる。)	-
広島県	東広島市	教職経験者等の指導者の人材確保。また、各教室の指導者の力量の差があり、参加児童が学習アドバイザーの指導に従わないこともあるなど、教室運営に格差が生じてきている。各教室に専門的な知識・技能を有する専任指導者が必要。	人材登録と人材養成。	公民館活動を熱心に行っている地域人材との連携等。
山口県	宇部市	週に1回でも、子どもたちと関わる時間が持てる人材の発掘	地域での情報収集	-
山口県	萩市	学校や放課後子ども教室に長時間いることで、集中力を保てない子どもが多いこと。 また、子ども教室で宿題を済ませる児童も多く、子どもの家庭学習にかかる時間が減少すること。	子ども達の求心力を高める技術。 学びの時間と、遊びや体験活動の時間的バランス。	児童クラブ指導員との合同研修会などを開催し、子ども達との接し方など情報交換の場を設ける。
徳島県	鳴門市	学習アドバイザーの数が不足している。	-	-
徳島県	美馬市	スタッフの確保。活動スペースの確保	学校との協調。予算の確保。	-
徳島県	石井町	教室、学校、行政の連携	教室、学校、行政が同席しての話し合い	-
香川県	さぬき市	パソコンの使用や学校の教育活動と関わりがあるので、学校と学習アドバイザーとコーディネーターのつながりなどは、学校の積極的なかわりが重要。	現在のところ、学校の協力を得られているが、職員が変わった後が心配である。	-
高知県	日高村	対象が全学年になっている為、教室へ来る時間帯がまちまちで、宿題を終えて遊んでいる子どもの横で、宿題をしている状況がみられる。	宿題等の学習をする部屋と、遊ぶ部屋を分けることができればよいが、適当な部屋がないため解決できていない。	宿題等の学習を終えた子どもは、なるべく学校の運動場でスポーツ等をして過ごすように指導している。
福岡県	小都市	開設にあたっての担当部署を、行政の中でも充実させていく必要がある。ボランティアの確保などは今後も常に必要になってくることの一つである。地域住民の中には、いまだに家庭の問題ということで済ませる風潮は強い、意識変革や啓発の必要性も高まっている。	学校と家庭と地域の連携を強めていくような仕組みを、市としてどの部署で行っていくかを明確にしていき、全体としての推進組織を作っていくことが必要。専門家の意見を聞きながら方向性を見定めていくことも重要になってくると考える。	教育委員会を中心に学校地域への共通理解を徹底させていくように進めていっている。

第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	学習支援活動実施上の課題	課題解決に向け必要なこと	課題解決に向けた取組
佐賀県	神崎市	子どもたちを飽きさせないこと。	関わっている職員やコーディネーターが楽しいと思えるものをプログラムにすること。	毎回異なるプログラムを行っている。
佐賀県	吉野ヶ里町	教職経験者の確保	教職経験者の人材登録	-
長崎県	諫早市	人材確保 子ども好きで、年間を通して週に2回程度拘束され、報償も少ないという条件では見つからない。	雇用条件の改善	なし
長崎県	雲仙市	学習アドバイザーの確保	退職教員等の協力(退職しても、自治会や地域の役員など多種多様な役を担うなどして多忙である。)	-
長崎県	時津町	学習アドバイザーを安定して確保すること。	-	-
長崎県	新上五島町	退職教諭等の確保	放課後子どもプラン事業の実施にあたり、事業の趣旨説明や理解を求めること	-
大分県	豊後高田市	講座を実施したうえでの、具体的な効果の数値を求められること。	子ども達が、どのような目的意識をもっているのか、把握する必要がある。	-
鹿児島県	曽於市	活動時間・日数の確保	予算	-
鹿児島県	南九州市	・三町合併による規模の拡大と共通理解・共通実践・関係機関への啓発と連携・人材と予算の確保	・啓発活動と人材発掘・運営委員会実施と趣旨等の徹底・学校との連携強化	・実施校アドバイザーと学校関係者を含めた運営委員会(年1回)・コーディネーターをすべて各学校の教頭先生が担当している。
鹿児島県	加治木町	なぜ、放課後子ども教室なのかの理解不足	広報活動の活性化、学校との共通理解を図る。	-
鹿児島県	和泊町	本町では、現在の指導方法で教科を教えることの出来る方(教員免許を持った方等)を確保することは、人的確保や謝礼金の点から考えても不可能に近いことである。	-	-
沖縄県	浦添市	学力の向上を目指し、地域やPTAで学習支援活動を行う場合市販のテキストを利用したプリント学習が著作権にかかるという理由で使用できないこと。地域やPTAの方にテキストの作成能力を求めるのは現実的に厳しい。市販のテキストが使用できないとなると、学習支援に限界がある。	教室独自で学習支援を行うプリントを作成したり、学校で作成したドリルを提供してもらうなどの協力が必要。	-
沖縄県	うるま市	学習支援活動の幅を広げるための地域の人材・団体との連携強化を図ること	学習支援活動に対する理解と協力していこうとする雰囲気づくり	活動の活性化を図るために、広報活動(口こみ、たより等)に努めている。

今後の学習支援活動の展開に向けた予定・意向

各市区町村が今後放課後子ども教室で学習支援活動をどのような計画で実施していくか、その予定・意向を記述にて求めたところ、132市区町村から回答が得られた。

今後の予定としては、現在の取組内容を継続するという市区町村が最も多くなっているが、学習アドバイザーを増員したり活動日を増やすなど、現在実施している学習支援活動をより充実させていきたいとする意向や、あるいは現在は学習支援活動を行っていない放課後子ども教室にも活動を広げていきたいとする意向なども多く寄せられている。

また、放課後子ども教室での活動としてどのように学習に取り組むか、改めて内容を見直していくという意向や、あるいは「学習」を広く捉え、いわゆる机上の勉強だけにとどまらない多様な活動を展開していくといった考えを示す市区町村もある程度みられる。

Q45 今後の学習支援活動の展開に向けた予定・意向	回答数	回答団体に対する割合
全体(N)	132	100.0%
現状の取組内容の継続	49	37.1%
学習アドバイザーの充実や活動頻度・内容の充実	24	18.2%
他教室への学習支援活動の拡充	18	13.6%
学習支援活動の内容の見直し	12	9.1%
机上の学習に偏らない活動の充実	11	8.3%
関係者間の連携強化	9	6.8%
地域による主体的な運営	6	4.5%
その他	5	3.8%
実施しない・未定	7	5.3%
特になし	2	1.5%

今後の学習支援活動の展開に向けた予定・意向（自由記述回答より）

都道府県	市区町村	今後の学習支援活動の展開に向けた予定・意向
北海道	砂川市	専門性を必要とする学習支援は現在考えていない。
北海道	寿都町	体験活動を主体に考えているので、学習支援活動については現在の形を継続していく。
北海道	豊富町	現行維持で進める予定であるが、プログラム策定の中で検討する。
北海道	大空町	平日の放課後子ども教室は、これまでのように自学自習の支援を実施、長期休業中に自由研究の支援講座を検討したい。
北海道	釧路町	自ら進んで学習する態度を育むよう、自主学習を主体に取り組んでいく。
青森県	むつ市	学習支援活動については今のままで十分と考えている。
青森県	外ヶ浜町	高学年の学習支援は、ある程度の知識の持った方でなくてはならないため、低学年の宿題手助けを中心に活動していく予定である。
青森県	五戸町	工作や自然体験活動、読み聞かせ、軽スポーツなどを実施していく。また、季節の行事や地域のイベントに参加し、地域で育てる機運を高めていきたい。
岩手県	盛岡市	基本的には、保護者のニーズやボランティアスタッフの確保など各子ども教室の実情に応じて、実施するかどうかを選択する。実施内容も、各子ども教室の地域性に応じてコーディネーターを中心に企画することとする。教育委員会事務局では、そのための情報提供を行う。
岩手県	北上市	当市では学力向上を目的とせず、子どもたちの自主的な学ぶ意欲を尊重した学習支援活動を行っている。そのため、学校教育だけに留まらない、学校の授業を通して学んだことをさらに深める学びや、学校の授業では学べないようなことも学習支援の対象としている。今後もこうした姿勢で学習支援活動を続けていきたいと考えている。

## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	今後の学習支援活動の展開に向けた予定・意向
岩手県	一関市	学習アドバイザーの配置充実。また、学習アドバイザーがいない教室でも活動時間内に宿題の時間を設けるなど、子どもが宿題をする習慣を身に付けさせる。
岩手県	釜石市	基本的には子ども達の自発的な学習活動を支援する形で、安全管理員兼学習アドバイザーと連絡を密にして取り組んでいきたい。
岩手県	奥州市	地域の団体に委託し実施しているが、団体ごとにも学習支援活動に対する考えが異なる。必要性を認識しながらも、子どもがゆっくりと過ごせる場所を提供したい、多くの友人と遊ぶ時間を大切にしたい、と様々な葛藤の中で各教室が運営されている。全ての教室で学習支援活動の実施を望むが、各教室、地域の特徴も活かせるよう、内容を工夫しながら実施するようしていきたい。
岩手県	平泉町	来年度以降も継続して取り組んでいきたい。
宮城県	白石市	各小学校区で活動する指定管理者の主催事業として活動を継続予定。
宮城県	岩沼市	市主体ではなく、地域住民主体による放課後子ども教室運営体制(組織)の構築。(市においては、予算や人的物的支援を行う。)
秋田県	由利本荘市	現在は学習アドバイザーの設置教室が3教室のみである。今後、教室の要望を聞きながら学習アドバイザーの設置教室を増やし、より学習支援に力を入れた事業を展開していく。
山形県	酒田市	自学自習、いろいろな体験、コミュニケーションを大切にしていきたい。
山形県	西川町	子ども教室開催は毎日であっても、利用する子どもは不定期の参加であるため、現在のところ学習支援をを目的とした活動は仕組みにくいと考えている。
山形県	白鷹町	希望者が宿題を自主的にする場合の支援体制を継続して作っていく。
福島県	相馬市	今以上の学習支援活動の強化は、特に考えていない。
福島県	本宮市	子どもたちの要望等を取り入れ、体験活動、交流活動を通した学習活動を進めていく。おはなし会、英語、科学、音楽等今後実施したいと考えている。
茨城県	結城市	現状維持。自主学习する子どもたちを見守る。
茨城県	小美玉市	次年度は、より広範囲の児童を対象とし、学習支援に限らず様々な体験活動を提供できるよう事業計画を検討中である。
茨城県	河内町	可能な限り回数を増やしていきたい。
栃木県	栃木市	現在、国語と算数の二教科を教えてもらっているが、今後、英語を含めた他の教科も増やしていきたい。
栃木県	鹿沼市	それぞれの教室の活動において、独自に進めているので、学習支援等も活動の枠内に入れるよう指導する予定。
埼玉県	越谷市	越谷市では放課後及び週末における子どもたちの安全で安心な活動の拠点となる居場所を整備し、異年齢の子どもたちの交流、地域の大人との交流及び子どもたち自身の意思によるのびのびとした活動をつうじ、心豊かなたくましい子どもたちを育むとともに、地域の教育力の活性化を図ることを目的とし、放課後子ども教室を実施しているため、いわゆる「学習」を強く推進していない。
埼玉県	蕨市	各小学校区実行委員会の実施計画の意向を踏まえて計画を検討したい。
埼玉県	新座市	現在の教室を継続、拡大させ児童の学習を支援し、また楽しく学習できるようゲームやレクリエーション活動を用いるなど工夫して、児童の安全・安心な居場所づくりを図る。
埼玉県	小鹿野町	学習を広く考え、子どもたちの居場所づくりなることを第一に考えていきたい。
千葉県	木更津市	放課後子ども教室が「学習支援」と言うより「地域での子ども達の安全な居場所づくり」と言う意識で行っているため学習支援は特に考えていない。
千葉県	東金市	放課後の居場所として多様な活動ができる場として、本教室で学習を望む子どもたちに対し、わからない点があったときに適切なフォローを受けられるよう、今後も学習アドバイザーの配置を維持していく。
千葉県	柏市	市内全小学校および全児童を対象とした放課後子ども教室の拡大を考えている。
千葉県	富里市	学習内容について、英語に限らず、幅広い学習内容に変更していく予定。
千葉県	芝山町	現状維持での実施を計画
東京都	中央区	現在と同様、自主学习型として実施していく。
東京都	文京区	すでに取り組んでいる活動は継続維持し、漢検チャレンジなど子どもの学力レベルアッププログラムについては、他の資格(検定)等にも取り組んでいけるようにする。(例、数学検定)
東京都	世田谷区	地域と連携した体験・交流活動の実施を推進し、より一層児童の放課後の健全育成を図る。
東京都	渋谷区	具体的には未定
東京都	杉並区	放課後子ども教室は、地域のボランティアにより実施しており、地域の希望や地域性によって活動内容も異なるため、全ての放課後子ども教室での学習支援活動の実施は想定していない。しかし、学習支援活動の実施を希望する放課後子ども教室がある場合、その活動についての支援を行う予定である。
東京都	豊島区	各教室1～2種の学習教室を継続的に実施できるようにしていきたい。
東京都	練馬区	現状維持



## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	今後の学習支援活動の展開に向けた予定・意向
東京都	八王子市	各実施地区の実情に合わせて実施していく。
東京都	日野市	現状をさらに充実させるために、この事業に関連する研究機関等と連携を組み、研修等を行いスキルアップを図る。
東京都	東大和市	学習支援活動は予習復習程度で良いのではないかと。
東京都	清瀬市	平日以外にも教室を開催することを考えている。
東京都	あきる野市	退職教員の活用を図り、授業の補習的要素を盛り込むとともに、体験アドバイザーを活用し幅広い体験活動を提供したいと考える。
神奈川県	平塚市	委託している団体と連携をとりながら必要な学習支援活動を把握し、教室内容の充実と教室数の増加を検討していきたい。
神奈川県	藤沢市	今後も見守りを中心に、自習等への支援を実施していく。
新潟県	長岡市	当面は、指導者がもっている知識や技術等を教えてもらう現在の手法をとりながら、学校の教育内容と関連付けられるようにしていきたい。
新潟県	柏崎市	学力向上のみでなく、子ども達の健全な成長のために必要な支援を今後も継続して行う。
新潟県	上越市	各教室の学習アドバイザーや運営主体が計画したプログラムを尊重しながら、学習支援活動と、地域の教育資源等を活かした体験活動等取組のバランスを考慮して実施するよう働きかけていく。
富山県	高岡市	各教室に内容等は一任し、学習活動を展開したいという教室があれば実施してもらう。
富山県	氷見市	学習支援を強く進める意向はなく、地域から必要との要望があれば考えたい。
富山県	上市町	今後は、人材確保が最大の課題であるため、質の高い学習支援活動は行えないものの、現状の実施教室数を継続していきたいと考えている。
富山県	立山町	「学習支援活動」という言葉の範囲がよくわからない。スポーツ活動や体験活動も学習の一環と捉えている。来年度も同内容で実施していく予定。
富山県	朝日町	放課後における子どもたちの安全で安心な居場所の提供を目的とし、子どもたちが楽しみながら学べる活動を実施していきたい。
福井県	おおい町	例年同様に実施
山梨県	甲斐市	国からの補助が平成 21 年度までとなっており、それ以降の動向が不透明なため、しばらくは平成 22 年度以降の補助に係る動向を注視しながら、本市の考えをまとめていく予定。
長野県	駒ヶ根市	現在のかたちでの放課後子ども教室を継続していく予定である。
岐阜県	羽島市	現状維持(自主学习や学校から与えられた課題解決・宿題の支援)。
岐阜県	飛騨市	実施しない予定
岐阜県	坂祝町	・基本的には「自学自習」と言うスタンスで実施する。学習意欲が全くない子に無理矢理指導員が学習させることはできない。(学校の教職員ではないので…)
静岡県	磐田市	現在行われている 3 教室を、今後も同じ団体に学習指導を依頼しながら、継続して実施する方向である。
静岡県	牧之原市	市単独配置の「教員補助員」に放課後の指導を依頼することで、人材を確保している現状体制を継続する予定。
愛知県	一宮市	今後も現行どおり行う。
愛知県	瀬戸市	現在は、具体的な学習支援活動の支援活動を行っていませんが、今後何か出来ることはないか検討していきたい。
愛知県	西尾市	低学年が対象なので、学習支援活動をもっと幅の広いものと捉えて、指導者の主体性を重視したい。
愛知県	美和町	現在では未定
愛知県	小坂井町	現状をしばらく続けたい。
三重県	四日市市	子どもの自主性を尊重し、自学自習の支援を行っていく。(「放課後子ども教室」は、学習塾ではないので、補習授業とは異なる学習支援活動の実施)
三重県	木曽岬町	木曽岬町では、放課後子ども教室とは別に学習支援事業として小学4年生以上を対象に「土曜チャレンジスクール(算数をメインとした)」というものを実施している。この事業との連携を図りながら、勉強、体験、交流等、多方向からの支援ができるような形態を確保していきたい。
京都府	城陽市	学習アドバイザーとの打ち合わせで意見交換を行い、実施できる内容を精選しながら、教材の準備、活動の方法、支援の方法を計画していきたいと考えている。また、専門的な活動方法のアドバイスをしてもらう人材確保も必要だと考えている。
京都府	長岡京市	すべての校区において、年100日程度の学習支援活動と、年20日程度の体験・交流活動を実施する。それらを、できる限り多くの地域の住民の参画を得ながら進めていく。
京都府	木津川市	学校・PTA等からの要望があれば、小学校区ごとに実行委員会を立ち上げ、実施を支援していく。
京都府	笠置町	できれば、漢字検定などの個々の目標を設定し、目標に向かって学習に取り組めればと考えている。
大阪府	吹田市	全実施校において学習支援活動ができるように条件整備を検討中。

## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	今後の学習支援活動の展開に向けた予定・意向
大阪府	八尾市	希望のある地域には、学習活動の回数を増やしていただき、謝金等の金額を上乗せして実施していただく予定
大阪府	寝屋川市	全ての放課後子ども教室(24箇所)で週2回、学習支援活動を実施していく。
大阪府	大東市	体験活動に合わせて、全ての小学校で学習支援活動が充実できるように援助していく。
大阪府	田尻町	10月から始まったまなび舎 Kids 事業を H21 年度は通年実施する予定である。
大阪府	岬町	平日に加えて、土曜日等も実施していきたい。
大阪府	河南町	参加児童が少しずつ増えてきていることから、何らかの成果があったものと理解し、平成21年度もこのような形で実施していきたい。
兵庫県	尼崎市	自主学習の支援として学習の場の提供は今後も続けていくが、今後はもっと様々な団体や人々と連携することで、多様な体験を子どもたちができるよう運営していきたいと考えている。
兵庫県	西宮市	現在1箇所で開催している放課後子ども教室であり、地域の協力体制を維持し、継続していきけるのかどうか不明な状況にある。学習支援については、学生の協力が得られれば拡大できるかもわからないが、今のところ拡大予定はない。
兵庫県	伊丹市	学習支援活動については、今後も子どもの自主的な活動をサポートすることに重点をおきながら、楽しんで学べるような行事を企画していきたい。
兵庫県	加東市	現在と同様に実施していく。
兵庫県	新温泉町	実施の是非を含めて検討中
奈良県	大和郡山市	各放課後子ども教室運営委員会独自で運営してもらう。
奈良県	葛城市	21年度に授業時間の積み上げの変更があった場合は、大幅に計画を変更しなければならないと考えている。
和歌山県	橋本市	学習支援だけに放課後子ども教室をすすめるのではなく、広く様々な活動を子どもたちに提供したい。
和歌山県	御坊市	子どもの居場所の提供と考えているため、学習活動は居場所での活動の一つと位置づけて特別な指導は行わない。
和歌山県	紀の川市	一人でも多くの子どもたちが学習支援活動に参加できるように出来ないか考えている。
和歌山県	有田川町	まずは宿題に対する指導をすすめる。各教科の学習内容をあつかった活動内容を取り入れる。(ゲームやクイズ形式で各教科の学習内容を取り入れる、学校での学習を補助できるような理科実験・社会見学など)。また、全学年が合同で行うので活動内容に学習内容の確認や、学びの基本的なこと(疑問、気づき、思考、表現など)を意図して計画していく。
鳥取県	岩美町	可能であれば全ての教室の中に「学びの活動」のプログラムを入れていきたいと思う。ただし、学習塾と誤解されないように保護者や地域には取組の趣旨や活動状況を知らせていきたい。
鳥取県	三朝町	継続していく。さらに、内容を検討し参加しやすい環境をつくる。
島根県	浜田市	子ども教室で学習支援を実施するという市の計画は特にない。現在実施の子供教室も、遊び中心のものが多く、地域の人や異年齢での交流に重点を置いているため、学習支援は各子ども教室の自主性にまかしている。
岡山県	津山市	学習支援活動に対して取り組んでいる市の生涯学習課と連携して、幅広い子ども教室の活動となるよう取り組んでいく。
岡山県	玉野市	実情に応じ可能な楽級(教室)から実施する。
岡山県	笠岡市	色々なことに積極的に取り組める子どもの育成
岡山県	真庭市	真庭市の放課後子ども教室は、地域のボランティアとのかかわりを重視した内容で、自主学習や体験学習を進めて、地域力の向上を目指す。また、地域の人から知恵と協力をもらい、礼儀作法の勉強やボランティア活動も教室活動に含める。
岡山県	矢掛町	子どもたちが、それぞれ自主的に意欲を持って、取り組めるように支援をしていきたい。
広島県	三原市	事業実施2年目であり、事業の定着を図っている時期。学習支援を含めた活動の充実については、次年度以降の課題。
広島県	尾道市	当市では、多くの地域の方々の参画を得て豊かな体験活動を提供し、地域社会全体で子どもを育む環境づくりの推進を目的としている。その趣旨を踏まえ、教室における学習活動は、自主学習及び社会教育活動としての体験活動と位置づけている。九九や漢字等の暗記以外の学校教科に則した学習は積極的には行わず、自主学習の支援・体験活動の充実重点をおいて取り組む。
広島県	東広島市	実践交流会等を通じて活動プログラムの集約を実施する予定。
山口県	宇部市	ほとんど毎日放課後子ども教室を行っている地域と、月に2~4日しかできない地域とのばらつきがあるが、どの地域も今が精一杯の状況であるため、当面は現状維持で行っていく。
山口県	萩市	地域の実情やニーズにあった放課後子ども教室を計画していくこと。
徳島県	鳴門市	楽しく自主学習が習慣化できるような場所であり、体験学習や異学年の交流学習もできる場所にしていきたい。
徳島県	美馬市	地域からの声を受け、子どもたちにとって、プラスになるような事業計画や運営体制の整備。

## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	今後の学習支援活動の展開に向けた予定・意向
香川県	さぬき市	・学習アドバイザーの確保が可能な限り継続して実施したい。
香川県	琴平町	種目を増やしていく。
愛媛県	西条市	実施地域の地域性や協力者の関係で、各教室の活動内容は様々である。これからもそれぞれの地域の特性を活かした活動を行ってほしい。
高知県	日高村	学校・指導員・コーディネーターの連携を強めていく。(意見交換など)
福岡県	小都市	現在小中学校の一部で取り組んでいるが、全市的に広げていく。目的としては、自学自習の力と基礎基本の力を身につけることに重点をおくことで推進していった。
佐賀県	神埼市	現在増加傾向にあり、1教室が50名前後の教室もあり、10月からの後期は、初めて抽選を行い、参加人数を制限した教室があった。来年度からは、50名前後の教室に関しては、教室数の増加をしていき、参加を希望する子どもたち全てを受け入れることができるようにしていく計画である。
佐賀県	吉野ヶ里町	今後2、3年は現在のやり方で開催。
長崎県	諫早市	塾の代替にはしない。
長崎県	雲仙市	出来ることを出来ることからといったスタンスで取り組んでいる。(学習アドバイザーに対して、学習支援に対しての強要はしない。学習支援の適任者がいるようであれば、学習支援のプログラム化を図っていきたいとは考える。)
長崎県	時津町	学習支援活動を実施する予定はない。
長崎県	新上五島町	現状のとおり、月数回程度を予定し、宿題等の学習支援を引き続きお願いしていく。
大分県	豊後高田市	平成19年度からの放課後子どもプランに沿い、児童クラブへの学習アドバイザーを派遣したい。
宮崎県	西米良村	学力向上に重点を置いた学習支援活動を今後も引き続き行っていく。
鹿児島県	曾於市	NPO団体との連携による活動の多様化
鹿児島県	南九州市	・昨年12月三町が合併したため、これまで、1つの町で行っていた放課後子ども教室(7校)を市内すべての小学校区(21校)で実施予定。今後趣旨等の啓発活動や、関係機関・学校との連携、人材や予算等の確保等解決を図っていく必要がある。
鹿児島県	加治木町	放課後子ども教室の意図を理解しながら、保護者・学校・地域等と連携を図りながら進めていく。
鹿児島県	喜界町	本町は一島一町であり、1教室のみの開設で、宿題などを含めた様々な学習(例えば現在社会問題になっていることなど)に対応するため、協力体制や人材の確保に努めたい。
鹿児島県	和泊町	現在的方式(宿題の支援)で実施していく予定である。
沖縄県	うるま市	・継続実施の方向で進めていく。 ・学校に属する支援者に積極的に関わってもらう。
沖縄県	南風原町	・学習アドバイザーやコーディネーター等と相談して、取り組んでいく予定。

放課後子ども教室で学習支援活動を実施した感想や今後の学習支援活動に望むこと

学習支援活動を実施した感想や今後の取組に向けた要望等に関し自由記述を求めたところ、90団体から意見や感想が寄せられた。

学習支援活動に取り組んだ結果、子どもの学習意欲の向上や学ぶ姿勢の定着などの効果がみられたことから、今後も継続して取り組んでいきたいとする意見が多くみられた一方で、教科学習を中心とした学びの場を作ることは本来の放課後子ども教室の事業趣旨に合わない、あるいは放課後の居場所は子どもたちが自由に過ごせる場所とするべき、といった様々な考えから、今後放課後子ども教室において学習支援活動を継続していくことについては消極的な意見も聞かれた。

また、今後も学習支援活動を展開していきたいが、人材の発掘・確保が難しいという声や、予算(補助金)の拡充が必要との声も聞かれた。

Q46 学習支援活動を実施した感想や今後望むこと	回答団体数	回答団体に対する割合
全体(N)	90	100.0%
学習支援活動への評価(継続意向)	20	22.2%
学習支援活動への評価(継続には消極的な意向)	20	22.2%
人材確保の難しさ	13	14.4%
予算の充実が必要(補助事業の継続要望)	12	13.3%
活動内容の充実を図る意向	11	12.2%
地域との連携の重要性	8	8.9%
指導方法に関する助言・情報提供の要望	5	5.6%
保護者からの意見	4	4.4%
学校との連携の重要性	4	4.4%
その他	5	5.6%
特になし	4	4.4%

学習支援に取り組んだ感想・今後の取組に向けた要望等(自由記述回答より)

都道府県	市区町村	学習支援に取り組んだ感想・今後の取組に向けた要望等
北海道	大空町	放課後子ども教室の子どもたちは、学校での勉強が終わり、自由にすごしたいと思って参加している子がほとんどである。しかし、子どもたちは学校が終わってから宿題や塾通いと多忙である。放課後子ども教室では、宿題の支援活動や自主的学習の支援活動を行い、子どもたちの自由な遊びや、スポーツや文化活動等の体験活動を中心とした事業にしたいと考えている。
北海道	釧路町	自主的な学習態度が養われており、子どもの学習習慣の向上に効果があると思われる。本事業の実施に当たっては学校の理解と協力が不可欠である。より一層の協力が得られるよう、多方面から学校教育サイドへの趣旨の啓蒙などをお願いしたい。
青森県	五戸町	継続していくためには、財政面での支援が必要であるので、国からの補助を継続していただきたい。 また、児童クラブと子ども教室が連携、一体的に活動することは、子ども、保護者、行政ともにメリットがあるので、将来的に事業の一本化を検討していただきたい。
岩手県	盛岡市	教室運営に追われて、スタッフだけではプログラム開発が追いつかない現状にあるので、岩手県生涯学習推進センターなどで地域性に配慮したプログラムを研究し、提示していただければ、活動がさらに活性化されると考える。
岩手県	北上市	子どもたちの放課後子ども教室における学びは、学校教育の枠組みだけで捉えられるものではないと思う。事業の成果を可視化するために、子どもたちの広義の学習を支援する技術や成果指標が開発されることを希望する。
岩手県	一関市	学習支援も必要だが、子どもたちが学校や家から開放され、おもしろい場所も必要。異年齢の友だちや地域の人との交流のなかから、学ぶことも子どもたちにとっては大事なことである。学力向上だけを念頭に置くのではなく、子どもたちが楽しく安心して過ごせる居場所づくりであってもいいのではないかと。

## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	学習支援に取り組んだ感想・今後の取組に向けた要望等
岩手県	釜石市	大人が押し付ける学習支援活動は長続きしない。
岩手県	奥州市	個々の学習能力に応じた学習支援活動の実施のためには、学習アドバイザーの増員も必要である。増員のための人件費等事業費補助金の増額をお願いしたい。また、放課後子ども教室は今の子どもたちにとって多様な経験ができる貴重な場面であるので、補助事業の安定的、継続的な実施をお願いしたい。
岩手県	平泉町	今後も国からの財政的な援助を望む。
宮城県	白石市	学力向上の取組で各学校で授業時数が増加する予定であり、平日の放課後の時間がほとんどなくなる状況で放課後子ども教室を継続することは難しい。放課後児童クラブ推進事業のような夕方18時まで専門の職員を配置する運営で地域のボランティアを活用し、予算も充実させた事業形態に改善した方が望ましいと思われる。ただ夕方の時間は、主婦等のボランティアが集まりにくい。
秋田県	由利本荘市	子ども達は教えてくれる大人が身近にいることで、安心して宿題等自主学習活動に取り組めるようである。今後、多様な学習活動の要望に応えられるよう、人材の確保に努めていきたいと考えている。
山形県	白鷹町	宿題を学校ですることに対し、保護者の中で賛否両論があり、今後もその家庭や子どもの自主性にまかせていきたい。
福島県	相馬市	放課後1～2時間の放課後子ども教室であるため、子ども達には様々な遊びや体験を地域の大人と行うことをメインと考えてきた中での学習支援活動は、非常に難しいように思った。
茨城県	結城市	保護者からは宿題などを済ませて帰るため、助かるという声もある。
栃木県	栃木市	1年生は学校の勉強で精一杯であり、週1回でも放課後3時間の学習には耐えられない。上級生の学習する姿を近くで見せながら、徐々に慣れさせていく必要があり、長い目で対応していかなければならない。
栃木県	鹿沼市	どのような活動であれ、放課後の子どもたちが体験するものは、異年齢の交流や世代間の交流などさまざまな可能性があるため、学習支援の効果のみを評価しないでいただきたい。
埼玉県	蕨市	特にありませんが、平成21年度より週1回の実施を複数回にて実施できるよう各小学校区実行委員会に図りたい。
埼玉県	小鹿野町	各教室により実態が異なっているが、学校の中に地域の人が顔を出しやすくなり、子どもたちと地域の方々との関係も広がっている状況が見られる。学習支援に協力できる人が多くなるように、放課後子ども教室の活動を広く町民に理解してもらい、協力者が増えるようにしたい。
千葉県	柏市	望ましい放課後子ども教室とするならば、今よりも人・場所・財源・中身の充足の徹底を図ることではないか。
千葉県	富里市	子どもたちに、この放課後子ども教室に参加してもらい、体験学習などを通じ、できた喜び、学ぶ楽しさを感じてもらいたい。
千葉県	芝山町	子どもたちも放課後の活動ということで学習に対する意欲が高いとはいえない。本当に学力向上・成績向上を望む児童は塾に行っていると思われる。
東京都	豊島区	子どもの学習意欲が向上するような、また様々なことに関心を持てるような教室を展開させていきたい。
東京都	清瀬市	長期間継続的に放課後子ども教室を開催するためには、幅広い学習活動を提供して、子どもたちに興味を持たせることが大事だと思われる。
東京都	あきる野市	退職教員の人材バンク的な事業を国または東京都のレベルで実施していただけると、人材の選定・確保の幅が広がり、子ども教室の運営がさらにスムーズになると思われる。当初、「安全安心な放課後の居場所づくり」といったことで始まった事業であるため、子ども教室で学習支援活動をどの程度行うべきか疑問が残る。
神奈川県	平塚市	委託している団体と連携をとりながら、少しずつ拡充していきたい。
神奈川県	藤沢市	当市では、児童は、放課後の居場所として、また学校、塾や習い事の合間等の過ごし方の一つとして、放課後子ども教室に参加しているように見受けられる。
新潟県	長岡市	学校の宿題や予習・復習といった内容については、自宅で親の責任、見守りの中でやらせたいという声が大いし、適当な指導者も得にくい状況にある。
新潟県	柏崎市	今後も学習支援の定義を「学力向上」のみとせず、子ども達の成長の総合的な支援活動と位置付けていただきたい。
新潟県	上越市	学習アドバイザーや活動支援ボランティア等の人材と、教室開設場所の確保の困難さを感じた。また、保護者ニーズの実態把握も行う必要があると感じた。
富山県	高岡市	各教室ごとのニーズに応じた形で展開していきたい。
富山県	氷見市	学習支援をしている教室では、みんなと一緒に取り組む楽しさや大人に見守られる安心感などを子どもたちが感じている。このことがとても大切と感じている。

## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	学習支援に取り組んだ感想・今後の取組に向けた要望等
富山県	立山町	現在、学習アドバイザーに資格の有無等は要求していない。当地区でそれを要求すると、学習アドバイザーのなり手は(有無にかかわらず)ほとんどいなくなると思う。学習をそこまで要求されるのであれば、もはや社会教育の範疇ではなく、学校教育の延長として捉える事業となるのではないか。校区の有志の方の熱意により、子どもたちが目を輝かせて活動に取り組む教室もある。こういう教室が今後も増えていくようにしていきたい。
福井県	おおい町	児童の学習時間に来ていただけるボランティアの確保が難しい
山梨県	甲斐市	学習支援活動を行う上で、現場である学習アドバイザーと小学校教員とのコミュニケーションが不可欠と考える。小学校の教員が「自分たちの授業では学力がつかない」「自分たちの指導力に疑義を持たれている」という心配を与えると、うまくいかないと思う。よって、学習アドバイザーは、小学校の授業には口を出さず、宿題や長期休暇中の課題を見る程度にするのが良いと思う。
岐阜県	神戸町	当町の教室活動は、ほとんどが遊びで始まり遊びで終わるが、一人の子ども(中学年)が学校の宿題をやり始めると、全員がやり始めた。こちら側で教室のメニューを決めるのも重要だが、子供たちが自分たちで教室を作っていくことも大切だと感じた。
岐阜県	坂祝町	「子ども教室＝学習の場」ではなく、「子ども教室＝地域の方と安全・安心にいろいろな体験ができる場所」というスタンスで運営を行っていく。子ども教室が「公共の塾」になってはいけない。文部科学省としても子ども教室の学習の場で基礎学力を…という考えはもたないほうがよいような気がする。
静岡県	磐田市	実施回数は少ないが、保護者や参加児童の感想はおおむね良好であり、学習効果はともかく、地域の方と交流が図れたことは大きな収穫であると考えている。
静岡県	牧之原市	放課後の枠を超えて、ボランティアとして子どもたちの指導に協力いただいているアドバイザーへの謝礼等も可能にできるような規定を設けてくださるとありがたい。
愛知県	半田市	半田市においては、今のところ学習支援を主に子ども教室を運営していない。あくまで、子どもたちが自主的に宿題をする等範囲での支援を実施していく。
愛知県	西尾市	学校と似た学習支援活動は、施設面・人材面で難しい。地域で楽しく遊び、ふれあうことを主体とした活動にしたい。
愛知県	犬山市	学習活動とは、学校の授業の補完や宿題だけでなく、広く文化や芸術などにふれる体験活動も含んだものとして考えたい。この調査は、学校の教科にとらわれた設問が多く、調査の内容と範囲が狭い。
京都府	城陽市	本来は、地域の中から協力者やアドバイザーが確保でき、小学校の児童との交流の場として有効に活用していただきたい。その中で、技能や伝統を伝えていく機会にもなると考える。現在、運営を担っていただいている学校教育支援者(指導補助)の確保は不可欠である。学校側との連携も学校長及び教職員の皆さんの理解があってこそ、実施が継続できると考える。
京都府	長岡京市	放課後の時間帯に協力が可能な人材は、年代層や職種が限定的である。協力可能な年代層にあるはずの退職教員は、学校現場や他の取り組みからも「引っ張りだこ」で、思うように活用が図れない。ここに人材確保の困難性がある。また、社会総ぐるみで子どもたちを育てていくことの重要性を唱えても、当の子どもの保護者が「地域任せ」では、地域住民の理解が得られにくい。
京都府	木津川市	不審者による事件が多発し、地域での安心・安全な放課後の居場所の確保が難しい現代の子どもたちは、コミュニケーション能力が低下し、人との望ましい係りが不足していく状況にある。意図して安心・安全な居場所を提供していく本事業の果たす役割は大きい。その中に、地域の方々との「ふれあい」があることの意味が大きく、もっとも大事にしたい視点である。子どもだけでなく大人の成長の場ともなっている。
京都府	笠置町	校区の地理的条件から活動可能な時間に制限がある。時間的な融通がつかない点で、苦慮する場面もある。
大阪府	吹田市	学力向上を目的とすると、人材確保のハードルが高くなり継続した事業にならないと考える。
大阪府	八尾市	地域によって考え方に温度差があるため、地域の実情に応じて実施していく必要がある。
大阪府	寝屋川市	保護者からの問い合わせも多く、放課後子ども教室での学習支援活動実施は、概ね好評である。学習支援アドバイザーの人材確保が難しく、人材確保に向けた謝金等の充実が望まれる。
大阪府	大東市	参加児童が主体的に、授業ではなく、ゆったりと学習に意欲を持って取り組める場であるので、今後も継続されたい。
大阪府	田尻町	国語・算数の学習支援活動はまだ始まったばかりであるが、子どもたちの学力向上につなげることができればよいと思う。
大阪府	岬町	子どもたちの学力向上を図っていくためには、家庭学習の定着が不可欠である。そのためには、今後、家庭の協力を得ていくことも大切である。

## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	学習支援に取り組んだ感想・今後の取組に向けた要望等
大阪府	河南町	放課後子ども教室における学習活動も定着し、子ども達も積極的に取り組むようになった。当初目指した目標は達成できつつあるが、学習支援活動をさらに進めるためには、学校との意見調整が必要である。
兵庫県	西宮市	学習支援活動の前に、放課後子ども教室事業の維持が喫緊の課題。(実施場所・ボランティア・組織等については現在実施しているところを除いて全市的に不足)。
兵庫県	伊丹市	異年齢の集団ではあるが、できるだけ帰る方向が同じ班に分けるなど工夫しながら、子ども同士のコミュニケーションが図れるようにしている。次第に学習にも集中でき、何事も自ら進んで行うようになってきている。
兵庫県	加東市	子どもも指導者も笑顔で活動できている。何らかの理由で教室が中止になると、とても残念そうである。これからも地域をつなぐ教室を実施していきたい。
奈良県	大和郡山市	国庫補助対象事業として継続していくことを希望
奈良県	葛城市	スタッフが意欲を持って取り組むことが、この事業の一番のキーマンと感じている。常に励ましてはいるが、謝金面でも今のままでよいかどうか再考いただきたい。
和歌山県	紀の川市	物の大切さや常識・ルールといった生活していくうえで一番大切な相手を思いやる心や感謝の気持ちといった現在の子どもにかけていることを放課後子ども教室を通じて学べることの出来る支援活動にしていきたい。
和歌山県	有田川町	子どもの学力向上を目的とせず、宿題をさせることや、活動内容に各教科で学んだことを取り入れることで学習の補助となればよいのではないかと。
鳥取県	岩美町	放課後の子ども達の活動(学習支援や交流活動、物作り、スポーツ活動)が幅広く学校内で実施できる体制を望んでいる。学校と地域が協働して子ども達に関わる体制づくりを支援していただける事業を3年周期ではなく、今後はもっと長いスパンで考えていただきたいと同時に、金銭的な補助も併せてお願いしたい。
鳥取県	三朝町	子ども達の喜ぶ姿をみれば楽しい。
岡山県	津山市	まだ、始めたばかりなので頑張りたい。
岡山県	玉野市	学習支援活動は家庭の経済力等にかかわらず、学ぶ意欲がある子どもたちに学習機会を提供する意味からも大切であるが、今後、学習アドバイザーの高齢化が進む中で、後継者の確保、育成が課題である。
岡山県	真庭市	放課後子ども教室は、放課後や週末の子ども達の安全で安心な活動拠点(居場所)を確保し、様々な体験活動や学習活動を行う事業であるので、学力向上を目指すのは事業の趣旨とは違うのではないかと考える。
岡山県	矢掛町	宿題やプリント学習ではあるが、子どもたちが自ら学習をするという習慣づけができ、よかった。
広島県	尾道市	子どもたちの活動拠点(居場所)づくりの観点から考えても、塾のような機能を子ども教室に持たせるのは、馴染まない。学校の教科学習に関わることは、学年別の学習レベルや指導方法等、十分な学校との連携が必要になるが、地域ボランティアがそこまで関与することに無理がある。反復練習的な暗記学習に取り組んだ教室では、ある程度の成果はあがっており、継続していきたい。
広島県	東広島市	過度な学習支援活動にならないようにすることが大切。東広島市の方向性としては、学校と連携する中で、地域との交流活動や体験活動を通じて、子どもたちの規範意識を醸成することが重要であると捉え、今後も方向性が明確にして取り組んでいく。
徳島県	鳴門市	学習支援を行うことで、放課後の自主学習の習慣がついた。また、上級生と下級生の縦のつながりもできてきた。あまり、教科学習に絞ることなく、いろいろな体験学習も行うことで、地域人たちとの交流もうまくいっている。
徳島県	美馬市	各地域での温度差がある。子ども教室の必要性や重要性を理解してもらい、地域の声を聞くことで、この活動はより良いものになると思う。
香川県	さぬき市	子どもたちのゲーム・テレビ離れや、さまざまな技術の習得に今後も努力していきたい。
高知県	日高村	丁寧に字を書くことの難しい児童への対応の仕方を知りたい。
福岡県	小郡市	社会的に格差が大きく広がっているという状況の中、子どもたちの学力面の格差も広がっている。支援の必要な子どもたちも増えている中、この活動の意義は深いものがあると考えている。地域が子どもたちの課題を単に家庭の問題として済ませることなく、今後、団塊の世代を含む多くの人たちが子どもたちの抱える厳しい状況に目をむけ、支援を充実させることが、ますます大事になっていくことと思われる。
佐賀県	唐津市	現在、このアンケートで言う「学習支援活動」は英会話教室だけで、様々な体験活動の指導者を学習アドバイザーと捉えている教室が大半である。学習支援活動及びそれに係わる学習アドバイザーという役の捉え方が難しい。

## 第2章 放課後子ども教室における学習支援の取組状況に関する実態調査

都道府県	市区町村	学習支援に取り組んだ感想・今後の取組に向けた要望等
佐賀県	神崎市	現在の神崎市の放課後子ども教室(通称ドリームパーク)は、合併前の神崎町時代のものが元となっている。それが、昨年神崎市7校で開催できるようになった。今年は、神崎小学校の教室を2つに増やすなど参加する子どもたちは増え続けている。子どもたちがドリームパークに行きたいと思えるようなものを、これからも作っていきたいと考える。
佐賀県	吉野ヶ里町	町文化祭での暗唱は町民からも好評であった。通常の教室では、落ち着きのない児童も見受けられ、他の児童に迷惑をかけているほか、一部の保護者には「児童一時預かり所」のような感覚で教室に参加をさせているケースが見られる。
長崎県	諫早市	宿題をして帰宅することで保護者からは感謝されている。しかし、本来宿題は家庭教育であり、その習慣化は学力向上に欠かせない。子どもの教育の一義的な責任は保護者にある。保護者が本来の役割を見失うことで、家庭の教育力の低下を促進しかねない。
長崎県	雲仙市	放課後子ども教室において学習支援ができれば、助かるといった声は保護者からもある。
大分県	豊後高田市	放課後子ども教室に参加する子どもは、講座によると、学習意欲のある子と、学校の授業ではないリラックスした学習を望む子と様々で、一様に指導することが難しい。
宮崎県	五ヶ瀬町	これまで、スポーツ少年団活動の後、自宅で宿題などをしていたが、疲れなどもありなかなかできない子どもがいたが、子ども教室で宿題をやることできちんとできるようになり、また、自宅での生活にゆとりが生まれた。
鹿児島県	曾於市	予算上限50日廃止(鹿児島県内)
鹿児島県	南九州市	子どもたちが安心して、楽しい学校生活を送っている。また過疎化が進み、帰っても周りに友達のいない子どもたちにとって、充実した生活ができています。今後地域のよさを活かして、充実した、放課後子ども教室が行われるよう趣旨徹底を図って行くことが大切である。
鹿児島県	加治木町	保護者、地域の人材、退職教員等の協力で楽しく実施できた。今後は、学校と連携を図りながら前向きに考えていきたい。
鹿児島県	和泊町	宿題から子どもたちの学習内容やレベルがわかり、子ども教室のプログラムを企画する上でとても役にたち、子どもたちとコミュニケーションもとれ、子ども教室を運営する側からはとても役に立っている。
沖縄県	浦添市	子ども教室での学習支援活動について、著作権にかからないテキストの提供等ができるようにしてほしい。
沖縄県	うるま市	・開かれた学校づくりの推進を図る取り組みの一つとして充実強化していただきたい。 ・予算がもっとあれば募集しやすい。
沖縄県	南風原町	・宿題を自主的に取り組む姿勢を身につけさせることができたことは評価できる。